

国際基督教大学アジア文化研究所歴代活動一覧 (1958-2021) 編者序

小栗宏太

国際基督教大学アジア文化研究所は、2023年3月をもって、長らく活動を行ってきた本館255号室から移転することに決まった。2023年4月からは、2022年12月竣工の新館「トロイヤー記念アーツ・サイエンス館」の4階にて、本研究所は新たな歴史を歩むことになる。

移転のための引越し作業の中で、これまでの関係者がのこした膨大な資料を通じて、研究所の過去を振り返り、積み重ねられてきた歴史に想いを馳せる機会を得た。以下に掲載するのは、元々は研究所助手一同が、引越しに際して研究所内の資料を整理するための参考資料として制作された、アジア文化研究所の歴代活動一覧である。本紀要の巻末に第2号以降掲載されている「活動記録」をもとに、前身となる「アジア文化研究委員会」が発足した1958年から前号刊行時の2021年末まで、刊行物、開催イベントなど、600以上の活動をまとめている。シンポジウムや紀要については、各講演タイトルや掲載論文名も記した。とりまとめにあたっては「委員会」結成40周年にあたる1998年に刊行された紀要別冊9号に掲載された「ICUアジア文化研究所年譜」(1958-1998)も適宜参照した。

本一覧の作成作業は小栗が個人で行なったが、短期間でこれだけの活動一覧をまとめることができたのは、ひとえにこれまで本紀要の「活動報告」欄に携わってきた関係者の労力あってのものである。歴代の研究助手をはじめとする全48号、別冊全21号の編集スタッフすべての名前をあげることはできないが、ここに感謝の意を表し、この活動一覧の編者序としたい。



本館255号室(2023年1月24日撮影)

ICU アジア文化研究所歴代活動一覧
(1958年-2021年)

年月日	活動内容	活動分類(+備考)
1958年10月30日	『アジア文化研究論叢』(現『アジア文化研究』)第1輯 和田清「達延汗について」 岡田英弘「元の順帝と濟州島」 海老沢有道「天保十五年琉仏交渉日本史料」 Roy Andrew Miller, “The Kalyāṇamitra of the Ghoom Monastery: An Oral Central Tibetan Text”	刊行物(紀要)
1959年4月 ～1960年10月	「日本における思想史方法論研究講座」 1「東西文化の交流における宗教社会学の意義について: マックス・ウェーバーの「儒教とピュウリタニズム」を中心に」大塚久雄(東京大学) 2「日本思想史における外来思想受容の問題」家永三郎(教育大学) 3「思想史の方法概念としての世代の概念とその取扱いについて」高坂正顕(京都大学) 4「日本思想史の世界史的理解」中村元(東京大学) 5「対象としてのアジアと方法としてのアジア」竹内好(元都立大学) 6「転向研究の方法」鶴見俊輔(元東京工業大学) 7「日本における伝統的宗教意識」西谷啓治(京都大学) 8「思想史の考え方について: 方法・範囲・対象」丸山真男(東京大学) 9「歴史的観点より見た近代日本」E. ライシャワ(ハーバード大学)	連続講座 *計9回。『思想史の方法と対象』として出版(9を除く)。
1960年9月30日	『アジア文化研究』2 Paul Tillich, “Religion and Culture” W. A. Visser’t Hooft, “Syncretism as a World Problem” 石原謙「東洋におけるプロテスタント・キリスト教の歴史的理解について」 Roy A. Miller, “A Note on the Sources of Huc’s Souvenirs” 海老沢有道「“神学”という日本語について」 Kiyoko Takeda Cho, “An Essay on Kagawa Toyohiko—The Place of Man in his Social Theory—” 松村豊「日本の近代化と岡倉天心—その伝統主義の現代的意義—」(学生論文)	刊行物(紀要) *活動報告と助手も含むスタッフリストはこの号から掲載。
1960年	<i>Christianity in Japan: A Bibliography of Japanese and Chinese Sources (1543-1858)</i> , Compiled by Arimichi Ebisawa	刊行物

1961 年春	「日本における思想史方法論研究講（第 2 回）」 登壇者：マリウス・B. ジャンセン、ロバート・N. ベラー、ロナルド・P. ドーア、ジョージ・ベックマン、ロバート・J. リフトン、モーリス・E. トロイヤー	連続講座 * 1961 年春開催。 時期不明。紀要 3 号に特集として掲載。ベラー講演の日本語訳は、のちに『比較近代化論』（1970 年）に収録。
1961 年 12 月	『思想史の方法と対象』 武田清子編	刊行物
1962 年 10 月	『アジア文化研究』 3 【Studies on Modernization of Japan by Western Scholars】 Marius B. Jansen, “On Studying the Modernization of Japan” Robert N. Bellah, “Values and Social Change in Modern Japan” Marius B. Jansen, “Conciliar Thought In Late Tokugawa Time—in the case of Sakamoto Ryoma—” Ronald Dore, “The Thought of Men: the Thought of Society” George Beckmann, “Political Thought and the Meiji Oligarchs” George Beckmann, “Japanese Adaptations of Marx–Leninism–Modernization and History–” Robert J. Lifton, “Youth and History–Individual Changes in Postwar Japan–” Maurice E. Troyer, “Some Value Consequences of Higher Education”	刊行物（紀要）
1962 年 10 月	「婦人解放をめざして私の歩んできた道」 山川菊江	特別講座 * 紀要 4 号に論文として掲載。
1963 年 4 月～7 月	「インドの近代化」 蠟山芳郎	特別講座 * 紀要 4 巻に論文として掲載。
1963 年 3 月	「台湾の近代化とキリスト教」 高俊明（台湾基督長老教会 牧師）	特別講座 * 紀要 4 号に論文として掲載。
1964 年 2 月	「社会運動における人間の問題」 荒畑寒村	特別講座 * 紀要 4 号に論文として掲載。
1965 年 5 月 20 日	『日本キリスト教文献目録：明治期』 アジア文化研究委員会	刊行物

1966年	<i>A Bibliography of Christianity in Japan: Protestantism in English Sources (1859-1959)</i> , Compiled by Fujio Ikado and James R. McGovern	刊行物
1966年10月	『アジア文化研究』5 【Approaches to the “History of Thought”】 Maruyama Masao, “An Approach to the History of Thought—Its Types, Realms, and Objectives—” Otsuka Hisao, “The Role of Max Weber’s Sociology of Religion in Cultural Exchanges between East and West—Dealing especially with Max Weber’s “Confucianism and Puritanism”—” Nakamura Hajime, “A Milestone to the Perspective of the History of Thought” Iyenaga Saburo, “Problems of Accepting Foreign Ideas in the History of Japanese Thought” Takeuchi Yoshimi, “Asia as Method” Kiyoko Takeda Cho, “The Christian Encounter with the Traditional Ethos of Japan—A Study of Nitobe Inazo’s Ideas”	刊行物（紀要） * 『思想史の方法と対象』の英訳。4号より先に刊行。
1965～1967年？	「中国の近代化」竹内好	特別講座 * 紀要4号（1967年刊行）に「2年の間」に行われた特別講座として記載。時期不明。
1965～1967年？	「インドの文化とキリスト教」デヴィッド・モーゼス	特別講座 * 紀要4号（1967年刊行）に「2年の間」に行われた特別講座として記載。時期不明。
1967年9月	『アジア文化研究』4 【Modernization of Asia】 蠟山芳郎「インドの近代化にかんする研究序説」 荒畑寒村「社会主義運動における人間の問題」 山川菊枝「婦人解放をめざして私の歩んできた道」 Kasai Minoru, “Exploration of a Cultural Language—Discovering God and Man in Indian Spiritual Tradition—” 高俊明「台湾の近代化とキリスト教」 山本澄子「1930年代中国における農村伝道」 小沢浩「心境部落及び前森山集団農場形成の内発的原理—草の根のユートピア思想—」（学生論文）	刊行物（紀要）

1970年3月5日	『比較近代化論』 武田清子	刊行物 *当初は紀要3号の日本語訳として企画されたが、計画が変更になり、同じ執筆陣の別稿を中心とする論文集として出版された。
1970年12月8日	「経済の近代化過程における宗教の役割」 大塚久雄（所員）	月例講演会 *月例講演会（現アジア研究フォーラム）第1回。紀要6号に論文として掲載。
1971年1月26日	「アジア経済の特質」 福地崇生（所員）	月例講演会 *紀要6号に論文として掲載。
1971年2月23日	「日本人の精神的風土と宗教」 堀一郎（成城大学）	月例講演会 *紀要6号に論文として掲載。
1971年4月27日	「Modernization, Commercialization, および Industrialization」 大塚久雄（所員）	月例講演会
1971年5月18日	「韓国のシャーマニズムと社会」 玄容駿（済州大学）	月例講演会 *紀要7号に論文として掲載。
1971年6月1日	「比較分析の社会科学的基礎」 小室直樹	月例講演会
1971年6月19日	「近代化の概念およびその問題をめぐっての懇親会：ジョン・ホール教授（イエール大学）を囲んで」 ジョーン・ホール（イエール大学）	特別研究懇親会
1971年10月16日	「アジア研究の方向をさぐる」 喜多村浩（青山学院大学）	月例講演会 *紀要6号に論文として掲載。
1971年12月9日	「韓国の近代化について」 朴元善	月例講演会 *紀要7号に「韓国近代化の思想史的特質とその展開」として掲載？
1971年12月9日	「済州島の村落」 佐藤信行	月例講演会 *紀要7号に「済州島の家族と親族」として掲載？

1972年1月14日 ～3月3日	「歴史的にみた中国と日本人」 1「歴史上からみた東アジアの国際関係の形態」山本達郎 2「アジアの経済開発よりみた中国と日本」喜多村浩 3「中国における土地制度」村松祐次 4「中国で感じたこと」木下順二 5「歴史のかけ橋：日本人と中国人」陳舜臣 6「中国革命の特質：近代アジアにおける日本と中国」 野村浩一 7「シンポジウム：主題をめぐって」竹内好、大塚久雄、 野村浩一、武田清子（司会）	公開講座 *毎週金曜開催。 於三菱銀行三鷹支 店3階ホール；紀 要8号に特集とし て掲載（3、5を除 く）。
1972年5月16日	「インドにおけるガンジー研究の現状」葛西實（所員）	公開講座
1972年12月	『アジア文化研究』6 大塚久雄「経済の近代化過程における宗教の役割」 堀一郎「日本人の精神的風土と宗教」 喜多村浩「アジア研究の方向をさぐる」 福地崇生「アジア経済の特質」 Delmer M. Brown, “Shintoism and Japanese Society” 武田清子「木下順二のドラマにおける原罪意識—正統 と異端のあいだ—」 葛西実「文明の論理と人間の自由—マハトマ・ガンジー の進歩の概念について—」 「内村鑑三未公開書簡—“Sectarianism”をめぐっての Miss H. Frances Parmelee との論争—」（資料）	刊行物（紀要）
1973年5月	『アジア文化研究』7 佐藤信行「濟州島の家族と親族—O村の事例—」（日韓 比較研究中間報告） 青柳清孝「全羅南道光山郡大村面A部落における世帯 構成と住居の構造—中間報告—」（日韓比較研究中間 報告） 朴元善「韓国近代化の思想史的特質とその展開」 玄容駿「韓国のシャーマニズムと社会」 尹泰林（李栽姫訳）「儒教の遺産『韓国人』抄訳」 川島藤也「両班の配偶者選択と官僚体制」 長清子「民芸美の発見と柳宗悦—無銘の李朝陶磁器に 触発されて—」 長清子「柳東植著『朝鮮シャーマニズムの歴史—構造 的特質』」（本の紹介）	刊行物（紀要）
1973年6月13日	「沖縄親泊部落を訪ねて：スライドと調査報告」青柳清孝	アジア文化研究会
1973年6月26日	「朝鮮王朝における制度と思想：統治制度と異端の思想」 川島藤也、金栄助	アジア文化研究会
1973年11月27日	「最近の中国を訪ねて：キリスト者の問題にもふれて」塩 月賢太郎（日本YMCA同盟副総主事）	アジア文化研究会

1974年2月12日	「核家族とその Family Name の発生」大塚久雄（所員）	アジア文化研究会
1974年6月3日	「Li Tek Tjeng 教授をかこむ懇親会：インドネシアと日本をめぐる諸問題を中心に」 (Various Aspects of Indonesian-Japanese Relations) Lie Tek Tjeng（インドネシア大学）	アジア文化研究会
1974年6月11日	「開発は何のために？：国連人として中近東に働く体験から」安積仰也（国連開発計画エジプト事務所副所長、ICU 卒業生）	アジア文化研究会 * 紀要 8 号に論文として掲載。
1974年11月26日	「Yenching University in the New Democracy」 Philip West（インディアナ大学助教授、ICU 非常勤講師）	アジア文化研究会 * 紀要 8 号に論文として掲載。
1974年12月17日	「李朝朱子学思想の変容：近世実学思想との関連において」朴忠錫（東洋文庫外国人研究員）	アジア文化研究会 * 紀要 8 号に論文として掲載。
1975年5月26日	「日中関係の展望：学術文化使節団の訪中を通じて」衛藤藩吉（東京大学）	アジア文化研究会
1975年6月16日	「アジアからみた文化比較の基準」大塚久雄（所員）	アジア文化研究会 * 紀要 10 号に論文として掲載。
1975年9月	『アジア文化研究』8 【歴史的にみた中国と日本人】 山本達郎「歴史上からみた東アジアの国際関係の形態」 喜多村浩「アジアの経済開発よりみた中国と日本」 野村浩一「中国革命の特質—土地改革に関連して—」 木下順二「中国で感じたこと」 竹内好、野村浩一、大塚久雄、武田清子（司会）「シンポジウム：主題をめぐって」 Philip West, “Yenching University and the Chinese Revolution”（研究論文） 朴忠錫「李朝正統朱子学思想より近世実学思想へ—その連続と非連続—」（研究論文） 安積発也「開発は何のために—国連人として中近東に働く体験から—」（報告）	刊行物（紀要）
1976年2月4日	「An Image of World and History」H. D. Lewis（ロンドン大学）	研究会 * 教員対象の研究会。教育研究所と共催。
1976年6月8日	「Current Trends of Politics in Southeast Asia」David Wurfel（ウィンザー大学）	研究会 * 社会科学科、社会科学研究所と共催。

1976年6月29日	「バングラデシュの経済と伝統文化：日本の経済援助政策の評価をめぐる諸問題」中内恒夫	研究会 *比較文化研究科、キリスト教と文化研究所、社会科学研究所と共催。
1976年10月5日	「Roger Shin 教授を囲む懇親会：アジアにおけるキリスト教をめぐる」 Roger Shin (ユニオン神学校)	研究懇親会
1976年12月14日	「Katsu Kaishū and the Meiji Restoration」 M. W. Steele (ICU 非常勤講師)	研究会 * 紀要 10 号に論文として掲載。
1977年2月1日 ～ 15日	「中国政治思想主流」梅胎寶 (台湾東海大学)	連続講義
1977年2月15日	「中国を訪ねて」板野正孝	研究会
1977年2月25日	「三木亘助教授を囲む懇親会：イスラム世界とヨーロッパ：世界史像の問題をめぐる」三木亘助 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)	研究懇親会
1977年3月3日	「Josefa Sanieel 教授を囲む懇親会：日比関係をめぐって」 Josefa Sanieel (フィリッピン大学)	研究懇親会
1977年3月	『世界史像の研究』 1	刊行物 * パンフレット。 紀要 14 号によると、1974 年 4 月に開始された山本達郎 (所員) らのプロジェクト。
1977年9月	『世界史像の研究』 2	刊行物
1977年10月27日 ～ 28日	「近代アジアにおける宗教と文化・社会の変容」 1. 主題講演 a. “Religion and Socio-Cultural Transformations in Modern Asia,” E. Geoffrey Parrinder (King’s College, London University) b. 「歴史上における宗教的エトスと近代化」大塚久雄 (ICU) 2. 発題講演 a. The Philippines (1) “Indigenous Religions and Christianity in the Modernization Process of the Philippines” Francisco R. Demetrio, S. J. (Xavier University) (2) “Agony as Ethos: Modernization as Viewed in a Philippine Native Literature” Buenaventura S. Medina Jr. (Ateneo de Manila University)	シンポジウム * 紀要 12 号に特集として掲載。ただし特別講演に基づく丸山真男の「The Structure of Matsurigoto: Things Religious and Things Governmental」のみ著者本人の意向により掲載を断念したことが序文に書かれている。

	<p>b. Korea “Religion and Socio Cultural Transformation in Post War Korea” Ryu Tong-shik (Yonsei University)</p> <p>3. 特別講演 「“まつりごと”の構造」丸山真男</p>	
1977年12月	『アジア文化研究』9 【韓国の伝統と近代社会の形成】 車基壁（渡部学訳）「韓国の政治発展と伝統」 韓培浩（朴忠錫訳）「伝統と近代化—両者のもつ意味と相互関連を中心に—」 李萬甲「韓国社会の構造的変化」 柳東植「韓国の宗教現象における変化と伝統」 川島藤也「朝鮮王朝前期の国家と社会—解放後における韓国史学の成果とその特質—」	刊行物（紀要）
1978年2月7日	「Can We Trust Bible?」 John Robinson (Cambridge University)	特別講演
1978年5月30日	「Popular Educational Values in the Late Tokugawa Period: Katsu Kokichi's <i>Musui Dokugen</i> 」 M. W. Steele (ICU 非常勤講師)	若手報告会
1978年5月30日	「明治期プロテスタントの人間形成における道徳的念の変革：山室軍平の場合」岡田典夫（非常勤研究員）	若手報告会 * 紀要10号に「山室軍平の人間変革論」として掲載？
1978年6月20日	「宗教人・職業人・経済人：ピューリタニズムにおける人間形成」梅津順一	若手報告会
1978年6月20日	「スルタン イスカンダル・ムダとアチェ史の成立」白石さや	若手報告会
1978年10月31日	「Philippine Nationalism since the Japanese Occupation」 Teodoro A. Agonciro (University of the Philippines)	講演会・研究会 * 「Open Lecture at the International House」との記載あり。
1978年11月4日	「Jose Rizal and the Filipino Nationalism」 Teodoro A. Agonciro (University of the Philippines)	講演会・研究会
1978年11月	『アジア文化研究』10 大塚久雄「アジアからみた文化比較の基準」 海老沢有道「天草キリシタン版書誌」 葛西実「サスヤーシイの伝統とマハートマ・ガンディ」 M. W. Steele, “Katsu Kaishu and the Limits of Bakumatsu Nationalism” 岡田典夫「山室軍平の人間変革論」	刊行物（紀要）

	金子幸子「“身の上相談”にみる価値意識変革の試み」 葛西実, “Raymundo Panikkar, <i>The Vedic Experience-Mantramañjari</i> ” (本の紹介)	
1979年1月12日	「Group Orientation of Japanese Society and its Critique」 Harumi Befu (Stanford University)	講演会・研究会
1979年4月27日	「ASEAN-Japan Economic Relationship」 中内恒夫	講演会・研究会 *日本語タイトル不明。
1979年5月3日	『アジア文化研究』11 【宗教・文化・社会：大塚久雄教授古希記念】 (第一部) 大塚久雄「私の歩んできた道—宗教と歴史と経済と—」 (第二部 論文 —宗教・文化・社会—) (一．日本文化の中で) 柿内賢信「二重真理について—その歴史のおよび社会的背景—」 海老沢有道「キリシタンのコンフラリヤ (兄弟会) —迫害下における抵抗の組織—」 武田清子「ジョン・バチェラーとアイヌの自立—“労働のモラル”を軸に—」 田中守「乳井貢の人と業績—地方行政史の教訓—」 —瀬智司「現代国家における「公共性」試論—公共性の哲学と科学の接点—」 (二．アジア・中東文化の中で) 山本達郎「敦煌発見の消費貸借に関する一史料— British Library 所蔵 A. Stein 将来漢文文書 S.8443—」 藤田忠「フィリピンの企業者の経営者」 原喜美「フィリピン社会の貧困・開発・教育」 葛西実「インド社会学の伝統と近代化の問題」 並木浩一「『契約の書』における社会と人間」 (三．ヨーロッパ・アメリカ文化の中で) 魚住昌良「ヨーロッパ中世都市像の転換」 S. D. B. ピケン「カントとプロテスタンティズムの倫理—プロテスタンティズムの倫理の、アジアにおける類比現象についての省察と併せて—」 川瀬謙一郎「ウェーバーにおける「宗教的音痴」の意味」 梅津順一「ピューリタニズムにおける「世俗内的禁欲」の形成—バクスター『キリスト教指針』を通して—」 佐藤信行「儀礼親族再考—ラテン・アメリカの儀礼姻族をめぐって—」	刊行物 (紀要)

1979年5月16日	「East Asian Ancestor Worship」 William Newell (University of Sydney)	講演会・研究会
1979年5月30日	「Religion and the Crisis of Modernity」 Robert Bellah (University of California, Berkeley)	講演会・研究会
1979年10月9日	「The Culture and the Society of the Philippines」 Francisco R. Demetrio (Xavier University)	講演会・研究会
1979年11月7日	「Dispersion and Cohesion, Dynamics of Japanese Culture as Observed in an Island Society, Hiroshima」 Motoyoshi Omori (ICU)	講演会・研究会
1980年2月15日	「Tradition and Modernization: Crisis Consciousness of a Modern Indian Intellectual」 Minoru Kasai (所員)	講演会・研究会
1980年5月1日	「L. L. Janes: the Man and his Work in Japan」 Fred G. Notehelfer (University of California, Los Angeles)	講演会・研究会
1980年6月10日	「中国人留学生の近代日本観」 容應萸 (ICU 卒業生、東 京大学大学院)	講演会・研究会
1980年6月17日	「シャーマニズムと韓国思想巫教よりキリスト教まで」 柳 東植 (Yonsei University)	講演会・研究会
1980年10月28日	「台湾の経済と文化」 張漢裕 (淡江大学、アジア文化研究 所客員研究員)	講演会
1980年11月4日	「南アジアの都市化に関する研究の動向と展望」 新津晃一 (ICU)	講演会
1980年11月18日	「バングラデシュ経済の現状と問題点」 石渡茂 (ICU)	講演会
1980年12月10日	「Two Kinds of Asia: Evolution and Revolution in India and China」 Krishna Prakash Gupta (デリー大学)	講演会
1981年1月13日	「スリランカ南部農村の生活と文化」 大森元吉 (ICU)	講演会
1981年2月11日	「『平等・発展・平和』を目指して：一九八〇年十一月 二五日～二八日に開催された『婦人の地位』に関するユ ネスコ主催の会議から」 原善美 (ICU)	講演会
1981年3月	『アジア文化研究』 12 【Religion and Socio-cultural Transformations in Asia】 E. Geoffrey Parrinder, “Religion and Socio-cultural Transformations in Modern Asia” Hisao Otsuka, “Religious Ethos for and against Modernization in its Historical Settings” Francisco R. Demetrio, S.J., “Indigenous Religions and Christianity in the Modernization Process of the Philippines” Buenaventura S. Medina, Jr., “Agony as Ethos– Modernization as Viewed in a Philippine Native Literature”	刊行物 (紀要)

	<p>Ryu Tong-shik, “Religion and Socio-cultural Transformation in Post War Korea”</p> <p>E. Geoffrey Parrinder, “Religion and Social Change in Asia”</p> <p>Kiyoko Takeda Cho, “Japanese Views of the Modernization of Asia”</p> <p>Kiyoko Takeda Cho, “The Continuity of Old Symbols and the Innovation of Traditional Value Systems in Modern Asia”</p>	
1981年6月4日、15日、25日	<p>「日本文化のアーキタイプを考える」</p> <p>6月4日：加藤周一（上智大学）</p> <p>6月15日：丸山真男（元東京大学）</p> <p>6月25日：木下順二（作家）</p>	<p>特別講演</p> <p>*『日本文化のかくれた形』（岩波書店、1984年）として出版。のちに岩波現代文庫（2004年）収録。</p>
1981年6月26日	<p>「韓国文化のアーキタイプ：李朝農村知識人の価値意識」川島藤也（ボウリンググリーンオハイオ州立大）</p>	講演会
1981年6月29日	<p>「韓国文化のアーキタイプ：李朝地方の両班の構造と行動様式」川島藤也（ボウリンググリーンオハイオ州立大）</p>	講演会
1981年10月16日	<p>「インドの根から」ナラヤン・デサイ（ガンディー運動指導者）</p>	講演会
1981年10月20日	<p>「徳川時代の忠誠とその遺産」M. W. Steele (ICU)</p>	講演会
1981年11月17日	<p>「フィリピン人の思考様式」池端雪端（東京外国語大学）</p>	講演会
1981年11月	<p>『アジア文化研究』13</p> <p>【異質文化の交流：山本達郎、海老沢有道両教授古希記念】</p> <p>(第一部 学問的自伝)</p> <p>山本達郎「あるアジア史研究者の歩み（+略年譜）」</p> <p>海老沢有道「若き日の回顧と感謝（+略年譜）」</p> <p>(第二部 論文 —異質文化の交流—)</p> <p>山口修「中国における越南古代史の叙述」</p> <p>坂野正高「馬建忠「擬設繙訳書院議」（1894年）一解題と訳文—」</p> <p>武田清子「末広鉄腸における日本とアジア—明治期“歴史意識”の一類型—」</p> <p>柳東植「在外韓人の同化問題とその文化史的意義」</p> <p>白石さや「プスタヌス・サラティン（王者の庭園）についての一考察」</p> <p>葛西実「C. F. アンドルウズ (Andrews) とインド」</p> <p>並木浩一「古代イスラエルにおけるエジプト」</p>	刊行物（紀要）

	<p>魚住昌良「中世都市ボンの形成と古代文化の連続・非連続問題」</p> <p>横田洋三「国際法から見た異文化接触の問題」</p> <p>梅津順一「バクスターに見る「経済学」の萌芽」</p> <p>S. D. B. ピケン, “Mutual Penetration of Cultures: Description or Norm?”</p> <p>大森元吉, “Employment, Caste and Community in Southern Sri Lanka–Preliminary Report–”</p> <p>原喜美, “Mutual Penetration of Culture: Description or Norm?”</p> <p>Kiyoko Takeda Cho, “Industrialization and Women Workers in Textile and Electronics and Machinery Industries in Japan”</p>	
1981年12月15日	「The Training and Employment of <i>chien-sheng</i> in Early Ming」 J. Hagman (ハーバード大学)	講演会
1982年1月19日	「5年ぶりの中国」坂野正孝 (ICU、政治学)	講演会
1982年2月15日、17日、19日	「中国革命とキリスト教」江文漢 (上海社会科学院)	連続講演
1982年4月24日	<p>「アジア社会の近代化再考察」</p> <p>(1) 基調講演 「アジア社会の近代化：その学際的研究の試み」長清子 (ICU)</p> <p>(2) 発題講演</p> <p>a 「明治中期における政治参加の拡大：日本の政治近代化の再考察」 M. W. スティール (ICU)、コメンター：A. ウォルソール (ユタ大学)</p> <p>b 「『近代経済成長』の比較研究：バングラデシュと日本の経験を中心として」石渡茂 (ICU)、コメンター：緒方煌之助 (一橋大学)</p> <p>c 「スリランカ農村近代化の諸要因：比較分析的展望」大森元吉 (ICU)、コメンター：新津晃一 (ICU)</p> <p>d 「わが国経済協力の文化的側面」中村恒夫 (ICU)、コメンター：近藤正臣 (大東文化大学)</p>	シンポジウム * 紀要 14 号に特集として掲載。
1982年4月28日	「フィリピンにおける政治情勢のダイナミクス」 David Warfel (ウインザー大学)	講演会
1982年5月26日	「フィリピンにおけるキリスト教の土着化」 T. V. Sitoy (シリマン大学)	講演会
1982年6月25日	「経済学とその文化的限界」大塚久雄 (ICU)	特別講演
1982年9月28日	「Indigenous Key Concepts and Values in Contemporary Philippine Society」 V. G. Enriquez (フィリピン大学)	講演会
1982年10月19日	「近世における天の観念の展開」源了圓 (東北大学)	講演会

1982年11月2日	「インドネシアで学んだこと」原喜美（四国学院大学）	講演会
1982年12月7日	「ネパールの産業化：カジヤと大工と町工場の研究を通して」新津晃一（ICU）	講演会
1983年1月18日	「インドにおける世俗化の問題」T. N. Madan（デリー大学）	講演会
1983年2月1日	「日欧比較史の試み：中世都市の指導層」魚住昌良（ICU）	講演会 * 紀要 15 号に論文として掲載。
1983年2月22日	「儒教的世界像の崩壊：海保青陵の思想構造」小島康敬（学習院大学）	講演会
1983年3月26日	「文化的脈絡における開発の意味」C. A. van Peursen（ライデン大学）	講演会
1983年4月18日	「祭と日本文化の誕生」H. W. Putschow（カリフォルニア大学）	講演会
1983年4月19日	「日本語教育を考える：日本語教育の問題点」小出詞子（ICU）	講演会
1983年4月26日	「日本語教育を考える2：日本語教師養成の問題点」小出詞子（ICU）	講演会
1981年3月1日	『世界史像の研究』3	刊行物
1983年3月20日	『アジアにおけるキリスト教比較年表：1792-1945』アジア文化研究所編	刊行物
1983年9月27日	「現代インドの大学の基本的問題」A. K. Saran（インド社会科学研究所）	講演会
1983年10月18日	「農村における義民伝承」アン・ウォルソル（ユタ大学）	講演会 * 紀要 15 号に論文として掲載。
1983年10月25日	「ビルマの伝統法とその特徴」奥平龍二（東京外国語大学）	講演会 * 紀要 15 号に論文として掲載。
1983年11月15日	「発展途上国のスラムに関する社会学的研究：マニラ、バンコク、ジャカルタ、アンカラにおける調査に基いて」新津晃一（ICU）	講演会
1983年12月13日	「日本古典音楽の復原について」アラン・マレット（シドニー大学）	講演会
1984年1月17日	「天台智顛三諦思想序説」ポール・L・スワンソン（ウィスコンシン大学）	講演会
1984年1月23日	「韓日の文化論」金容雲（漢陽大学）	講演会

1984年2月	『アジア文化研究』14 【アジア社会の近代化再考察】 武田（長）清子「アジア社会の近代化—シンポジウムをはじめるに際して—」 大塚久雄「経済学とその文化的限界」 中内恒夫「経済協力の思想」 石渡茂「近代経済成長」の比較研究—バングラデシュと日本の経験を中心として— 魚住昌良, “The Japanese Town in Transition from Medieval to Early Modern Times” M. W. スティール, “Integration and Participation in Meiji Politics—Japan’s Political Modernization Reconsidered” A. ウォルソール, “Comments on Profesor Steele’s Paper” 新津晃一, “The Modernization of Producers of Capital Goods in Nepal—A Study of Blacksmiths, Carpenters, and Engineers” 大森元吉、谷口佳子, “Education, Wamework and Social Welfare—Some Variables of Modernization in Rural Sri Lanka” 武田（長）清子, “The Significance of Dr. Yuasa Hachiro’s Life and Thought in the Modern Development of Japan”	刊行物（紀要） *長清子定年退職に伴う記念号。湯浅八郎逝去後最初の紀要でもあり長清子による追悼文 「The Significance of Dr. Yuasa Hachiro’s Life and Thought in the Modern Development of Japan」も掲載。
1984年2月21日	「中国社会・経済の地域史：18、19世紀の手工業と技術」 クリスチャン・ダニエルス（東京大学）	講演会
1984年3月6日	「明代徽州の土地と労働と宗教」ジョセフ・P・マクダモット（米国学術協会）	講演会 *紀要15号に論文 「The Huichou Sources —A Key to the Social and Economic History of Late Imperial China」として掲載？
1984年3月30日	<i>Comparative Chronology of Protestantism in Asia, 1792–1945</i> , Institute of Asian Cultural Studies	刊行物 *『アジアにおけるキリスト教比較年表』の英語版。
1984年6月21日	「カナダにおける新渡戸稲造研究」ジョン・ハウス（ブリティッシュ・コロンビア大学）	講演会
1984年6月30日	『世界史像の研究』4	刊行物
1984年7月19日	武田清子編『日本文化のかくれた形』（岩波書店）	刊行物
1984年9月25日	「今日の中国のプロテスタント教会」陳澤民（南京神学校）	講演会

1984年10月16日	「中国の龍の原型：商代青銅器の神話と文化」 ウェーレン・ライ（カリフォルニア大学）	講演会
1984年11月13日	「中国の日本研究」 胡錫年（陝西省師範大学）	講演会
1985年1月22日	「インドネシアにおける都市化と人口移動」 Mantra Ida Bagoes（ガジャマダ大学）	講演会
1985年2月4日	「キリスト教宣教師の研究に関する諸問題」 K. O. L. Burridge（プリティッシュ・コロンビア大学）	講演会
1985年2月19日	「韓国の産業化と女性」 李効再（梨花女子大学）	講演会
1985年2月19日	「中国革命による地方の変化」 Linda Groves（上智大学）	講演会
1985年2月26日	「戦前、戦後の日本におけるナショナリズム」 M. W. Steele（ICU）	講演会
1985年2月26日	「戦前の日本における政治的群衆と帝国主義」 Andy Gorden（ハーバード大学）	講演会
1985年5月7日	「神学的立場から民話と演劇を読んで：北部タイの民話と踊り“ノイ・チャイア”の例」 Macn Pongdom（パヤップ大学）	講演会
1985年5月21日	「日本について考えること：20年の滞在より」 James Stewart（アジア財団駐日代表）	講演会
1985年	「中国の教育の現状とその問題点：高等教育を中心として」 孫宗光（北京大学）	講演会 *時期不明。
1985年10月1日 ～3日	「中世の都市空間と市民：日本とドイツの比較」 1「日独中世年比較研究の視角と問題点」 魚住昌良（ICU） 〈テーマⅠ 日独中世都市の空間構成〉 2「日本中世都市の空間構成：寺内町と城下町」 西川幸治（京都大学） 3「ドイツ中世都市の社会地誌」 デイトリヒ・デケネ（ゲッチンゲン大学） 〈テーマⅡ 日独中世都市の社会的構成と市民〉 4「日本中世都市の類型と社会的構成」 義江彰夫（東京大学） 5「ドイツ中世都市の『民主制』」 クヌート・シュルツ（ベルリン自由大学） 〈テーマⅢ 日独中世都市の全般的性格と近代への展開〉 6「日本中世の都市と住民」 クラウス・ミュラー（ボーフム大学） 7「ドイツ中世都市と封建社会」 森田守一（東京学芸大学）	シンポジウム *於東京ドイツ文化センター。東京ドイツ文化センター主催、比較都市史研究会、アジア文化研究所協賛。
1985年10月8日	「アジアの伝統の両極性とその創造的可能性」 長清子（所員）	研究会（科研費）

1985年11月5日	「横井小楠：幕末儒学のひとつの可能性をめぐって」源了圓（所員）	講演会
1985年11月12日	「フェノロサ再考」Ellen Conant（ニューヨーク市立大学）	講演会
1985年11月14日	「ラジーブ・カンデーとインド：最近の展開」K. P. Gupta（デリー大学）	講演会
1985年11月30日	『アジア文化研究』15 魚住昌良「日欧比較史の試み—中世都市の指導層—」 奥平龍二「ビルマの伝統法とその特徴—上座部仏教圏諸国法制史の一考察—」 Anne Walthall, “Peasant Martyrs in Rural Japan” M. William Steele, “Making Parliamentary Politics Work: Japan’s First Diet 1890–1891” Herbert S. Yee, Ryo Ota, “Sino-Japanese Relations in the 1980s: Attitudes, Perceptions and Policies” Joseph P. McDermott, “The Huichou Sources—A Key to the Social and Economic History of Late Imperial China” Whalen Lai, “The One-Legged and the Three-legged—A Chinese Answer to the Riddle of the Sphinx’s” Hu Xi-nien, “Recent Chinese Scholarship on Japan” Koichi Niitsu, Yuko Hashimoto, “Types of Attitude of Slum Dwellers in Bangkok: An Exploratory Comparison with Cities in Other Asian Countries” Motoyoshi Omori, “Rural Development Schemes in the Interior of Sri Lanka”	刊行物（紀要）
1985年12月10日	「海保青陵における経営的創造性」藤田忠（ICU）	研究会（科研費）
1985年12月12日	「中国における日本語学の成立」蘇徳昌（復旦大学）	講演会
1985年12月17日	「ウォルター・デニング：北海道への明治初期宣教師」Helen Ballhatchet（ロンドン大学）	講演会 *紀要16号に「ウォルター・デニング—明治初期における宣教師の活動—」として掲載？
1985年12月19日	「宋代の都市生活」Colin A. Jeffcott（オーストラリア国立大学）	講演会 *紀要16号に「Towns, Markets, and the Urban Population in Song China」として掲載？
1986年1月14日	「日本における『道』」土田友革（南山大学）	講演会 *キリスト教と文化研究所との共催。

1986年1月28日	「江戸町人と明治維新」 M. W. Steele (ICU)	研究会 (科研費)
1986年2月18日	「太平洋貿易における日米の考え方の相違について」 中内恒夫 (ICU)	研究会 (科研費)
1986年2月25日	「ニュージーランドのラタナ族」 青柳真智子 (立教大学)	講演会
1986年2月25日	「マオリの部族主義」 青柳清孝 (ICU)	講演会
1986年4月24日	「幕末期都市騒動における道徳権威への挑戦」 James McClain (ブラウン大学)	講演会
1986年5月6日	「アジアにおける日本語教育の変遷とその影響」 小出詞子 (ICU)	研究会 (科研費)
1986年5月22日	「現代アメリカにおける個人主義と宗教」 Robert N. Bellah (カリフォルニア大学バークレー校)	講演会 * キリスト教と文化研究所との共催。
1986年6月3日	「アジア的伝統とその現代への適応」 Robert N. Bellah (カリフォルニア大学バークレー校)	研究会 (科研費)
1986年6月4日	「黒船瓦版に見る庶民の心意」 北原糸子	講演会
1986年6月10日	「江戸時代の万葉」 Peter Nosco (フルブライト研究生)	講演会
1986年6月24日	「明治末期の教化思想における勧善の論理」 岡田典夫 (茨城キリスト教大学)	研究会 (科研費)
1986年6月27日	「高度情報社会と都市経営：アジア・太平洋地域を背景として」 一瀬智司 (ICU)	講演会 * 社会科学研究所との共催。
1986年9月26日 ～27日	「アジア的伝統の両極性とその創造的可能性」 1 「研究会をはじめるにあたって」 魚住昌良 (ICU)、長清子 (ICU) 2 「スリランカの伝統宗教と生活習慣：小乗仏教とヒンドゥ教の折衷形態」 大森元吉 (ICU) 3 「生神信仰の歴史的位相：日本の近代化と民衆宗教についての一考察」 小沢浩 (富山医科薬科大学) 4 「民族的霊性の非二元論的構造と朝鮮の宗教史について」 柳東植 (延世大学) 5 「農村夫人の伝統的意識の変革の課題：丸山秀子の『日本農村婦人問題』へのアプローチを通して」 金子幸子 (ICU)	シンポジウム * 於湯島会館・学士会館本郷分館。
1986年9月30日	「平安期の国家と中国文学」 Robert Borgen (ハワイ大学)	講演会
1986年10月7日	「17世紀中国の狂気、美術と政治：八大山人」 James Cahill (カリフォルニア大学バークレー校)	講演会 * 紀要17号に「The “Madness” in Bada Shanren’s Paintings」として掲載?

1986年11月11日	「明治天皇の肖像：御真影の威力」多木裕二（東京造形大学）	講演会
1986年11月11日	「フィリピンの人民革命」橋本哲一（ICU）	講演会
1986年12月9日	「中国の九華山と地蔵」William Powell（カリフォルニア大学サンタバーバラ校）	講演会 *紀要16号に「Mt. Jiuhua: The Nine-Florate Realm of Dicang Pusa」として掲載？
1987年1月22日	「日欧芸術の交流をめぐって」Marion Settekorn（筑波大学）	講演会
1987年4月21日	「中国の美術における山と国家と財産」ジョセフ・P. マクダモット Joseph P. McDermott（所員）	講演会 *紀要17号に「The Making of a Chinese Mountain, Huangshan: Politics and Wealth in Chinese Art」として掲載？
1987年5月12日	「ビルマの変動：王制から社会主義共和制へ」タン・トゥン（ICU 招聘教授）	研究会（科研費）
1987年5月26日	「武士道と茶道」熊倉功男（筑波大学）	講演会
1987年6月9日	「正倉院と歴代権力者たち」由水常雄（東京ガラス工芸研究所）	講演会 *紀要17号に「The Shosoin: An Open and Shut Case」として掲載？
1987年6月18日	「明治の政治漫画：小林清親と團圓珍聞」ヘンリー・スミス Henry Smith（カリフォルニア大学サンタバーバラ校）	講演会
1987年9月18日 ～19日	「アジア的伝統の両義性とその創造的可能性」 第2回シンポジウム 1「研究会をはじめるにあたって」長清子（ICU） 2「都市の伝統の比較：日本とヨーロッパ」魚住昌良（ICU） 3「道具から機械への転換過程：ネパールの鍛冶屋と大工の社会経済的地位の変化」新津晃一（ICU） 4「競争原理と東洋的寛容：南北問題と市場機構」中内恒夫（ICU）	シンポジウム *於湯島会館・学士会館本郷分館。
1987年10月30日	「アジア封建制度の比較」 1「問題提起」魚住昌良（ICU） 2「日本中世社会の全般的特徴」義江彰夫（東京大学）、 コメンテーター：源了圓（ICU）	シンポジウム *紀要別冊1号に特集として掲載。

	<p>3「中国の「封建制」をめぐって」大澤正昭（埼玉大学）、コメンテーター：C. ジェフコット（オーストラリア国立大学、アジア文化研究所非常勤研究員）</p> <p>4「インド封建制の再検討」小谷汪之（東京都立大学）、コメンテーター：葛西実（ICU）</p> <p>5「フランクとビザンツの封建制比較」B. テップアー（フンボルト大学、ICU 客員教授）、コメンテーター：高澤紀恵（ICU）</p>	
1987年11月17日	「現代中国における文化ブーム」陳生保（上海外国語学院）	講演会
1987年11月30日	<p>『アジア文化研究』16</p> <p>源了圓「徳川初期における中国儒学の受容—「心学・心法」の問題を中心として—」</p> <p>ヘレン・ボールハチェット「ウォルター・デニング—明治初期における宣教師の活動—」</p> <p>C. A. Jeffcott, “Towns, Markets, and the Urban Population in Song China”</p> <p>Robert Borgen, “State Sponsorship of Chinese Literature in Early Japan”</p> <p>M. W. Steele, “No Dead Cats—Local Politics in Japan’s First National Election”</p> <p>William Powell, “Mt. Jiuhua: The Nine-Florate Realm of Dicang Pusa”</p> <p>Motoyoshi Omori, “Custom, Law, and Environment: Some Causes of Disputes on Rice Fields in Hinterland Sri Lanka”</p> <p>Robert N. Bellah, “Living a Christian Life in Modern Society”</p>	刊行物（紀要）
1987年12月15日	「中国の政治・社会・伝統：明代における郷約」ジョセフ・P. マクダモット Joseph P. McDermott（所員）	研究会（科研費）
1988年1月19日	「ビルマにおける民族主義と社会主義—独立闘争期を中心に」根本敬（研究助手）	講演会
1988年1月20日	「台湾における植民政策 1895–1934」アンドリュー・フレーザー Andrew Fraser（オーストラリア国立大学）	講演会
1988年4月19日	「家族制度と婦人の役割—日本とドイツの比較」アンナ・マリア・トレンハルト Anna Maria Thränhardt（ミュンスター大学）	講演会
1988年5月10日	「江戸後期と明治の思想」テツオ・ナジタ（シカゴ大学）	講演会
1988年5月17日	「チガ族政治社会の生成過程：東アフリカ近代化の軌跡」大森元吉（所員）	講演会

1988年10月3日	「中世末期近世初期の民族蜂起：日本とドイツの比較」 1「発題」魚住昌良 (ICU) 2「不服従：ドイツの徳目か？」ペーター・ブリックレ (ベルン大学) 3「日本中世の農民闘争」佐藤和彦 (東京学芸大学)」	シンポジウム *紀要別冊1号に特集として掲載。
1988年11月1日	「植民地前夜のジャワの封建社会」オンハカム Onghokham (インドネシア大学)	講演会
1988年11月8日	「インドネシアの国家と政治エリートの構成」オンハカム Onghokham (インドネシア大学)	講演会
1989年2月14日	「台湾少数民族の結婚式と降誕節」魚住昌良 (所員)	講演会
1989年2月14日	「台湾少数民族の階級化と長老派教会」ウィリアム・ニューエル William Newell (台湾基督長老玉山神学院)	講演会
1989年3月9日	「大正7年米騒動における国家と地方の概念」ロバート・エスクセン Robert Eskildsen (研究助手)	講演会
1989年3月9日	「ビルマ民主化闘争の歴史的背景」根本敬 (研究助手)	講演会
1989年4月25日	「中国師範大学教育の構造と展望：人材の養成と就職」王岡俊 (中国陝西師範大学)	講演会
1989年5月18日	「自伝に現われた日本人の西洋人観」太田雄三 (マクギル大学)	講演会 *紀要18号に「Images of Westerners in Japanese Autobiographies」として掲載?
1989年6月9日 ～10日	「近代日本の政治的發展における中央と地方」 1「開会挨拶」魚住昌良 (所長) 2「問題提起：中央と地方」M. ウィリアム・スティーラー (ICU) 3「徳川後期の地方自治：郡中惣代と中央政権」アン・ウォルソル (ユタ大学) 4「幕末の政治思想の遺産：横井小楠と熊本民権運動」花立三郎 (熊本大学) 5「廃藩置県とお雇い外国人：W. E. グリフィスに見る地方と中央」内海孝 (東京外国語大学) 6「地域の近代化と民権運動：三多摩の場合」新井勝弘 (町田市立自由民権資料館) 7「新たな支配者と名望家」J. マクレイン (ブラウン大学) 8「地方の代弁者としての県知事：埼玉県の場合」小川博也 (埼玉大学)	シンポジウム *於 ICU。スティーラー、ウォルソル、花立、ウォーターズ講演は紀要18号に小特集として掲載。

	<p>9 「地方経済発展と政治参加：新潟県の場合」 中村政則（一橋大学）</p> <p>10 「吉野泰三と明治の政治発展に於ける地方主義」 M. ウィリアム・スティール (ICU)</p> <p>11 「真土事件と村指導者の自治観念：明治 10 年代の村生活共同体の再生とのかねあい」 金原左門（中央大学）</p> <p>12 「地方自治性の確立：神奈川県の場合」 ニール・ウォータース（セントローレンス大学）</p> <p>13 「地方自治性の確立：行政村の定着を中心として」 大石嘉一郎（東京大学社会科学研究所）</p> <p>14 「公開討論会」 リソースパーソン：有泉貞夫（東京商船大学）、板野潤治（東京大学社会科学研究所）、アルバート・クレイグ（ハーバード大学）、中村政則（一橋大学）</p>	
1989 年 9 月 14 日	「台湾少数民族とキリスト教」 二宮忠弘（台湾基督長老教会玉山神学院）	講演会
1989 年 9 月 28 日	「ブラジルの日系コロニアに於ける日本語教育」 坂起世（非常勤研究員） コメンテーター 今田滋子（ICU、現広島大学）	講演会
1989 年 9 月 30 日	『アジア文化研究』 17 【Art and Power in Japan and China】 Joseph P. McDermott, “Introduction” Yoshimizu Tsuneo, “The Shosoin: An Open and Shut Case” Onishi Hiroshi, “The Iconography of Demons in Japanese Art: A Few Modest Proposals” Kumakura Isao, “From the Ontlandish to the Refined: Art and Power at the Outset of the Edo Period” M. William Steele, “Goemon’s New World View: Popular Representations of the Opening of Japan” Robert Eskildsen, “Traditional Morality in a Modern Crisis: An Artist’s View of the 1918 Nagoya Rice Riots” James Cahill, “The “Madness” in Bada Shanren’s Paintings” Joseph P. McDermott, “The Making of a Chinese Mountain, Huangshan: Politics and Wealth in Chinese Art”	刊行物（紀要）
1989 年 11 月 6 日	「アジアにおける宗教と平和」 (Religion and Peace in Asia) レイモンド・パニカ Raimundo Panikkar（カリフォルニア大学）	講演会

1990年2月1日	「タイにおける古代モン国家の遺跡：その再発見と歴史的展望」(Remnant of a Lost Nation Rediscovered in Thailand and their Historical Perspective) ナイ・パン・フ ラ Nai Pan Hla (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)	講演会 * 紀要 18 号に 「Remnant of a Lost Nation Rediscovered in Thailand」として掲載?
1990年3月15日	『アジア文化研究』別冊 1 (アジアの封建制：比較史的考察の試み) 【第 1 部 アジアの封建制の比較】 魚住昌良「アジアの封建制—比較史的対話の提言」 義江彰夫「日本中世社会の全般的特徴と特殊性」 源了圓「コメント」 大澤正昭「中国の「封建制」をめぐって」 Colin A. Jeffcott「コメント」 小谷汪之「インドの封建制の再検討」 葛西実「コメント」 Bernhard Topfer, “Feudalism in the Frankish and Byzantine Empires A Comparison” 高澤紀恵「コメント」 「総合討論から」 【第 2 部 中世末期近世初期の民衆蜂起】 Peter Blickle 「不服従：ドイツの徳目か? (魚住昌良訳)」 佐藤和彦「Peasant Conflict in Japan during the Middle Ages (Robert Eskildsen 訳)」 「総合討論」 前間良爾「シンポジウム印象記」	刊行物 (紀要別冊)
1990年5月11日	「ケンペルの日本再発見」ベアトリース・ボダート・ベイリー Beatrice Bodart-Bailey (オーストラリア国立大学)	講演会
1990年9月20日	「ラフカデオ・ハーンと日本」ジョン・アシュミード John Ashmead (ハヴァフォート大学名誉教授)	講演会 * 紀要 18 号に 「Lafcadio Hearn in America and in Japan: Two Years in the West Indies and Glimpses of Unfamiliar Japan」 として掲載?
1990年10月11日	「私は誰であるか? (人間の問い)：私の知的遍歴と邂逅」(Who Am I?—the Human Question; One Man’s Pilgrimage) マレー・ロジャース Murray Rogers (ジョティニケタン アシユラム 〈祈りの家〉)	講演会 * 紀要 20 号に掲載。

1990年10月25日	「道元禅の世界：わたしの遍歴と邂逅」鈴木格禅（駒澤大学）	講演会
1990年11月7日	「中国における日本研究：過去、現在と将来の展望」汪向荣（中国社会科学院世界史研究所）	講演会 * 紀要 18 号に「中国の日本研究の現状」として掲載？
1990年11月30日	『アジア文化研究』別冊 2（伝統と近代化：長（武田）清子教授古希記念論文集） 【第 1 部 思想史研究の歩み】 長（武田）清子「思想史に学ぶ—《最終講義》—」 「長（武田）清子教授略年譜 著書・論文リスト」 【第 2 部 論文 —伝統と近代化—】 長（武田）清子「近代化と伝統文化」 源了圓「横井小楠の「三代の学」における基本的概念の検討」 一瀬智司「日本のタテ社会型組織の伝統と近代化—行政学と経営学の共有財産としての組織理論—」 柳東植「在米韓人の定着過程における宗教の役割—ハワイの韓人社会とキリスト教を中心に—」 中内恒夫「わが国単純労働者移入問題」 葛西実「ガンディーの思想における伝統と近代化—A. K. サランの見解—」 石渡茂「Pacific Forum Line の形成と発展—国際協力の一つの試み—」 大森元吉「チガ族政治社会の統合と変動—東アフリカ近代化の軌跡—」 小沢浩「思想史から見た亀谷凌雲—研究ノート—」 岡田典夫「「父の姿」をたずねる旅—福田恵子著『ビルマの花』に寄せて—」 金子幸子「近代日本における女性解放の思想と行動—矢島楯子と日本基督教婦人矯風会—」 稲田敦子「石川三四郎における「蔭」認識の歴史的展開」 戴禾「梁啓超に於ける伝統と近代化」 M. W. Steele, “Public and Private in Bakumatsu Political Thought—The Case of Katsu Kaishu” Joseph P. McDermott, “The Chinese Domestic Bursar” Masayoshi Uozumi, “Changes in the Image of European Medieval Towns as Reflected in Recent Japanese Historical Scholarship”	刊行物（紀要別冊）

1990年12月17日	「日本の地下水：信仰と現実」押田成人（ドミニコ会修道士）	講演会
1991年1月17日	「『成功者』福沢諭吉と『挫折者』厳復：近世初期中日文化比較の一試論」高増杰（中国社会科学院日本研究所）	講演会 *紀要20号に「社会契約論的「自由」と進化論的「自由」：福沢諭吉と厳復の「自由」についての比較」として掲載。
1991年1月25日	「明治期と大正期におけるフランスと日本の金融関係についての一研究：アルベール・カーン（1860-1940）について」ジル・ボー・ベルティエ Gilles Baud Berthier（アルベール・カーン美術館）	講演会 *紀要18号に「The Financial Relations between France and Japan during the Meiji and Taisho Periods: One Example, Albert Kahn (1860-1940)」として掲載。
1991年3月30日	『世界史像の研究』5	刊行物
1991年4月18日	「日本の早期儒教とその特徴」王家驊（中国南開大学）	講演会
1991年4月27日	「新しい日本観・世界観に向かって：日本におけるバイリンガルと民族の多様性」 挨拶：魚住昌良（所長） 趣旨説明：ジョン・C. マーハー (ICU) 第1部 特別講演「日本における言語と文化の多様性：手話事情から見て」本名信行（青山学院大学） 第2部 1「アイヌ：HERITAGE 言語とその人々」北原きよ子（関東アイヌ協会ワタリ会） 2「日本とオーストラリアにおける民族の多様性」ゲイナー・マクドナルド（ウェスタンシドニー大学） 3「今日の二言語使用の定義と展望」岡秀夫（東京大学） 司会：ジョセフ・デキキス (ICU) 第3部 1「大阪における KOREAN 文化の復活」李栄汝（聖和社会館） 2「日本における朝鮮語」金徳館（朝鮮大学） 第4部 1「近年の日本の移民：新しい社会学をめぐって」中野秀一郎（関西学院大学）	シンポジウム *同名書籍として出版（1994年）。

	2「アジアからの女性労働者たちの直面する問題」松田瑞穂 (HELP アジア女性緊急避難センター) パネルディスカッション：ヤン・エーベル (TFF 平和研究所)、チャールズ・リー (カリフォルニア大学サンタバーバラ校)、ディートリッヒ・トレンハルト (ミュンスター大学)、八代京子 (筑波大学)、姜尚中 (ICU；欠席)	
1991年5月16日	「移民：ヨーロッパの体験と日本の政策」(Migration: European Experiences and Japanese Policies) ディートリッヒ・トレンハルト Dietrich Thränhardt (ミュンスター大学)	講演会
1991年5月24日	「近代世界の起源と未来」(The Origins and Futures of the Modern World) ケネス・ボウルディング Kenneth E. Boulding (コロラド大学ボウルダー校)	講演会 * 平和研究所との共催。紀要 19 号に「Modernity as a Human Explosion」として掲載。
1991年6月6日	「1990年代の世界の混迷を越して：共生、非暴力、全地球的倫理と民主主義」(Alternatives to World Disorders in the 1990s: Sustainability, Nonviolence, Global Ethics and Democracy) ヤン・エーベル Jan Øberg (平和・未来研究のための国際財団、ICU 客員教授)	講演会
1991年6月13日	「徽州商人の興起：歙県呉氏一族の事例とオーヴェルシュトルツ家との比較」張冠増 (非常勤助手)	講演会 * 紀要 19 号に「明末清初北京の歙県会館—徽州商人とその同郷組織—」として掲載？
1991年9月26日	「中国明末における友情と友人」(Friendship and its Friends in 16th and 17th Century in China) ジョセフ・P. マクダモット Joseph P. McDermott (所員)	講演会
1991年12月12日	「不幸な師弟関係：太宰春台の荻生徂徠宛のラストレターをめぐって」サミュエル・H. 山下 Samuel H. Yamashita (ボモナカレッジ、アジア文化研究所非常勤研究員)	講演会
1992年2月13日	「『……たぶん、私が野蛮人で、わからないからなのでしょう』：近代の到来」(But perhaps it is because I am a savage and do not understand: The Advent of Modernity) アワード・キショール・サラシ Awadh Kishore Saran (ICU 客員教授)	講演会
1992年2月17日	「成瀬仁蔵の教育思想：成瀬のプラグマチズムと日本女子大学校における教育」影山礼子 (立教女学院短期大学非常勤講師)	講演会

<p>1992年2月20日</p>	<p>『アジア文化研究』18</p> <p>伊原弘「東南アジアにおける中国人街の形成と中国の都市—チャイナ・タウン研究試論—」</p> <p>汪向荣「中国の日本研究の現状」</p> <p>横田洋三「国際法と国内法の関係に関する融和論の検討」</p> <p>Nai Pan Hla, “Remnant of a Lost Nation Rediscovered in Thailand”</p> <p>John Christopher Maher, “Philippine Creole: Notes on Food Talk in Chabacano”</p> <p>Gilles Baud Berthier, “The Financial Relations between France and Japan during the Meiji and Taisho Periods: One Example, Albert Kahn (1860–1940)”</p> <p>John Ashmead, “Lafcadio Hearn in America and in Japan: <i>Two Years in the West Indies and Glimpses of Unfamiliar Japan</i>”</p> <p>Yuzo Ota, “Images of Westerners in Japanese Autobiographies”</p> <p>【小特集 十九世紀日本の中央と地方】</p> <p>花立三郎「19世紀日本の中央と地方 明治初期における中央と地方—熊本実学派の思想と行動—」</p> <p>Neil Waters, “The Village Consolidation of 1889: The Institutionalization of contradiction in Local Administration”</p> <p>Michael Lewis, “Interest and Ideology in Meiji Politics: Inagaki Shimesu and the Toyama Jiyūtō”</p> <p>M. William Steele, “Political Localism in Meiji Japan: The Case of Yoshino Taizo”</p> <p>James L. McClain, “Local Elites and the Meiji Transition in Kanazawa”</p> <p>Anne Walthall, “Caught in the Middle: Gunchu Sodai in the Restoration Era”</p>	<p>刊行物（紀要）</p>
<p>1992年2月28日</p>	<p>『アジア文化研究』別冊3（近代化と価値観：源了圓教授古希記念論文集）</p> <p>【第1部 思想史探究の道】</p> <p>源了圓「私の歩んで来た道」</p> <p>「源了圓教授略年譜・業績目録」</p> <p>【第2部 論文 —近代化と価値観—】</p> <p>源了圓「〈最終講義〉日本の伝統のもう一つの可能性—横井小楠の思想—」</p> <p>葛西実「マハトマ・ガンディーの平和運動とその後の展開—一つのフィールドノート—」</p>	<p>刊行物（紀要別冊）</p>

	<p>原一雄、大井直子、岡林秀樹「ICUにおける大学生の価値観研究」</p> <p>藤田忠「交渉における「型」についての随想」</p> <p>田中敦「近世哲学への根源的批判—価値の問題をめぐって—」</p> <p>武田徹「荻生徂徠の反日本語主義」</p> <p>郭連友「吉田松陰の革命思想の形成について」</p> <p>高増杰「福沢諭吉と巖復—漸新社会変革論者の異同について—」</p> <p>林敏夫「現実主義と個別主義の交錯—松岡洋右の世界観をめぐって—」</p> <p>魚住昌良「〈研究ノート〉1074年ケルンの市民と大司教」</p> <p>Gerhardt Schepers, “Values in Kafka: An East-West Perspective”</p> <p>Kenji Kimura, “Japanese Firms Revisited”</p> <p>Yuzo Ota, “Lafcadio Hearn and Basil Hall Chamberlain”</p> <p>M. William Steele, “Nationalism and Cultural Pluralism in Modern Japan—Yanagi Sōetsu and the Mingei Movement—”</p> <p>Samuel H. Yamashita, “School Relations in Ogyu Sorai’s Miscanthus Patch Academy—The Case of Dazai Shundai (1680–1747)—”</p> <p>Motoyoshi Omori, “Western Impact on Normative Values—The Sequence of Bachiga Modernization in Uganda—”</p>	
1992年5月14日	「二つの開国と天皇制」長清子（顧問）	講演会
1992年5月19日	「耶馬台国の社会的性質」全春元（延辺大学）	講演会
1992年6月4日	「日本と新世界体制：国家認識の問題」R. G. トロット R. G. Trott（オーストラリア国立大学、アジア文化研究所非常勤助手）	講演会
1992年6月11日	「日本古代国家の形成と朝鮮渡来人」全春元（延辺大学）	講演会
1992年10月5日	「中国沿海地方の環境史：1000年来の杭州湾の地形変化における自然的、人工的要因」(Man against the Sea: Natural and Anthropogenic Factors in the Changing Morphology of Hangzhou Bay circa 1000–1800) マーク・エルヴィン Mark Elvin（オーストラリア国立大学）	講演会
1992年10月29日	「中国中世庶民の経済実態：宋人資産力算定表作成の過程において」伊原弘（白百合女子大学）	講演会
1992年11月12日	「明清時代と近世ヨーロッパの社会的抵抗」王国斌 R. Bin Wong（カリフォルニア大学）	講演会
1993年1月11日	「国際先住民年と日本の役割」上村英明（市民外交センター）	講演会
1993年1月25日	「『職人歌合』の文学的魅力と社会的関連」岩崎佳枝（梅花女子大学）	講演会

1993年2月18日	「歴史の中の地域と先住民（アイヌ）：北からの日本史」 浪川健二（埼玉県鴻巣市史編纂室）	講演会
1993年3月4日	「変動期の商人たち：上海と横浜、生糸商の比較研究」張永昶（上海師範大学）	講演会
1993年3月18日	「私の夢としての大学」(University of My Dream) Murray Rogers（ジョティニケタン・アシユラム）	講演会
1993年3月30日	『アジア文化研究』19 福田秀一「文文学者の留学日記 明治篇——鷗外・漱石・矢一の往路の場合——」 大森元吉「伝統宗教の文化・社会変化への対応—スリランカと日本に見る宗教的価値の両極性と創造性—」 ジョン・C. マーハ「社会的純潔さとバイリンガリズム—ケーススタディー—湯浅育子—」 張冠増「明末清初北京の歙県会館—徽州商人とその同郷組織—」 坂起世「国際バカロレアと言語部門 B 日本語試験についての考察—学力判定の国際的規準設定への模索—」 M. W. Steele, “Resources on Late 19th Century Japan in the United States—A Bibliographic Essay—” Robert Marshall, “Incompatibilities in Preference for Strategies Between the Americans and the Japanese” Terence C. Russell, ““A Ritual and Dramatic Expression” Incantation in Shangqing Meditation Rites” Yasunori Kojima, “The Thought of Nyūi Mitsugi—Practicality and Reform in Tsugaru Domain—” Ryoen Minamoto, “Confucian Thinkers on the Eve of the Meiji Restoration—Sakuma Shōzan and Yokoi Shōnan—” Kenneth E. Boulding, “Modernity as a Human Explosion”	刊行物（紀要）
1993年4月23日	「日本における宗教団体への国家的統制：アメリカ・ドイツの場合と比較して」笹川紀勝 (ICU)	連続公開セミナー *連続公開セミナー「国家と宗教」第1回。
1993年4月26日	「明日の大学：危機としての現代におけるキリスト教主義大学の課題」(University of Tomorrow (My Dream): Task of Christian University in Modern Man's Predicament) Raimundo Panikkar（カリフォルニア大学）	講演会
1993年4月28日	「キリスト教と諸宗教：キリストにあってはキリスト者、ヒンドゥー教徒（仏教徒、ムスリム…）の区別はない」(Christianity and Religions: In Christ there is neither Christian nor Hindu (Buddhist, Muslim...)) Raimundo Panikkar（カリフォルニア大学）	講演会

1993年5月27日	「中国経済思想史研究の現状と課題」朱家禎、厲以平、苗壯（中国社会科学院、中国社会科学院、中国社会科学院）	講演会
1993年6月3日	「現代日本文学におけるキリスト教の影響：目に見えぬアジェンダ？」(Hidden Agendas? Influence of Christianity of Contemporary Japanese Literature) Mark Williams（リーズ大学）	講演会 * 紀要20号に掲載。
1993年6月5日	「中国：港市人口動態」斯波義信（所員）	講演会 * 社会経済史学会 関東部会共催。
1993年6月5日	「羊を通して眺めた近世ハンガリーの市場町」戸谷浩 (ICU)	講演会 * 社会経済史学会 関東部会共催。
1993年6月19日	「日本の都市空間と近代性の超克の問題」 1「迷宮としての盛り場」陣内秀信（法政大学） 2「戦後都市発展と住民層の変化：広島県の事例」大森元吉 (ICU) 3「アジアに於ける経済空間の再編成と様々な制度モデルの適用」（日仏会館研究員） 4「中国的都市空間とその近代化プロセス」斯波義信 (ICU) 5「都市における言語空間」ジョン・マーハ (ICU) 6「日米欧の資本主義の違いと日本資本主義の将来」（東洋学園大学） 7「通態性の概念と日本語の特徴」荒木亨 (ICU) 8「芦原義信、中根千枝、今田孝俊、ヘゲモニーの始まりか」オギュスタン・ベルク（フランス国立高等研究員） 9「質疑応答」	シンポジウム
1993年9月22日	「カバラ哲学と禅」マテイ・メツジェド Matti Megged（イスラエル、ハイファ大学）	講演会
1993年9月30日	「浄土真宗における国家と宗教」源了圓（アジア文化研究所顧問）	連続公開セミナー * 連続公開セミナー「国家と宗教」第2回。
1993年9月30日	『アジア文化研究』別冊4（宗教的意識と現代世界）魚住昌良・葛西實編 葛西實「夢としての明日の大学—宗教的意識と現代世界」 【ヒンドゥ教】 A. K. Saran, “Hinduism in Contemporary India” ——, “Science, Technology and Society—A Traditional Analysis”	刊行物（紀要別冊）

	<p>【仏教】 鈴木格禪「道元禪の世界—わたしの遍歴と邂逅」</p> <p>【キリスト教】 押田成人「日本の地下水—信仰と現実」 「幻想の生と死」 Murray Rogers, “Hindu Influence on Christian Spiritual Practice” —, “On the Pilgrim Path” —, “Who am I? The Human Question: One Man’s Pilgrimage” Raimundo Panikkar, “The New Role of Christian University in Asia” —, “Present Day University Education and World Cultures” Ayako Tokuda, Yuji Tomura, “Introduction of the Authors by Students”</p>	
1993年10月19日	「国家と宗教：マックス シェーラーに即して」五十嵐靖彦（弘前大学）	連続公開セミナー *連続公開セミナー「国家と宗教」第3回。
1993年11月1日	「アメリカ先住民文化遺産の復活」パトリア・デューロ Patricia Duro（リンコン・キクタム）	講演会
1993年11月6日	<p>「日本におけるアイヌ民族」</p> <p>第1部 挨拶：魚住昌良（所長） シンポジウムの説明：ジョン・C. マーハ (ICU)</p> <p>第2部 A「北海道アイヌのドキュメンタリー映画」田平陽子（現代グループ）司会：J. ワシレウスキー (ICU) B「アイヌ語教室」中川裕（千葉大学）司会：J. デキキス (ICU)</p> <p>第3部 アイヌ語研究「北海道アイヌ語のフィールドワークを中心に」田村すず子（早稲田大学）司会：ジョン・C. マーハ</p> <p>第4部 アイヌ語研究「瀕死の言語：カラフト アイヌ語」村崎恭子（横浜国立大学）司会：ジョン・C. マーハ</p> <p>第5部 アイヌの伝統的な踊りとユーカラ 関東ウタリ会 司会：和智綾子 (ICU)</p> <p>第6部 特別講演 野村義一（北海道ウタリ協会）司会：八代京子（麗澤大学）</p>	シンポジウム

	第7部 パネルディスカッション「アイス新法と未来：世界の先住民の動きの中で」青柳清孝 (ICU)、野村義一、上村英明 (市民外交センター)、和智綾子、パトリシア・デューロ (Rincon Kiktum スポークスパーソン)、メル・ロバート (パラ部族政府代表) 司会：横田洋三 (ICU)	
1993年12月16日	「文化の創造者としての夏目漱石」ウィリアム・タイラー W.J. Tyler (オハイオ州立大学)	講演会
1993年12月15日	「近代日本のアジア主義：第一次大戦期を中心に」平石直昭 (東京大学)	連続公開セミナー *連続公開セミナー「国家と宗教」第4回。
1994年3月8日	「ソシアビリテ論の射程、生糸商人の比較：中国と日本、建国大学の諸問題」高澤紀恵、張永昶、宮沢恵理子	研究会
1994年3月28日	『アジア文化研究』別冊5 (近代の都市空間と言語空間) 魚住昌良・荒木亨編 【I. 基調講演】 荒木亨「空間・時間・言葉」 荒木亨「雪舟の「山水長巻」とベラスケスの「女官達」」 荒木亨「誰も言わない文章はあるか」 荒木亨「森有正とクロード・レヴィ=ストロース」 オギュスタン ベルク「空間に於ける形と時間に於ける形 (要旨)」 オギュスタン ベルク「内と外との弁証法 (要旨)」 オギュスタン ベルク「都市の基礎 (要旨)」 オギュスタン ベルク「場所と空間 (要旨)」 【II. シンポジウム：日本の都市空間と近代性の超克の問題】 陣内秀信「迷宮空間としての盛り場 (要旨)」 大森元吉「戦後都市発展の住民層の変化—広島県の事例—」 フランソワ ジブルー「日本の再アジア化—日本多国籍企業と東アジアの地域編成—」 斯波義信「中国的都市空間とその近代化プロセス (要旨)」 ジョン・C. マーハ「都市における言語空間 (要旨)」 小金芳弘「日米欧の資本主義の違いと日本的資本主義の将来 (要旨)」 荒木亨「通態性と日本語の特徴」 オギュスタン ベルク「私は夢見た、それは東京だった—共同幻想の前提—」	刊行物 (紀要別冊)

1994年3月30日	『アジア文化研究』20 福田秀一「文文学者の留学日記 明治篇四—永井荷風の「西遊日誌抄」と「西遊日誌稿」の一面」 高増杰「社会契約論的「自由」と進化論的「自由」—福沢諭吉と巖復の「自由」についての比較」 和智綾子「アジアのコロンブス 東洋から西洋へ」 横山泰子「井上円了の妖怪学—その発想と方法について」 Murray Rogers, “Who Am I? The Human Question: One Man’s Pilgrimage” Reginald Kearney, “Allies in the Struggle for Equality: African American Views of Japan” John G. Caiger, “Adjusting Mental Maps: New Geography Texts in Meiji Japan” John C. Maher, “Multilingualism in the Philippines” Mark Williams, “Hidden Agendas? Christianity as an Influence on Contemporary Japanese Literature” Motoyoshi Omori, “Trading in Maize, Building of Bricks: Collaboration for Self-Reliance in a Kabras Village, in Western Kenya”	刊行物（紀要）
1994年4月25日	「アメリカにおける日本中世史研究の動向」 殿村ひとみ（ミシガン大学）	講演会
1994年6月9日	「アジア諸国におけるスラムの増大と縮小」 新津晃一（所員）	講演会
1994年8月1日	「社会改革における中国女性の地位と役割」 李小江（鄭州大学）	講演会 * 紀要 21 号に論文として掲載。
1994年12月22日	「比較と地域」 斯波義信（所員）	公開講演会
1995年1月19日	「北タイ貝葉文書について」 飯島明子（ICU 非常勤講師）	公開講演会
1995年2月16日	「アジア文化におけるコミュニケーションのゼロ アナホラ」 バズ・ブエナヴェントゥーラ・ネイロー Paz Buenaventura Naylor（ミシガン大学）	公開講演会
1995年2月21日	「ジェンダー規範の想像：二十世紀初頭日本の婦人雑誌の役割」 登壇者：レベッカ・コーブランド（ワシントン大学セントルイス校）、ショーン・E. エリクソン（マウント・ホリョク大学）、金子幸子（東洋英和女学院大学）	ミニシンポジウム
1995年2月23日	「日本語とタミール語：構造的相似点」 R. E. アッシャー R. E. Asher（エディンバラ大学、ICU 客員教授）	公開講演会
1995年3月16日	「社会的結合」の変質」 1 「隠れキリシタン村の場合」 高崎恵（助手） 2 「中世のドイツ人集団の場合」 魚住昌良（所長）	研究会

1995年3月30日	『アジア文化研究』21 Richard Siddle, “With Shining Eyes: Ainu Social and Political Movements 1918–1937” Koizumi Takashi, “Ogyū Sorai, John Stuart Mill, and Nishi Amane” Steven J. Ericson, “Waging the “War of the Abacus”: Japanese State Purchase of the Seol-Pusan Railway” Patricia G. Sippel, “Mapping the Tokugawa Domain” Joan E. Ericson, ““Narcissus”—A Short Story by Hayashi Fumiko: Translation and Introduction” Anette Masui, “Indigenous Peoples—Changing Roles in the International Sphere” 宮沢恵理子「満州国における青年組織化と建国大学の創設」 張冠増「中国都市発展における外来文化の影響—国際都市長安と上海を中心に」 李小江（くずめよし訳）「社会改革における中国女性の地位と役割」 飯島良子「莽新政権の国家統合論—后稷神話と王莽のまつり—」	刊行物（紀要）
1995年4月20日	「カワカミキヨシと戦前の日米関係」ウィリアム・フーバー William Hoover（トレド大学）	アジアフォーラム
1995年5月18日	「現代中国とインドにおける貧困と不平等」ジム・マトソン Jim Matson（ICU 客員教授）	アジアフォーラム
1995年5月25日	「明治時代の非識字率」リチャード・ルービンガー Richard Rubinger（インディアナ大学）	公開講演会
1995年5月26日	「タイ語と日本語における使役構文と受益構文について」岩崎勝一（カリフォルニア大学）	公開講演会
1995年6月15日	「地方参政権をめぐる日本社会の課題と在日韓国・朝鮮人の課題」佐藤信行（在日韓国人問題研究所協力スタッフ）	アジアフォーラム
1995年6月19日	「日本の近代化、脱近代化は西欧のそれと軌跡を異にするか、等しいか」(Est-ce que la modernisation et la post-modernisation japonaises se différencient de celles européennes ou s’y identifient?) 哲学的認識論的側面から (Séance: Côté philosophique ou épistémologique) 1 アジア文化研究所所長、ウィリアム・スティール挨拶 2 「近代の超克」国際共同研究及び3月パリでのセミナーとの関連における総主題の説明 荒木亨 (ICU) 3 「思想による近代の超克？—西田幾多郎と森有正の場合」田中敦 (ICU) [司会：荒木]	シンポジウム * 日仏会館、ICU 比較文化研究科共催。於 ICU。紀要別冊 6 に特集として掲載。

	<p>4 「世界に開く：西欧的アプローチと日本的アプローチ」 (Ouverture au monde: approche occidentale et approche japonaise) ジョエル・ブデルリック (筑波大 学) [司会、同時通訳：荒木]</p> <p>5 「近代のパラダイム」(Le paradigme moderne) アラン・ マルク・リユー (リヨン大学) [司会、同時通訳：荒木]</p> <p>6 「二十世紀日本の近代化と脱近代化」ウィリアム・ス ティール (ICU) [司会：マーハ]</p> <p>周囲の世界 (ウムヴェルト) の現象学的、社会学的側面 から (Séance: côté phénoménologique du monde ambiant (Umwelt))</p> <p>7 「農村生活の変遷：西日本の池の内と似島に見る伝統 と変化過程」大森元吉 (ICU) [司会：スティール]</p> <p>8 「アイヌと言語の死のイデオロギー：近代性の重荷」 ジョン・マーハ (ICU) [司会：スティール]</p> <p>9 「ポラーノの広場はどこにあるのか—宮沢賢治と近代 —」山本昭彦 (岩手大学) [司会：荒木]</p> <p>10 「フォーブール考—近世パリの事例—」高澤紀恵 (ICU) [司会：スティール]</p> <p>11 「日本の都市と近代の超克」オーギュスタン・ベル ク (フランス国立高等研究院現代日本研究センター 長) [司会：荒木]</p> <p>12 総括討論</p>	
1995年9月21日	「福沢諭吉と「公」「私」「分」の再発見」松田宏一郎 (立 教大学)	アジアフォーラ ム
1995年10月3日	「ビルマにおける「対日協力者」問題：アウン・サン、 バ・モオ、ウー・ソオにとっての日本」根本敬 (東京外 国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所)	公開講演会
1995年10月28日	『アジア文化研究』別冊6 (日本の近代化と脱近代化) M. ウィリアム・スティール、荒木亨編 M. W. スティール、荒木亨「日本の近代化と脱近代化 について」 田中敦「思想による西洋近代の超克？ 西田幾太郎と 森有正の場合について」 Joël Boudierlique, “L’ouverture au monde: approche occidentale et approche japonaise” Alain-Marc Rieu, “Le paradigme moderne” M. William Steele, “Modernization and Post-modernization in Japan’s 20th Century” 大森元吉「農村生活の変遷：西日本の池の内と似島に 見る伝統と変化の過程」	刊行物 (紀要別冊)

	<p>John C. Maher, "Ainu in Japan: Language Loss, Language Recovery"</p> <p>山本昭彦「ポラーノの広場はどこにあるのか—宮沢賢治と近代—」</p> <p>高澤紀恵「フォーブール考—近世パリの事例」</p> <p>Augustin Berque, "La temporalité de la ville japonaise et le dépassement de la modernité"</p> <p>荒木亨「真の他者確立の為に—オーギュスタン・ベルクの日本論を出発点に—」</p>	
1995年10月19日	「占領下における女性問題」小碓美玲（ウイスコンシン大学マディソン校）	アジアンフォーラム
1995年11月16日	「現代ヴェトナムにおける宗教：ホー・チ・ミンの神格化」シャウン・マラーニー Shaun Malarney（所員）	<p>アジアンフォーラム</p> <p>* 紀要 22 号に「The Emerging Cult of Ho Chi Minh? A Report on Religious Innovation in Contemporary Northern Vietnam」 として掲載？</p>
1995年11月17日	「旧ユーゴスラビアの紛争のただ中にガンディーの非暴力の道はあるのか」ヤン・エーベリ Jan Øberg（平和・未来研究のための国際財団所長）	<p>公開講演会</p> <p>* 平和研究所共催。</p>
1995年12月14日	「幕末における対外観へのアプローチ」ハムザ・イサム Isam R. Hamza（カイロ大学）	<p>アジアンフォーラム</p> <p>* 紀要 22 号に論文として掲載。</p>
1996年1月18日	「近代における日本の鍛冶屋：伝統と変容」香月節子（研究所助手）	アジアンフォーラム
1996年2月15日	「フィリピンの経験から見る独裁主義と民主主義」フランシスコ・ネメンゾ Francisco Nemenzo（ICU 客員教授）	アジアンフォーラム
1996年2月17日	<p>「植民地時代後の日韓問題のイメージと現実」</p> <p>開会式 M. William Steele (ICU)</p> <p>第1部 日韓の歴史と相互イメージ</p> <p>1 「過去から学ぶ—より豊かな未来を求めて」金容徳（ソウル国立大学）</p> <p>2 「共通の歴史認識を求めて」角田房子（ノンフィクション作家）</p> <p>第2部 イメージとメディア I</p> <p>3 「日本のマスメディアと韓国のイメージ」持田直武（NHK 解説委員、青山学院大学講師）</p>	<p>シンポジウム</p> <p>* 紀要 23 号に特集として掲載。金講演、角田講演は『鏡のなかの日本と韓国』（2000年、ぺりかん書房）にも収録。</p>

	<p>第3部 日韓経済関係と相互イメージ</p> <p>4「韓国から見る日本の経済」李鶴容（高麗大学）</p> <p>5「日本から見る韓国の経済」隅谷三喜男（東京大学名誉教授、東京女子大学元学長・現理事）</p> <p>第4部 日韓政治関係と相互イメージ</p> <p>6「韓国から見る日本の政治」崔章集（高麗大学、アジア経済研究所客員教授）</p> <p>7「日本から見る韓国の政治」内海愛子（恵泉女学園大学）</p> <p>第5部 イメージとメディア II</p> <p>8「韓国のマスメディアと日本のイメージ」宋道均（SBS ソウル放送解説委員長、東京大学社会情報研究所客員研究員）</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>ビデオ上映</p> <p>1「故郷をつくる街」（KMJ 研究センター、1994年）</p> <p>2「忘れられた皇軍」（大島渚監督、1965年）</p> <p>3「月はどっちにでている」（催洋一監督、1993年）</p>	
<p>1996年3月30日</p>	<p>『アジア文化研究』22</p> <p>【Symposium: Image as Information in 19th Century Japan】</p> <p>Robert Eskildsen, “Renegotiating Foreignness in Bakumatsu Japan”</p> <p>Tetunori Iwashita, “Political Information and Satirical Prints in Late Tokugawa Japan: The Popular Image of Government Officials in Utagawa Kuniyoshi’s <i>Kitaina mei’i nanbyo ryoji</i>”</p> <p>M. William Steele, “Representations of Self and Other in Late Tokugawa Woodblock Prints” (Symposium: Image as Information in 19th Century Japan)</p> <p>John Mertz, “Close Encounters of the First Kind: Jippensha Ikku, Kanagaki Robun, and the Literary Construction of National Identity” (Symposium: Image as Information in 19th Century Japan)</p> <p>Barry D. Steben, “Law Enforcement and Confucian Idealism in the Late Edo Period”</p> <p>Masako Ishii-Kuntz, “A Perspective on Changes in Men’s Work and Fatherhood in Japan”</p> <p>R. E. Asher, “Japanese and Tamil: Some Typological Analogies”</p> <p>Shaun Kingsley Malarney, “The Emerging Cult of Ho Chi Minh? A Report on Religious Innovation in Contemporary Northern Vietnam”</p>	<p>刊行物（紀要）</p>

	<p>Motoyoshi Omori, “Implication of Disputes in Rural Life of the Bachiga in Uganda”</p> <p>イサム R. ハムザ「幕末日本における対外観について」</p> <p>朴光淳「日本の沿岸漁業構造改善と漁村共同体—宮城県・大谷地区を中心に」</p> <p>葛西實「M. K. ガンディーと南アフリカ」</p> <p>飯島明子「シヤム近代文学における『ボンサワダーン・ヨーノック』」</p> <p>福田秀一「日本文学の範囲」</p>	
1996年4月12日	「アジアに学ぶ：地域研究への接近」高橋彰（アジア経済研究所）	公開講演会 *社会科学研究所、教育研究所、一般教育プログラム共催。
1996年4月18日	「インドにおける多言語性：摩擦とハーモニー」E. アンナマライ E. Annamalai（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）	アジアフォーラム
1996年5月2日	「日本国憲法と女性の権利」ベロテ・シロタ・ゴードン Beate Sirota Gordon	公開講演会 *社会科学研究所共催。
1996年5月2日	「冷戦後のアメリカの対アジア外交政策」マイケル・マスタンドューノ Michael Mastanduno（ダートマスカレッジ）	アジアフォーラム
1996年5月10日	「古代インドの宗教的霊的伝統の解釈について」ウマ・ヴェッチイ Uma M. Vesci	公開講演会
1996年5月16日	「朝鮮王朝の政治機構：中央と地方」川島藤也（広島女学院大学）	アジアフォーラム
1996年5月30日	「福沢諭吉：技術から発明へ」アルバート・クレイグ Albert Craig（ハーバード大学）	公開講演会
1996年6月13日	「日本の高等教育における教育思想の行方」D. スレーター David Slater（シカゴ大学）	アジアフォーラム
1996年9月19日	「韓国における男性支配主義と資本主義」リリー・リン Lily Ling（シラキューズ大学）	アジアフォーラム
1996年10月17日	「ネパールにおける私のカースト制度との苦闘体験」ロク・B. バラル Lok Bahadur Baral（トリブバン大学）	アジアフォーラム
1996年11月1日	「ジャポニズムの公演：『蝶々夫人』と国際関係」アーロン・マーティン・コーヘン Aaron Martin Cohen（麗澤大学）	公開講演会
1996年11月14日	「翻訳語「洋服」の成立：「西洋服」から「洋服」へ」孫建軍（研究所助手）	アジアフォーラム
1996年11月29日	「インドの諸言語：マラヤム語の使役用法について」ロン・E. アッシャー Ron E. Asher（エディンバラ大学）	公開講演会

1996年11月30日	<p>「第16回国際シンポジウム「日本とアジア・太平洋：歴史の共有を通じて未来へ」」 開会の辞 功刀達郎 (ICU、社会科学研究所) 三鷹市長挨拶 安田養次郎 基調講演</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グレン・フクシマ (在日米国商工会議所) 2 池明観 (翰林大学・日本学研究所) 3 田中明彦 (東京大学、東洋文化研究所) <p>ドキュメンタリーフィルム上映「映像の20世紀—昭和」(NHK制作) パネル・ディスカッション(1)「歴史認識とビジョンの共有」 パネリスト：朱建栄 (東洋学園大学)、M. ウィリアム・スティール (ICU)、村井吉敬 (上智大学)、姜尚中 (ICU) パネル・ディスカッション(2)「イメージと現実—マスメディアの役割」 司会：平野次郎 (NHK) パネリスト：陸培春 (聯合早報、シンガポール)、裴仁俊 (東亜日報、韓国)、俞宣国 (環球、中国) 閉会の辞 山田経三 (上智大学社会正義研究所)</p>	<p>シンポジウム *社会科学研究所、上智大学社会正義研究所主催、三鷹市、アジア文化研究所共催、岩波書店、日韓文化交流基金後援。</p>
1997年1月16日	<p>「Kommunalism 概念と中世日本近畿日本とドイツ南部における村落構造の比較」アドリアン・ゲルバー Adrian S. Gerber (研究助手)</p>	<p>アジアフォーラム</p>
1997年1月30日	<p>「鉄砲来日：中世世界史と日本」ケネス・チェース Kenneth Chase (ハーバード大学)</p>	<p>公開講演会</p>
1997年2月11日	<p>「歴史の中の日韓相互イメージ：17～18世紀を中心に」 挨拶 M. William Steele (ICU)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「14世紀末から16世紀末における日韓関係」 Kenneth Robinson (ハワイ大学) 2 「17・18世紀韓国人の日本認識」河宇鳳 (全北大学) 3 「江戸時代における朝鮮像の推移」小島康敬 (ICU) 4 「徳川時代の日朝関係と倭館」田代和生 (慶應義塾大学) 5 「朝鮮通信使と町づくり」三宅理一 (芝浦工業大学) 6 ディスカッション 	<p>ミニシンポジウム *河講演、小島講演、田代講演は『鏡のなかの日本と韓国』(2000年、ペリかん書房)に論文として収録。</p>
1997年2月20日	<p>「ジョン・スチュアート・ミルと日本近代：小泉仰教授最終講義」小泉仰 (所員)</p>	<p>公開講演会</p>

1997年2月20日	<p>「持続可能な環境保護計画のために：アンナプルナ保存地区プロジェクトの実践」 チャンドラ・P・グルン Chandra P. Gurung (The Resources Nepal、アジア文化研究所客員研究員)</p>	<p>アジアフォーラム * 紀要 24 号に 「Environmental Conservation for Sustainable Development: The Annapurna Conservation Area Project, Nepal」として掲載。</p>
1997年3月30日	<p>『アジア文化研究』 23 【シンポジウム 「植民地時代後の日韓問題のイメージと現実」】 M. W. Steele, “Introduction to the Symposium” 金容徳 「過去から学ぶ—より豊かな未来を求めて」 角田房子 「共通の歴史認識を求めて」 持田直武 「日本のマスメディアと韓国のイメージ」 宋道均 「日韓関係 50 年—反復される危機の本質」 Rhee Hak-Yong, “Korean Perceptions of the Japanese Economy” 隅谷三喜男 「日本から見る韓国の経済」 崔章集 「日韓関係と日本に対するイメージ—韓国からの一つの歴史的視覚」 内海愛子 「日本から見る韓国の政治—戦後補償運動との関連で」 Ra Sung-Sup, “Economic Thought of the Sirhak School in the Late Choson Dynasty” Kawashima Fujiya, “A Shared Vision in Taishō Japan and Revolutionary China: A Quest for the Perfect Community” Aaron M. Cohen, “The Stage Is the World: Theatrical and Musical Entertainment in Three Japanese Treaty Ports”</p>	<p>刊行物（紀要）</p>
1997年3月31日	<p>『アジア文化研究』 別冊 7（近代化の思想的系譜：小泉仰教授古希記念論文集） M. ウィリアム・ステイール、魚住昌良編 【第一部 思想と学問研究の道】 小泉仰 「私の学問遍歴—恩師・先達・友人」 「小泉仰教授 年譜・業績一覧」 【第二部 論文—近代化の思想的系譜】 小泉仰 「福沢諭吉の女性観」</p>	<p>刊行物（紀要別冊）</p>

	<p>松沢弘陽「『民情一新』 覚書—官民調和論との関係について」</p> <p>福田秀一「阿部次郎の留学日記」</p> <p>小島康敬「徂徠学の実践—津軽藩の事例を中心として—」</p> <p>笹川紀勝「憲法学の課題としての国家論と侵略の問題—朝鮮植民地支配をめぐる「合法・不当」論の主張について—」</p> <p>葛西實「M. K. ガンディーの近代文明批判—A. ナンディーの見解」</p> <p>田中敦「近代と世界像」</p> <p>【研究ノート】</p> <p>魚住昌良「ヨーロッパ中世の鐘と「共同体」—ハーヴェルカンプ教授の近業を中心に—」</p> <p>吉田智行「生成文法理論のチャレンジ：ミニマリスト・プログラムへの展開」</p> <p>青井明「結果を表す副詞について：Sur l'adverbe de résultat: J'ai essayé inutilement de lui téléphoner」</p> <p>荒木亨「意味からの解放」</p> <p>Omori Motoyoshi, "Modernization and Socio-economic Conflict: Lawsuits by Chiga Farmers in Uganda"</p> <p>M. William Steele, "Fukuzawa Yukichi and the Idea of a Shogunal Monarchy: Some Documents in Translation"</p> <p>Stuart D. Picken, "Modernization, Japan, China, Asia, and The West: Comparative Observations"</p>	
1997年4月21日	「多元的文化・宗教と平和：M. K. ガンディー (1869–1948) の実験」 徳田彩子 (研究助手)	アジアフォーラム
1997年5月12日	「アジアの発展と環境問題」 石弘之 (東京大学大学院総合文化研究科)	公開講演会 * 教育研究所、社会科学研究所、一般教育プログラム共催。
1997年5月15日	「ダンドゥット：インドネシアのポピュラー音楽における女性の表象」 C. E. ピオクイント Ceres. E. Pioquinto (シリマン大学、アジア文化研究所客員研究員)	公開講演会 * 紀要24号に講演者による論文「A Musical Hierarchy Reordered: Dangdut and the Rise of a Popular Music」が掲載。

1997年5月26日	「北ミンダナオ・マノボ族のサマヤマン祭」C. E. ピオクイント Ceres. E. Pioquinto (シリマン大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジアンフォーラム
1997年5月27日	「韓国の詩」W. K. チョウ Won Kyung Cho (詩人、舞踊家)	公開講演会
1997年6月5日	「歴史家は司馬遼太郎史観をどう見るか」中村政則 (一橋大学)	公開講演会
1997年6月6日	「ガンディ、闇の中の灯：現代社会における非暴力の意義」ラジモハン・ガンディー Rajmohan Gandhi (インド・政策研究所、桜美林大学客員教授)	公開講演会
1997年6月16日	「遠藤周作における分身について」マーク・ウィリアムス Mark Williams (リーズ大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジアンフォーラム * 紀要 24 号に 「Into the Shadows: The Doppelgänger in the Literature of Endō Shūsaku」として掲載。
1997年9月12日	「開発社会学」 1. 「発展途上国の開発・発展をめぐる」新津晃一 (ICU) 1997. 9. 12 2. 「ネパール山村における開発と保全」(公開講演) 川喜田二郎 (ヒマラヤ保全協会) 1997. 9. 19 3. 「ネパールにおける貧困と社会開発：教育と保健を中心として」小林朋子 (国際開発センター) マンガラ・トラダール (ヒマラヤ保全協会) 1997. 9. 26 4. 「ネパールの農山村開発」水野正己 (農業総合研究所) 1997. 10. 3 5. 「ヒマラヤ保全協会におけるプロジェクトの諸相と参画的地域計画—その1 適正技術」千野俊夫 (元国際協力事業団) 1997. 10. 17 6. 「ヒマラヤ保全協会におけるプロジェクトの諸相と参画的地域計画—その2 環境保全とエコロジー・スクール」田中博 (ヒマラヤ保全協会) 磯桂子 (ヒマラヤ保全協会) 1997. 10. 24 7. 「ヒマラヤ保全協会におけるプロジェクトの諸相と参画的地域計画—その3 文化と開発」鎌田陽司 (ヒマラヤ保全協会) 1997. 10. 31 8. 「プロジェクト総合評価方法の検討」新津晃一 (ICU) 1997. 11. 7 9. 「ヒマラヤにおける環境保全と開発の調和をめぐる」(シンポジウム) 於 ICU 1997. 11. 8	連続公開講座 * ~ 11月18日。 国際交流基金、財団法人三鷹国際交流協会共催、ヒマラヤ保全協会協力。

1997年9月19日	「ネパール山村における開発と保全」川喜田二郎（ヒマラヤ保全協会）	公開講演会 *連続公開講座「開発社会学」の一部。
1997年9月22日	「博物館と皇室」(Museum and the Imperial Household) ヒロコ・マクダモット Hiroko McDermott (オックスフォード大学博士課程)	アジアンフォーラム
1997年10月18日	「日本アジア研究学会（第1回）」	学会 *上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。上智大学比較文化学科共催。
1997年10月20日	「ウイグル族と現代中国の少数民族問題」(Ethnic Separatism in China: The Case of the Uyghurs) D. グラッドニー Dru Gladney (ハワイ大学)	アジアンフォーラム
1997年11月8日	「ヒマラヤにおける環境保全と開発の調和をめぐる」 開会式 M・ウィリアム・スティール (ICU、歴史学) パネルディスカッション 司会：新津晃一 (ICU、社会学) 講演者：川喜田二郎 (ヒマラヤ保全協会)、水野正巳 (農業総合研究所)、千野俊夫 (元国際協力事業団)、田中博 (ヒマラヤ保全協会)、磯桂子 (ヒマラヤ保全協会)、鎌田陽司 (ヒマラヤ保全協会)	シンポジウム *国際交流基金、財団法人三鷹国際交流協会共催、ヒマラヤ保全協会協力。連続公開講座「開発社会学」の一部。
1997年11月10日	「竹川竹斎：幕末の伊勢商人」(Takekawa Chikusai: The Trade Politics of an Ise Merchant in the Closing Years of the Edo Period) ジャクリース・A. ホートヴェェ Jaqueline A. Houtved (研究助手)	アジアンフォーラム
1997年12月13日	「アジアの金属職人文化」 開会のことば M・ウィリアム・スティール (ICU) 挨拶 新津晃一 (ICU、「職人文化と近代化研究会」) 《報告》「アジアの職人文化」司会：田村善次郎 (武蔵野美術大学) [ネパールの鉄器文化] 香月節子 (研究助手) [ネパールの仏像铸造] 小井土満 (武蔵野美術大学) [ネパールの装身具作り] 橘健一 (東京外国語大学大学院、地域文化研究科) [インドネシアの鋳物企業] 三平シルビア (ICU) 《パネル・ディスカッション》「職人文化の継承」 司会：田村善次郎 (武蔵野美術大学) 討論 新津晃一・真島俊一 (TEM 研究所)・南真木人 (国立民族学博物館)・香月洋一郎 (神奈川大学、経済学、日本常民文化研究所) 質疑応答	シンポジウム *アジア文化研究所「職人文化と近代化研究会」主催、武蔵野美術大学美術資料図書館協力。紀要別冊8号に特集として掲載。

	<p>《展示》</p> <p>ネパールの民具展示（鍛冶、鋳造、鍛造による金属製民具）</p> <p>（武蔵野美術大学美術資料図書館収蔵）</p> <p>ビデオ上映「ネパールの金属職人」</p> <p>（「職人文化と近代化研究会」作成）</p>	
1997年12月15日	「香港の過去・現在・未来」(Hong Kong Rising? Present Achievements, Past Ailments Future Aspirations) ロジャー・W. バックレイ Roger W. Buckley (ICU)	アジアンフォーラム
1998年1月19日	「マルコス後のフィリピン：連続性と変化」(Myths in Russian Chinese Relations) テマリオ・C. リベラ Temario C. Rivera (ICU)	アジア研究フォーラム
1998年1月29日	「新世界秩序と東南アジア」(The Post-Marcos Philippines Continuities and Discontinuities Toward the Millennium) デービッド・ワーフェル David Wurfel (トロント大学)	公開講演
1998年2月16日	「ロシア・中国関係の神話と現実」(Transformations in Popular Literature during the first Decade of Meiji) サラ・ペイン Sara C. Paine (テキサス基督教大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジア研究フォーラム
1998年3月30日	<p>『アジア文化研究』24</p> <p>Mark Williams, “Into the Shadows: The Doppelgänger in the Literature of Endō Shūsaku”</p> <p>Ellen Gardner Nakamura, “A Portrait of Takano Chōei”</p> <p>M. William Steele, “Everyday Politics in Restoration Period Japan”</p> <p>Seung-Mi Han, “Korea through Japanese Eyes: An Analysis of Late Meiji Travelogues on Korea”</p> <p>Ceres E. Pioquinto, “A Musical Hierarchy Reordered: Dangdut and the Rise of a Popular Music”</p> <p>Shaun K. Malarney, “The Consequences of the Revolutionary Reform of Marriage and the Wedding Ceremony in Northern Vietnamese Village Life”</p> <p>Chandra P. Gurung, “Environmental Conservation for Sustainable Development: The Annapurna Conservation Area Project, Nepal”</p> <p>Omori Motoyoshi, “Varied Forms of Rural Cooperation: Incipient Cooperative Groups among Bachiga Farmers in Uganda”</p> <p>福田秀一「木下柰太郎（太田正雄）「欧米日記」の成立—文人学者の留学日記 大正編二—」</p> <p>森葉月「浄土真宗親鸞会—「ファンダメンタリズム」論の再検討に向けて—」（研究ノート）</p>	刊行物（紀要）

1998年3月31日	『アジア文化研究』別冊8 (アジアの金属職人文化と近代化) 浅岡康二「ネパールにおける鉄器生産とその技術の変容」 石井溥「ネパールの村落調査とカースト・システム」 南真木人「ネパールにおける職業カーストの分布と銅鍛冶業の展開—産地ヒンドゥー職人とネワール職人の関係—」 Sylvia T. Mihira, “Small-Scale Metal Casting Industry in Indonesia: Situation and Problems” 小井戸満「ネパールにおける仏像鑄造」 橘健一「ネパールの金銀細工師宅での指輪作り」 Tamura Zenjiro, Katsuki Setsuko, Shiozaki Yukiko 「職人文化の継承」(パネルディスカッション) シャム・ダンゴル「カトマンズ盆地住民であるネワール族のジャブ」 浅岡康二「ネワールのジャブの暮らし」 ロク・バハドゥール・バラール「私の父—金細工師マシネの一生—」 南真木人「監訳者あとがき」	刊行物 (紀要別冊)
1998年4月20日	「明治初期戯作文学の変容」ジョン・マーツ John P. Mertz (ノースカロライナ州立大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジア研究フォーラム
1998年5月18日	「帝国日本におけるアイヌ人のアイデンティティ」(Ainu Identity in Imperial Japan) デービッド・ハウエル David Howell (プリンストン大学)	アジア研究フォーラム
1998年6月15日	「錦絵から見る台湾出兵」(Of Savages and Civilization: Imagining Japan's 1874 Expedition to Taiwan) ロバート・エスクセン Robert Eskildsen (スミス・カレッジ)	アジア研究フォーラム
1998年6月20日	「日本アジア研究学会 (第2回)」	学会 *上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。 上智大学比較文化学科共催。

1998年9月21日	「不平等条約はいかに「不平等」であったか：幕末外交史の再考察」(How unequal were the “Unequal Treaties”?—Reinterpreting Bakumatsu International History—) マイケル・オースティン Michael Auslin (研究助手)	アジア研究フォーラム * 紀要 26 号に 「The International Politics of Japanese Tariff Revision, 1862–66: Reassessing Bakumatsu Foreign Policy」として収録。
1998年10月10日	「民衆蜂起の心性：ヨーロッパと東アジアの比較」 1 「ドイツ農民戦争と再洗礼派」W. O. バッカル (ウォータールー大学、コンラッド・グレベル・カレッジ) 2 「ドイツ農民戦争と太平天国」小島晋治 (東京大学)	ミニシンポジウム * 宗教改革史研究会共催。
1998年10月19日	「伝統ある日本民俗舞踏の実践研究」近藤洋子	アジア研究フォーラム
1998年10月24日	「アジア文化研究所 40 周年記念国際シンポジウム「変動するアジア」」 研究所所長挨拶 M. ウィリアム・スティール (ICU) 1 「タイ社会の変化」ピラ・スダム (タイ、小説家) コメント：安積仰也 (ICU、社会学) 2 「変動するアジアのなかの女性」パトリシア・リクァナン (フィリピン、ミリアム・カレッジ) コメント：マサコ・イシイ・クンツ (カリフォルニア大学東京センター) 3 「新国際化時代における宗教の役割—東南アジアの場合—」ジョン・ティタリー (インドネシア、サチャ・ワカナ・キリスト教大学) コメント：ジョン・マーハ (ICU) 4 記念講演「変革の中の日本とアジア—多文化的価値観の創造的対話—」長 (武田) 清子 (アジア文化研究所初代所長、ICU 名誉教授) 5 「戦後の日印関係の歴史」ブリジ・タンカ (インド、デリー大学) コメント：葛西實 (ICU、歴史学) 6 パネル・ディスカッション 「変動するアジアの文化」司会 M. ウィリアム・スティール ピラ・スダム、パトリシア・リクァナン、ジョン・ティタリー、ブリジ・タンカ	シンポジウム
1998年12月14日	「中世日本文学の女性像」(The Representaion of Women in Medieval Japanese Literature) ラージ・パンディー Raj Pandey (ラ・トロブ大学)	アジア研究フォーラム

1999年1月18日	「近代日本の地方統治システムの成立について」 鬼塚博 (非常勤助手)	アジア研究フォーラム
1999年2月15日	「現代日本の社会における『寺仏教』」 (“Temple Biddism” in Contemporary Japan: A Preliminary Report) ステイブリン・G. コベル Stephen G. Covell (プリンストン大学、アジア文化研究所研究助手)	アジア研究フォーラム * 紀要 26 号に「The Temple/Juridical Person: Law and the Temple in Japan」として掲載。
1999年3月30日	『アジア文化研究』 25 Robert C. Clingan, “Karen Brazzell, <i>Traditional Japanese Theatre: An Anthology of Plays</i> ” (書評) John C. Maher, “Mariko Asano Tamanoi, <i>Under the Shadow of Nationalism: Politics and Poetics of Rural Japanese Women</i> ” (書評) M. William Steele, “Sen Sōshitsu, translated by V. Dixon Morris, <i>The Japanese Way of Tea: From Its Origins in China to Sen Rikyu</i> ” (書評) S. C. M. Paine, “The Impact of the Sino-Japanese War (1894–5) on Russian Foreign Policy” Bruce A. Elleman, “The 1907–1916 Russo-Japanese Secret Treaties: A Reconsideration” M. William Steele, “The United States and Japan’s Civil War” Kenneth R. Robinson, “The Imposter Branch of the Hatakeyama Family and Japanese-Chosōn Korea Court Relations, 1455–1580s” M. J. Rhee, “Gender and the Law: Legal Literacy in South Korea” Omori Motoyoshi, “Renovation of the Social Ladder: The Reshuffle of Urban Elites in Kabale in the Early 1970s” 宮永國子「試論：義理と人情あるいは個の倫理」 孫建軍「アメリカの漢字表記「米国」の成立をめぐって」 星山京子「徳川斉昭と「有志」大名の情報ネットワーク」 福田秀一「木下杢太郎（太田正雄）の留学日記」 源了圓「熊澤蕃山における生態学的思想」	刊行物（紀要）

1999年4月19日	「あの亜米利加野郎：E. H. House と明治日本」(That Nasty Yankee Boy: E. H. House and Meiji Japan) ジェームス・ハフマン James Huffman (ウィッテンバーグ大学)	アジア研究フォーラム
1999年4月22日	「アヘン戦争太平天国と吉田松陰の思想形成」郭連友(北京外国語大学)	公開講演
1999年4月27日	「生涯発達論の儒教的・西洋的モデルの比較：クロス・カルチュラル的視座」(Contrasting the Confucian Model of Life-Span Development with the Western Models:A Cross-Cultural Analysis) 金義哲 Kim Uichol (中央大学校)	公開講演
1999年5月11日	「3つのCの統合(儒教、キリスト教、共産主義)：イン家の場合」(Integrating the Three C's (Confucianism, Christianity and Communism): The Case of the Ying family) 梁元生 Leung Yuen-Sang (香港中文大学崇基学院)	公開講演 * ACUCA 共催。
1999年5月17日	「“The Assembly of the Poor” as a New Social Movement in Thailand」ステイー・プラサーセット Suthy Prasartset (ICU)	アジア研究フォーラム
1999年5月28日	「法隆寺：建立にまつわる謎と後世への影響」(Horyu-ji: Questions on Place, Date and Influence) J. エドワード・キダー J. Edward Kidder, Jr. (ICU)	公開講演
1999年6月12日	「Self-Images and Images of the Other: Europe and Japan in the Mirrors of Each other in a Historical View」ボーストロッツ Bo Strath (欧州大学院)	公開講演
1999年6月14日	「Asian Perspectives on a Theory of Motivation」ジェイ・ヴォラ Jay Vora (セント・クラウド州立大学)	アジア研究フォーラム
1999年6月26日	「日本アジア研究学会(第3回)」	学会 * 上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。 上智大学比較文化学科共催。
1999年9月20日	「日本の家族政策の比較文化的考察」(Making Comparative Sense of Japanese Family Policy) パトリシア・ボーリング Patricia Boling (パデュー大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジア研究フォーラム
1999年10月7日	「『武士道と云は』：『葉隠』の世界」小池喜明(東洋大学)	公開講演
1999年10月18日	「古代日本文学における他界観」安田夕希子(東京農工大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジア研究フォーラム
1999年10月29日	「パレステイナ映画『モーゼからの権利証書』(The Deed from Moses) 上映とお話」アッザ・エル・ハサン Azza El-Hassan (監督・撮影)	公開講演

1999年11月6日	<p>「南アジアと東南アジアの現状：根元的倫理的個人主義と下からの草の根の運動」(Understanding South Asia and Southeast Asia Today: Radical Ethical Individualism and Grassroots Movement)</p> <p>所長挨拶 M. W. スティール (ICU)</p> <p>問題提起 葛西實 (ICU)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基調講演 「Beyond the Weary World」 B. N. サラスワティ (Indira Gandhi National Centre for the Arts, New Delhi) 2 「インド (I)：一つの家族としての人類意識：マハトマ・ガンディーとアブドゥル・ガッファール・カーン(辺境のガンディー)」宇野(徳田)彩子 (ICU) 3 「インド (II)：ガンディー亡き後のサルボダヤ運動—J. P. ナラヤンによる「全面革命」運動の歴史的意義—」林明 (弘前大学) 4 「インド (III)：From No-people to People: Glimpses of the Dalit Movement in India」 B. スニール・バヌー (ICU) 5 「ビルマ：アウン・サン・スー・チーの言説と行動：正しい目的と正しい手段」根本敬 (東京外国語大学) 6 「スリランカ：Buddhist Beliefs, Government Schemes and Grassroot Collaboration in a Sri Lankan Village」大森元吉 (ICU) 7 「ヴェトナム：Immoral Present, Moral Future: Morality and Motivation in 20th Century Vietnamese Political Movements」 S. K. マラーニー (ICU) 8 「タイ：The Activation of Grassroots Movements in Thailand: The Case of Assembly of the Poor」ステイ・プラサーセット (ICU) 	シンポジウム * 紀要別冊 10 号に特集として掲載。
1999年11月16日	「海外華人社会の変容」(The Changing Nature of Ethnic Chinese Overseas Communities) 曾纓 Zeng Ying (慶應義塾大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジア研究フォーラム
1999年12月13日	「資本形成と社会的ネットワーク」(Social Networks and the Buiding of Capital'A Comparison of East Asian amd European Immigrant Groups) デイートリッヒ・トレンハルト Dietrich Thränhardt (ミュンスター大学)	アジア研究フォーラム
2000年1月24日	「大衆の『多文化主義』ある地域社会における在日朝鮮人と被差別部落民の関係史」(Grass-Roots "Multiculturalim" Korean-Burakuminn Relations in One Community) ジェフリー・ベイリス Jeffrey Bayliss (ハーヴァード大学)	アジア研究フォーラム
2000年2月2日	「21世紀の東アジアの共生時代と歴史認識：その過去・現在・未来」金両基 (常葉学園大学)	公開講演

2000年2月7日	「昭憲皇太后と日本赤十字社の設立 皇室における女性の役割」(Gendered Monarchy and the Establishment of the Japanese Red Cross Society) アンナ・マリア・トレンハルト Anna Maria Thränhardt (国際日本文化研究センター客員研究員)	アジア研究フォーラム
2000年2月22日	「1930年代フィリピンの大恐慌」(The Philippines in the Great Depression of the 1930s' A Geography of Pain) ダニエル・F. ドッパース Daniel F. Doepfers (ウイスコンシン大学)	公開講演
2000年2月25日	「インドの祈りと人類のヴィジョン：“Mohan, swaraj is coming” (葛西實教授最終講義)」葛西實 (所員)	公開講演
2000年3月30日	『アジア文化研究』26 Zeng Ying 「過放『在日華僑のアイデンティティの変容』」(書評) Stephen G. Covell, “Jacques Gernet, translated by Franciscus Verellen, <i>Buddhism in Chinese Society</i> ” (書評) Stephen G. Covell, “The Temple/Juridical Person: Law and the Temple in Japan” Michael R. Auslin, “The International Politics of Japanese Tariff Revision, 1862-66: Reassessing Bakumatsu Foreign Policy” M. William Steele, “The History of the Tama River: Water and Rocks in Modern Japanese Economic Growth” Yinghong Li, “Psychological Disintegration: Nihilist Self-Destruction in Can Xue’s Fiction” Wakita Haruko, “Japanische Stadtgemeinden und Rituale in Mittelalter: Von Diestleuten zu Stadtern (Übersetzung von Iwakura Yoriko und Adrian Gerber)” 小島康敬「朱子学・陽明学・徂徠学の構図—イスラム思想を合わせ鏡として」 高崎恵「潜伏から「カクレ」へ—キリシタン再考」 岡本佳子「タゴールのネイション観—20世紀初頭の発言を対象に」 鬼塚博「近代日本の地域社会構造を分析する現代的意義と展望」 稲垣滋子「18世紀ロシアのキリスト教に接した漂流民の記述の特徴」 マージ・リー「儀式と修辭学—植民地韓国」 源了圓「横井小楠における攘夷論から開国論への転回」	刊行物(紀要)

2000年3月31日	<p>『アジア文化研究』別冊9 (40周年記念号：変動するアジア、民衆蜂起の心性) 「研究所のアルバムから」 「ICU アジア文化研究所年譜 (1958-1998)」 【特集 シンポジウム 「変動するアジア」】 M. William Steele, “Symposium in Commemoration of the 40th Anniversary of the Institute of Asian Cultural Studies” 武田 (長) 清子 「変革の中の日本とアジア—多元的価値観の創造的対話—」 Pira Sudham, “Thailand in Transition” Pira Sudham, “A Farmer and his Wife” Patricia B. Licuanan, “Women in a Changing Asia” John A. Titaley, “Religion in the Globalization Era: A Southeast Asian Perspective” Brij Tankha, “The Asian Construction of Asia” 【小特集 シンポジウム 「民衆蜂起の心性—ヨーロッパと東アジアの比較」】 ウェルナー O. パックル 「農民戦争と再洗礼派」 小島晋治 「太平天国とドイツ農民戦争—社会的基盤の相違について—」 魚住昌良 「あとがき—民衆蜂起の心性をめぐる二、三の問題点」</p>	刊行物 (紀要別冊)
2000年4月17日	<p>「沖縄が期待していること：沖縄に期待していること」 (What Okinawa Expects : What is Expected of Okinawa) ロバート・エルドリッジ Robert Eldridge (サントリー・フェロー)</p>	アジア研究フォーラム
2000年5月22日	<p>「歴史と記憶：日本の博物館に見る歴史と記憶」 (Mobilizing Memory: Approaches to History in Two Japanese Museums) テッサ・モーリス＝スズキ Tessa Morris-Suzuki (オーストラリア国立大学、一橋大学)</p>	アジア研究フォーラム
2000年6月5日	<p>「19世紀における日本の緑茶とアメリカ人」 (Japanese Green Tea: An American Beverage in the 19th Century) ロバート・ヘリヤー Robert Hellyer (スタンフォード大学、東京大学)</p>	アジア研究フォーラム
2000年6月10日	<p>「中世都市と宗教集団」 開会挨拶 M. ウィリアム・スティール (所長) 1 「シトー派修道会と都市—12世紀後半から13世紀末」 クヌート・シュルツ (ベルリン自由大学) 通訳：魚住昌良 (ICU)</p>	ミニ・シンポジウム * 比較都市史研究会共催。紀要別冊12号に特集として掲載。

	<p>2 「ヨーロッパ中世都市の女性と宗教諸施設」 上条敏子 (一橋大学)</p> <p>3 「中世都市と寺社勢力」 義江彰夫 (東京大学) コメンテーター: 小倉欣一 (早稲田大学)</p> <p>討論 司会: 魚住昌良 (ICU) 通訳: 佐久間弘展 (早稲田大学)</p> <p>閉会挨拶 鶴川馨 (比較都市史研究会代表)</p>	
2000年6月24日	「日本アジア研究学会 (第4回)」	<p>学会</p> <p>* ~ 25日。上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。上智大学比較文化学科共催。</p>
2000年9月18日	「マハトマ・ガンディー 逸されたノーベル賞の栄誉: その理由」 (Mahatma Gandhi "The Missing Nobel Laureate": Why) ヴィヴェック・ピント Vivek Pinto (文京女子大学)	アジア研究フォーラム
2000年10月16日	「明治初期における食事と外交」 (The Emperor's New Food: Food and Diplomacy in Early Meiji Japan) M. ウィリアム・スティー爾 M. William Steele (所員)	アジア研究フォーラム
2000年11月11日	<p>「アジアにおける環境問題と草の根運動」</p> <p>開会の挨拶 M. ウィリアム・スティー爾 (所長)</p> <p>1 "Environmental Problems in the Philippines and NGO Interventions" Germelino Bautista (Ateneo de Manila University)</p> <p>2 "Local Responses to Agent Orange in Vietnam" Shaun Malarney (ICU)</p> <p>3 "Cambodia and the Problem of Pesticides" 田坂興亜 (ICU)</p> <p>4 "Thai Village Industries Using Natural Dyes for Textile Production" Thanit Boodphetcharat (Payap University in Chiang Mai)</p> <p>5 "Japanese ODA and the Environment: Government and Peoples' Response in a Philippine Coal Power Plant" Temario Rivera (ICU)</p> <p>6 "Environmental Destruction and Birds in Japan" Mika Merviö (島根県立大学)</p> <p>7 「水俣病と被害者運動」 原田正純 (熊本学園大学)</p> <p>8 "The Long Protest for the Long River: The Protest Movement against the Construction of the Estuary Dam In the Nagara River" Wilhelm Vosse (ICU)</p> <p>9 「健やかな環境をとり戻すために—ダイオキシンのない社会に—」 石沢春美 (止めよう! ダイオキシン汚染・関東ネットワーク運営委員、水環境を考える会代表)</p>	<p>シンポジウム</p> <p>* 紀要別冊 10号に特集として掲載。</p>

2000年11月13日	「公開討論「アジアの草の根運動」 Germelino Bautista (Prof. of Economics, Ateneo de Manila University), Thanit Boodphetcharat (Head of Research & Evaluation Division, Payap University in Chiang Mai)	アジア研究フォーラム
2001年1月22日	「日本の食におけるアジア：ラーメンとカレー」森枝卓士 (フリーカメラマン、文筆家)	アジアンフォーラム
2001年1月23日 ～24日	「日本アジア研究学会（第5回）」	学会 *上智大学市ヶ谷 キャンパスで開催。 上智大学比較文化 学科共催。
2001年2月15日	「ヨーロッパ中世商人の出自（魚住昌良教授最終講義）」魚 住昌良（所員）	公開講演
2001年2月15日	「中国都市をめぐって（斯波義信教授最終講義）」斯波義 信（所員）	公開講演
2001年2月19日	「テレビドラマに見る異文化接触：日本人と近隣アジア諸 国の人々を中心に」Hilaria Gössmann（トリア大学）	アジアンフォーラム
2001年3月30日	『アジア文化研究』27 John C. Maher, “Amy McNair, The Upright Brush: Ian Zhenqing’s Calligraphy and Song Literati Politics”（書 評） Temario C. Rivera, “Christine B. N. Chin, In Service and Servitude: Foreign Female Domestic Workers and the Malaysian “Modernity” Project”（書評） 【小特集 近代日本の宗教における社会活動】 Inaba Keishin, “Altruism and Charitable Activities of New Religions in Japan: Theoretical Perspectives” Ranjana Mukhopadhyaya, “The Brighter Society Movement of Risshō Kōsei-kai: A New Application of the Bodhisattva Way” Stephen G. Covell, “Lighting Up Tendai: Strengthening Sect-Patristioner Bonds Through The Light Up Your Corner Movement” Elizabeth A. Dorn, “Pollution Relief And The Japan Woman’s Christian Temperance Union” Yulia Mikhailova, “Laughter in Russo-Japanese Relations: Comic Pictures of the Russo-Japanese War” Robert D. Eldridge, “The Amami Reversion Movement: Its Origins, Activities, Impact, and Meaning” Mika Mervio, “Birds, Politics and Environment in Japan”	刊行物（紀要）

	<p>Jeffrey P. Bayliss, “Grass-roots “Multiculturalism”: Korean-Burakumin Interrelations in One Community”</p> <p>Ng Kwok Wai, “The Symmetrical, Parallel and Balanced Characteristics of Bugaku: From Costume Motifs to Music”</p> <p>Yinghong Li, “Banalized Suffering in Yu Hua’s Fiction”</p> <p>Kamata Yoji, “The Transformation of Sherpas and Anthropological Modes of Thought: A Research Note on the Notion of Change in Himalayan Nepal”</p> <p>孫建軍「『増訂華英通語』における「領事」「保険」「陪 審」」</p> <p>松中完二「認知的言語研究の先駆者としての時枝誠記」</p> <p>福田秀一「矢内原忠雄の留学生活」</p> <p>源了圓「横井小楠の「公」をめぐる思想とその「開国」 観」</p>	
2001年3月31日	<p>『アジア文化研究』別冊10（「アジアの草の根運動」）</p> <p>【シンポジウム1：南アジアと東南アジアの現状—根元的 倫理的個人主義下からの草の根運動】</p> <p>葛西實「問題提起」</p> <p>Baidyanath Saraswati, “Keynote Address: Beyond the Weary World”</p> <p>宇野（徳田）彩子「一つの家族としての人権意識—マ ハトマ・ガンディーとアブドゥル・ガッファー・カ ーン：二人の奉仕者」</p> <p>林明「ガンディー亡き後のサヴォダヤ運動—J.P. ナーラ ーヤンによる「全面革命」運動の歴史的意義—」</p> <p>Suneel Bhanu, “From No-People to People: Glimpses of the Dalit Movement in India”</p> <p>根本敬「アウンサンスーチーの思想と行動—「恐怖に 打ち勝つ自己」と「真理の追究」」</p> <p>Omori Motoyoshi, “Buddhist Beliefs, Government Schemes and Grassroots Collaboration in a Srilankan Village”</p> <p>Shaun Kingsley Malarney, “Observations on the 1997 Thai Binh Uprising in Northern Vietnam”</p> <p>Suthy Prasartset, “Grassroots Movements in Thailand: The Case of the Assembly of the Poor”</p> <p>Baidyanath Saraswati, “Sacred Places and Pilgrimage”</p> <p>葛西實「インドの祈りと人類のヴィジョン—“Mohan, Swaraj is Coming.”」</p>	刊行物（紀要別冊）

	<p>【シンポジウム2：アジアにおける環境問題と草の根運動】</p> <p>Germelino Bautista, “Environmental Degradation and Activist Intervention: Reflections on the Philippine Experience”</p> <p>Shaun Kingsley Malarney, “Notes on the History and Consequences of Herbicide Usage in Vietnam”</p> <p>Tasaka Koa, “Cambodia and the Problem of Pesticides”</p> <p>Temario C. Rivera, “Japanese ODA and the Environment: The Calaca Power Plant Complex in the Philippines”</p> <p>Mika Mervio, “Environmental Ethics, Biocentrism and the Need for Avian Conservation”</p> <p>Harada Masazumi, “Grassroots Movements by Minamata Disease Victims”</p> <p>Wilhelm M. Vosse, “The Long Protest for the Long River: The Protest Movement against the Construction of the Estuary Dam in the Nagara River (Japan)”</p> <p>石沢春美「健やかな環境をとり戻すためにーダイオキシンのない社会に」</p>	
2001年4月23日	「イスラーム世界とヨーロッパとの交渉手段：初期中世スペインの事例から」安達かおり	アジアンフォーラム
2001年5月28日	「日本の少子化対策：ExitとVoiceの役割」(Exit, Voice and Japan’s Response to Declining Fertility) Leonard Schoppa (ヴァージニア大学、アジア文化研究所客員研究員)	アジアンフォーラム
2001年6月7日	「日露戦争と地方自治体：長野県を事例に」鬼塚博(研究所手)	公開講演
2001年6月18日	「海保青陵の『老子国字解』と韓非子」韓東育(東京大学)	アジアンフォーラム
2001年9月27日	「アンコールワット遺跡群の調査と保存」田畑幸嗣(研究所手)	アジアンフォーラム
2001年10月11日	「私の日常ではじめる日本人論」毛丹青(作家)	公開講演 * ICU学部主任 「日本史II」特別公開授業、アジア文化研究所後援。
2001年10月15日	「戦後日本の「政治的市民」像：60年代の市民運動」Simon Avenell(カリフォルニア大学バークレー校)	アジアンフォーラム
2001年11月12日	「時代に向かって説く！現代伝統仏教の教え：天台宗回峰行阿闍梨の実例」Stephen G. Covell(研究所手)	アジアンフォーラム

<p>2001年11月23日 ～25日</p>	<p>「アジアのモダニティーと東・東南アジアにおけるテレビドラマ消費」(Feeling “Asian” Modernities: International Workshop on TV Drama Consumption in East/Southeast Asia) November 23 Welcome from Prof. Koto Tomoko (Director of IACS) 【Textuality of Japanese TV Drama】 Discussant: Saeko Ishita (Osaka City University) /1. Mamoru Ito (Waseda University) “The Presentation of the Feminine in Japanese Television Dramas of the 1990s”/2. Eva Tsai (The University of Iowa) “Toward Love for Sale: Mapping the Language of Ren’ai dorama (Love Story)” 【Japanese TV Dramas in East Asia】 Discussant: Koichi Iwabuchi (ICU) / 1. Lisa Leung Yuk Ming (Lingnan University, Hong Kong) “Ganbaru and its Transcultural Audience: Imaginary and Reality in Japanese TV Dramas”/ 2. Yu-Fen Ko (National Chengchi University) “The Desired Form: Japanese Television Melodrama in Taiwan”/ 3. Cheng Shiohjiuan (University of Tokyo) “The Formation of Discursive Space in Japanese Dramas in Taiwan”/ 4. Ming-Tsung Lee (University of Cambridge) (in absentia) “Traveling with Japanese TV Dramas: Cross-cultural Practice and Formation/Transformation of Taiwanese Youth Identities” 【Japanese Popular Culture in Southeast Asia】 Discussant: Chua Beng-Huat (National University of Singapore)/ 1. Chua Geok Lian (National University of Singapore) “Watching Japanese Television Dramas: Relevance, Cultural Proximity and Asian Modernity”/ 2. Ubonrat Siriyuvasak (Chulalongkorn University, Thailand) “Popular Culture and Youth Consumption in Thailand”/ 3. Wang Lay Kim and Zaharom Nain (Science University of Malaysia) “Interpreting Asian Values: Malaysian Television, Japanese Dramas, and Audiences”/ 4. Mr. Toru Ota (The Supervising Director of Dream Maker, Fuji TV. Producer of many popular TV dramas such as Tokyo Love Story, 101th Proposals and All Under One Roof , etc) “Why Japanese TV Dramas Attract Young Viewers in Asia”</p>	<p>シンポジウム * Supported by The Japan Foundation, Asia Center, Japan International Christian University Foundation, New York International Academic Exchange Endowment。 『Feeling Asian Modernities: Transnational Consumption of Japanese TV Dramas』(Hong Kong University Press, 2004) として書籍化。</p>
-----------------------------	--	---

November 24

【East Asian Dis/similarities】 Discussant: Lisa Leung (Lingnan University)/ 1. Dong-Hoo Lee (Incheon University, South Korea) “The Cultural Formation of Korean Trendy Drama: Transnational Program Adaptations and Cultural Identity”/ 2. Shen Li & Yang Jing (Shanghai Media & Entertainment Group) “Low Rating, Hot Topic: Japanese and Korean TV Dramas Consumption in Shanghai”/ 3. Sae-Kyung Yoo and Kyung-Sook Lee (Ewha Woman’s University, South Korea) “A Comparative Study on the Cultural Similarity of the Television Dramas in East-Asian Countries: Wish upon a Star of Korea, Love Talks of Hong Kong, & Love and Sorrow of China”

【VCD: Transnational Cultural Technology】 Discussant: Eric Ma (Chinese University of Hong Kong)/ 1. Hsing-chi Hu, (Chang Jung Christian University, Taiwan) “Japanese VCDs: Chinese Re-makings of Japanese Audio-Visual Products”/ 2. Darrell Wm. Davis (University of New South Wales, Australia) and Yeh Yueh-yu (Hong Kong Baptist University) “Flexible Accumulation, Flexible Consumption: VCD and Class Consciousness in Asia-Pacific”

【Transnational and Cross-cultural Mediation】 Discussant: Ien Ang (University of Western Sydney)/ 1. Jung Sun Park (California State University, Dominguez Hills) “Korean American Youth’s Consumption of Korean and Japanese TV Dramas and Its Implications”/ 2. Ma Luisa T. Reyes and Gary C. Devilles (Ateneo de Manila University) “Glocalizing Telenovelas in Manila”/ 3. Amrih Widodo (Australian National University) “Mediating Family, Romance, and Violence: Modernity, Intercultural Performance, and Identity Politics in Indonesian TV Drama”

【Japan’s Encounters with ‘Asia’】 Discussant: Shin Mizukoshi (University of Tokyo)/ 1. Hilaria Goessmann (Trier University, Germany) “The Relationship of Japanese and Other Asians in Popular Japanese TV Dramas”/ 2. Yoshitaka Mouri (Kyushu University) “Who is ‘Fighting’ with Whom? Reading ‘Fighting Girl’”

	<p>November 25</p> <p>【Women in Drama, Drama in Women's Lives】 Discussant: Kazue Sakamoto (Ochanomizu Women's University)/ 1. Lisa Drummond (York University, Canada) "Producing Modern Feminities: Portrayals of Vietnamese Womanhood in Local Television Dramas"/ 2. Masako Asahara (University of Oregon) "Reconsidering Gendered Nationalism: The Single Mother in the Home Drama of the '90s"/ 3. Hoonsoon Kim and Dong-Sook Park (Ewha Woman's University) "The Disparity of Women's lives between the Real World and the Symbolic World of TV Dramas: Women Viewers' Perception and Evaluation"</p> <p>【Lunch Time Forum: Toward Collaborative Projects】 Kim Hyun Mee (Yonsei University, South Korea)/ Lisa Leung (Lingnan University)</p> <p>【Transbordering 'Chineseness'】 Discussant: Stephen Ching-Kiu Chan (Lingnan University)/ 1. Eric Ma (Chinese University of Hong Kong) "Transborder Desire: Fantasizing, Learning and Apprehending a Higher Modernity"/ 2. Anthony Fung (Chinese University of Hong Kong) "Border-crossing Televisual Viewing: New Imaginative Categories of Chinese Immigrants in Hong Kong"/ 3. Jing Zheng (Institute of Sociology in Chinese Academy of Social Sciences) "Presentation of Nationalism in the Globalizing China"</p> <p>【Concluding Session】 Moderator: Koichi Iwabuchi</p>	
2001年12月10日	「EFAと寺子屋：世界寺子屋運動とは何か」千葉杲弘（所員）	アジアンフォーラム
2002年1月28日	「カール・ハウスホーファーと日本の地政学：第一次世界大戦後の日独関係におけるその影響力」Christian W. Spang（ドイツ・日本研究所研究所手、アジア文化研究所準研究員）	アジア研究フォーラム
2002年2月18日	「夢はアジアを駆けめぐる：私のアジア遍歴」田坂興亜（所員）	アジア研究フォーラム
2002年2月23日	「交流空間の変容：中・近世海上東アジア」古藤友子「所長挨拶」 1 Kenneth R. Robinson (ICU)「朝鮮後期の地図帳に見える日本図」 2 藤田明良（天理大学）「『日出る処』の銘木：海を渡る木材と日宋交流」	ミニシンポジウム * 紀要別冊12号に特集として掲載。

	<p>3 程農化（二胡演奏家・学習院大学非常勤講師）・櫻田泰子（二胡演奏家）「二胡と琴：演奏と解説」</p> <p>4 渡辺美季（東京大学博士課程、日本学術振興会特別研究員）「近世琉球における漂着民の船隻・積荷の処置：日本と中国の狭間で」</p> <p>5 浪川健治（筑波大学）「蝦夷地の無事：17世紀アイヌ社会の中の和入」</p> <p>6 「総括討論」司会：M. W. Steele（所員）、小島康敬（所員）</p>	
2002年3月30日	<p>『アジア文化研究』28（安積仰也・稲垣滋子両教授退任記念号）</p> <p>Azumi Koya, “Farewell to ICU: A Few Reflections（＋略年譜）”</p> <p>稲垣滋子「漂流民の最初の出会いにおけるコミュニケーション行動（＋略年譜）」</p> <p>新津晃一「首座都市論と過剰都市論の妥当性をめぐって—東南アジアの大都市研究のための視座—」</p> <p>佐藤豊「韓国語における統語的複合語—漢語の場合—」</p> <p>Komori Yuri, “Trends in Japanese First Names in the Twentieth Century: A Comparative Study”</p> <p>鈴木理恵「褒めの返答に対する褒め提示側の印象度分析」</p> <p>福田秀一「矢内原忠雄の留学生活」</p> <p>Wakita Haruko, “The Character of Japan's Trade with Ming: A Price-Centered View (Translated by Ronald P. Toby and Kanazawa Atsuko)”</p> <p>安田夕希子「日本古代文学にあらわれた他界観—日本霊異記における「地獄」を中心に」（研究ノート）</p> <p>Stephen Nolan, “The Alphabet and Spelling in 'Cho”（研究ノート）</p> <p>呉国偉「増本伎共子『雅楽入門』」（書評）</p>	刊行物（紀要）
2002年4月22日	「中世日本の牙と爪：僧兵と侍」(The Teeth and Claws of Medieval Japan) Mikael S. Adolphson（ハーバード大学助）	アジア研究フォーラム
2002年4月25日	「韓日関係と相互認識：歴史と展望」河宇鳳（全北大学）	公開講演 * ICU 学部科目「日本思想史」特別公開授業、アジア文化研究所後援。
2002年5月13日	「返還後の香港人のアイデンティティ」容應蕓（亜細亜大学、アジア文化研究所研究員）	アジア研究フォーラム

2002年5月15日	「アジアプロジェクト「変化する世界における日本外交関係」(Japanese Foreign Relations in a Changing World) Earl A. Carr (ジャマイカ大使)、谷口誠 (早稲田大学現代中国総合研究所所長)、Andrew Horvat (アジア財団日本代表)	公開講演 * 日本研究プログラム、アジア文化研究所、アジア研究プログラム後援。
2002年6月3日	「アメリカの歴史家と日本の教科書」(American Historians and Japanese Textbooks) James Matson (コロラド大学)	アジア研究フォーラム * 紀要29号に論文として掲載。
2002年6月22日 ～23日	「日本アジア研究学会(第6回)」	学会 * 上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。上智大学比較文化学科共催。
2002年9月27日	「津軽から見る日本の歴史」(Japanese History: a View from Tsugaru) Rosemary Gray Jeffcott (オーストラリア国立大学客員フェロー、アジア文化研究所研究員)	アジア研究フォーラム * 紀要29号に論文として掲載。
2002年9月30日 ～11月11日	「連続公開講座「アジアの多様性と共通性」 9月30日「インドネシア 多様な宗教」宮崎恒二(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所) 10月7日「ベトナム 科学、儀礼、宗教」Shaun K. Malarney (所員) 10月21日「ビルマ(ミャンマー) アウンサンスーチーの思想」根本敬(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 10月28日「インド 若者意識—日本との比較から」千葉果弘(所員) 11月11日「韓国 家族観の変化」矢野百合子(東京女子大学・ICU 非常勤講師、アジア文化研究所準研究員)	公開講演
2002年9月30日	『アジア文化研究』別冊11(特集「都市と平和」魚住昌良、斯波義信両教授記念号) 【第1部】 魚住昌良「比較都市史への歩み—後半生の回顧と出会い」 「魚住昌良教授 略年譜と研究業績」 斯波義信「清代台南府城の「会」、「境」と「郊」—旧中国都市における民間の公共組織—」 「斯波義信教授 略年譜と研究業績」	刊行物(紀要別冊)

	<p>Uozumi Masayoshi, “Stadt und Bürgertum in der mittelalterlichen Geschichete Japans” 魚住昌良「日欧比較史への試み—中世都市の指導層—」 魚住昌良「中世ヨーロッパ商人の出自」</p> <p>【第2部】</p> <p>源了圓「横井小楠における天の観念とキリスト」 Fukuzawa Yukich, “<i>Yasegaman no setsu: On Fighting to the Bitter End</i> (Translation and Notes by M. William Steele)” 青木敦「宋代地方官考課制度の基調」 小島毅「海澄県の生成過程—明末の地域意識—」 本野英一「上海に於ける小口半税制度規制の挫折—崇明島綿花買付体制の背後にある中英経済秩序観念—」 Zeng Ying, “Chinese American Community Organizations: History and Perspectives” 真嶋亜有「肉食という近代—明治期日本における食肉軍事需要と肉食観の特徴—」 安達かおり「後ウマイヤ朝期スペインにおける敵国人の保護—「アマーン」の理論と実際についての一試論—」 斎藤綱子「習慣法文書をめぐる最近の研究動向—西欧中世における「権力と自由」—」 江川由布子「都市防衛とゲマインデー—13世紀前半シュトラスブルクにおける市壁建設から—」 早川朝子「ニュルンベルク市当局の再洗礼派理解と市の平和」 上尾信也「<i>Musica pacis et guerrae</i>: 戦争と平和の音楽」 戸谷浩「「チャーンゴー」研究のアポリア」 張冠増「論中国古代城市規劃中的儒教文化影響」 マルクス・リュッターマン「日本中近世都市をめぐるエッセイ—西洋日本学者の視点から—」(研究ノート)</p>	
2002年10月7日	「チェンマイの漆器」Krisana Charoenwong (パヤップ大学、アジア文化研究所研究員)	アジア研究フォーラム
2002年11月18日	「フィッシャー対リッカビーの異変：条約港日本の新聞、スキャンダル、風刺」(The Strange Case of “Fisher vs. Rickerby”): Press, Scandal, and Satire in Treaty-Port Japan) Todd Munson (インディアナ大学博士課程)	アジア研究フォーラム *紀要30号に論文として掲載。
2002年12月21日	「アジアの宇宙観」 1 村上陽一郎 (ICU)「生まれる宇宙と造られる宇宙—東西宇宙観の比較」 2 矢野道雄 (京都産業大学)「インドの天文学と宇宙論」	ミニシンポジウム *紀要別冊13号に特集として掲載。

	<p>3 前田常作 (武蔵野美術大学理事長)「曼陀羅の宇宙観」</p> <p>4 近藤洋子 (所員)「舞踊 動く曼陀羅: 黒川さんさ踊り、早池峰神楽」</p> <p>5 「ディスカッション」 司会: 古藤友子 (所長)</p>	
2003年2月12日	「湯浅八郎と二十世紀」(Yuasa Hachiro and the 20th Century) 長 (武田) 清子 (顧問)	公開講演 * 社会科学研究所共催。
2003年2月18日	「三三四郎」「伊豆の踊り子」「青い山脈」: 旧制高校のリベラルアーツ教育」(Liberal Arts Education at High Schools of Prewar Japan) 福田秀一 (ICU)	公開講演 * キリスト教と文化研究所共催。
2003年2月20日	「アジア文化研究所研究所手による公開研究発表会」 1) 「くりかえされるマハトマ・ガンディーの暗殺—激化する南アジアの宗教対立」 宇野 (徳田) 彩子 (歴史学) 2) 「展示される伝統」 高崎恵 (人類学) 3) 「日本文化論—1977年の丸山真男の講義録」 宮沢恵理子 (歴史学) 4) 「西洋人宣教師の中国人助手たち」 孫建軍 (言語学)	公開講演
2003年2月28日	「第三回 日韓合同セミナー「日韓の相互文化における普遍性と特殊性」 総合司会 鄭載勲 (ICU 大学院) 合同発表 池明観著『チョゴリと鎧』を読んで 報告者 増田悠乃 (ICU 大学院)、朴鍾潤 (韓国外国語大学国際地域大学院) 講演会 1) 「日韓映画事情 どんな映画を見ているの?」 佐藤結 (韓国映画専門誌「シネ 21」東京通信員) 2) “The Necessity for Establishing a Cooperative Union in Northeast Asia” 元種根 (韓国外国語大学校教授)	公開講演 * ICU 大学院比較文化研究科・韓国外国語大学校国際地域大学院共催、日韓文化交流基金助成。
2003年3月30日	『アジア文化研究』29 高澤紀恵「都市・平和・武器—1614年パリ断章—」 M. William Steele, “The Anglo-Japanese Alliance and Japanese Nationalism” Hiroko Willcock, “Advent of a Meiji Prophet and Carlylean Man of Letters: Uchimura Kanzō 1885–1896” Rosemary Gray Jeffcott, “Japanese History: A View from Tsugaru” Jacqueline Ann Houtved, “Building a Rich Country and a Strong Army: A Japanese Merchant's Suggestions on How to Achieve Wealth and Power”	刊行物 (紀要)

	<p>Christian W. Spang and Michael Wachutka, ““Made in Japan”: An Introduction to Recent Tokyo-based German Historical Research on Modern Japan (1853–1945)”</p> <p>Jim Matson, “American Historians and Japanese Textbooks”</p> <p>Sato Yutaka, “Externalization in the Temporal Affix Construction”</p> <p>石渡茂 「『小北文庫』—オーストラリア・ニュー・ジーランドその他太平洋地域の研究の宝庫」(研究ノート)</p> <p>Kwok-wai Ng, “William P. Malm, <i>Traditional Japanese Music and Musical Instruments</i>” (書評)</p>	
2003年3月31日	<p>『アジア文化研究』別冊12 (特集「中世都市と宗教集団」、『交流空間の変容：中・近世海上東アジア』)</p> <p>【シンポジウム1：中世都市と宗教集団】</p> <p>クヌート・シュルツ 「シトー修道会と都市—12世紀後半から13世紀末 (魚住昌良・早川朝子訳)」</p> <p>上篠敏子 「ヨーロッパ中世都市の宗教諸施設—選択の幅と現実」</p> <p>義江彰夫 「日本の中世都市と寺社勢力」</p> <p>小倉欣一 「三報告へのコメント」</p> <p>早川朝子 「討論概要」</p> <p>魚住昌良 「シンポジウム「中世都市と宗教集団」編者あとがき」</p> <p>【シンポジウム2：交流空間の変容—中・近視海上東アジア】</p> <p>Kenneth R. Robinson, “(Introduction to Papers from the Symposium) Changing Spaces of Interaction: Medieval and Early Modern East Asia”</p> <p>ケネス・ロビンソン 「朝鮮後期の刊本地図帳に見える日本図」</p> <p>渡辺美希 「近世琉球における中国人漂着民の船隻・積荷の処置の実態—日本と中国の狭間で—」</p> <p>浪川建治 「蝦夷地の「無事」—17世紀アイヌ社会のなかの「和人」—」</p>	刊行物 (紀要別冊)
2003年4月21日	<p>「外人タレント」Matthew Carlsen (ハワイ大学大学院博士課程、アジア文化研究所準研究員)</p>	アジア研究フォーラム
2003年5月29日	<p>「『吾有時』の意義とその解釈学的な可能性」(The Meaning of “gouji” (self-being-time) and its Interpretative Possibilities) Anthony Black (駒沢短期大学非常勤講師、アジア文化研究所準研究員)</p>	アジア研究フォーラム

2003年6月9日	「異常なし? : 目に見えない障害と日本の公立小学校での特殊教育」(“Invisible” Disabilities and Special Needs Education in Japan: Views from a Public Elementary School in Saitama Prefecture) Jeffrey Maret (ハワイ大学大学院博士課程、国際交流基金フェロー、アジア文化研究所準研究員)	アジア研究フォーラム
2003年6月21日	「日本アジア研究学会(第7回)」	学会 *~22日。上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。上智大学比較文化学科共催。
2003年9月22日	「to asia or not to asia? : シリーズ『アジア新世紀』の編集を終えて」 坂元ひろ子(一橋大学、アジア文化研究所研究員)	アジア研究フォーラム
2003年10月7日	「二胡の歴史と演奏」程農化(学習院大学)	公開講演 *ICU 学部科目「日本史II」「アジア史I」ジョイント特別公開授業、アジア文化研究所後援。
2003年10月20日	「『東京三百年祭』における『江戸の近代的記憶』の構造」(Tokyo's 300th Birthday, 1889: Inventing the Modern Memory of Edo) Jason G. Karlin (東京大学社会科学研究所)	アジア研究フォーラム
2003年10月30日	「辺境(蒙古)から見た満州国「民族協和」の実態」(The Mongolian Experience of Manchukuo's Multiracial Harmony) Li Narangoa (一橋大学客員教授)	公開講演
2003年11月10日	「日中両国語意味対照研究」(Comparisons of the Meanings of Words in Japanese and Chinese) 李国棟(西安交通大学、アジア文化研究所研究員)	アジア研究フォーラム
2003年12月6日	「視覚化された近代性: 19世紀後半から20世紀半ばまで」(Modernity Made Visual: From the Late 19th Century to the Mid-20th Century) 1「李王家美術館にみる近代日本美術—統治戦略としての visual images」李成市(早稲田大学教授) 2「国民国家の視覚化—ロシア人の意識における極東」Yulia Mikhailova(広島市立大学教授) 3「戦争美術の語法と文脈」河田明久(早稲田大学非常勤講師)	シンポジウム

	<p>4 「身体美醜という運命 - 近代日本エリート層の人種的ジレンマと其の可視化の系譜」 眞嶋亜有 (ICU 大学院比較文化研究科博士課程)</p> <p>5 「質疑応答」 司会 ケネス・ロビンソン (所長)</p>	
2003 年 12 月 15 日	「東南アジアにおける急進的イスラム：フィリピンとインドネシアの視点から」 (Radical Islam in Southeast Asia: Philippine and Indonesian Perspectives) Temario C. Rivera (所員)	アジア研究フォーラム
2004 年 1 月 19 日	「日本における草の根の女性運動：生活クラブの活動」 (The Women's Movement in Japan at the Grassroots level: With the Special Emphasis on the Seikatsu Club) Kamayani Singh (準研究員)	アジア研究フォーラム
2004 年 1 月 19 日	「日本アジア研究学会 (第 8 回)」	学会 * ~ 20 日。上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。上智大学比較文化学科共催。
2004 年 2 月 9 日	「日韓両国の音楽特性でみた日本と韓国の文化の差」 趙泳培 Cho Youngbae (済州教育大学)	公開講演
2004 年 2 月 9 日	「Cafe Society in Japan or Why the Starbucks Empire Won't Prevail」 Merry White (ボストン大学、ハーバード大学ライシャワー日本研究所客員研究員)	公開講演
2004 年 2 月 16 日	「力も富も文化も超えて：21 世紀中期に向かうアジア太平洋の国際関係と展望」 (Beyond Power, Wealth and Culture?) Roger Buckley (ICU)	アジア研究フォーラム
2004 年 3 月 30 日	『アジア文化研究』 30 Barbara Ambros, "The Display of Hidden Treasures: Zenkōji's Kaichō at Ekōin in Edo" Todd Munson, "The Strange Case of "Fisher vs. Rickerby": Press, Scandal, and Satire in Treaty-Port Japan" 田中祐介 「思考様式としての大正教養主義—唐木順三による阿部次郎批判の再検討を通じて—」 Jens Sagen, "A Battle against Tradition: The Rise of Naval Aviation in Modern Japan" Ishiguro Yoshiaki, "The Korean Student Movement in Japan and Japanese Anxiety, 1910–1923" Gavan McCormack, "Water, Development, and Nature in Korea: Struggling towards Sustainability"	刊行物 (紀要)

	<p>Tsung-Cheng Lin, “Historical Narration under Multiple Temporalities: A Study of Narrative Style in Wu Weiye’s (1609–1672) Poetry”</p> <p>Yinghong Li, “Narratives of Disclosure and Narratives of Female <i>Bildung</i>”</p> <p>Kaemmanee Charoenwong, “The Evacuation of the Nationalist Chinese (Kuomintang/KMT) Troops in Northern Thailand from the 1950s to Today”</p> <p>Sung Hee Choi, “Orientalism in the American Theater, Late Nineteenth Century to the 1970s”</p> <p>福田秀一「西オーストラリア諸大学の日本文学関係蔵書」(研究ノート)</p> <p>Christian W. Spang「上田浩二、荒井訓、『戦時下日本のドイツ人たち』」(書評)</p>	
<p>2004年3月31日</p>	<p>『アジア文化研究』別冊13</p> <p>【特集Ⅰ アジア文化研究所ミニシンポジウム「アジアの宇宙観」】</p> <p>村上陽一郎「創造される宇宙・誕生する宇宙」</p> <p>矢野道雄「インドの天文学と宇宙論」</p> <p>近藤洋子「動く曼荼羅—民族舞踊「黒川さんさ踊り」「山伏神楽」—」</p> <p>【特集Ⅱ 「改宗の聖と俗：アジアからの展望」】</p> <p>John Clammer, “Transnationalism and Belief: Cultural Identity and Conversion to Japanese New Religions in Singapore”</p> <p>Matsuoka Hideaki, “Hierarchy and Identity: On a Japanese New Religions’ Strategy of Maintaining Japaneseness in Brazil”</p> <p>Takasaki Megumi, “Group Conversion as Reconstructing Identity”</p> <p>Ito Masayuki, “The Search for a New Identity and the Appropriation of Alternative Meaning System: Conversion and Commitment to Asian New Religion”</p> <p>【特集Ⅲ 「北東アジアの安全保障問題」】</p> <p>Juchan Kim, “Political Economy of Defense Budgeting in Korea”</p> <p>Gavan McCormack, “Korea: Unfinished Business of the Twentieth Century”</p> <p>Sakata Yasuyo, “The U.S.-ROK Alliance in Transition: The Post-Cold War Redefinition and Beyond”</p>	<p>刊行物（紀要別冊）</p>

2004年4月19日	「気難しい隣国：日本と北朝鮮」(Difficult Neighbors: Japan and North Korea) Gavan McCormack (所員)	アジア研究フォーラム
2004年4月26日	「Meiji-Period Kokugaku: Implementation, Dismissal and Transformation」 Michael Wachutka (トユエビンゲン大学、アジア文化研究所準研究員)	アジア研究フォーラム
2004年5月10日	「アジアの政治をになう女性指導者たち：『よりよい指導者』たりうるか」(Female Political Leaders in Asia: A 'better leadership'?) Claudia Derichs (デュイスバーグ大学)	アジア研究フォーラム * JICUF 共催。
2004年5月24日	「日本の20代の女性の避妊」(Women in Their 20s and Contraception in Japan) Shana Fruehan (シカゴ大学、アジア文化研究所準研究員)	アジア研究フォーラム
2004年6月2日	「大衆文化にみる将軍と大奥の女性達」(The Shogun and His Women in Popular Culture) Anne Walthall (カリフォルニア大学アーバイン校)	アジア研究フォーラム
2004年6月3日	「『朝鮮通信使の服飾』 絵巻にみる表現形式の変化：江戸時代における朝鮮通信使の服飾」 鄭銀志 (日本女子大学家政学部被服学科学術研究員)	公開講演 * 日本研究プログラム共催。
2004年6月7日	「第二次世界大戦における『軍人禅』：『聖戦』の本来のありかた」 ('Soldier Zen' in World War II Japan: A Classic Case Study of 'Holy War') Brian Victoria (ハワイ大学マノア校)	アジア研究フォーラム
2004年6月10日	「ガングロ：トランスナショナリズムと文化交流」(Ganguro: Transnationalism and Cultural Friendship) Sharon Kinsella (イエール大学)	公開講演
2004年9月27日	「源氏物語の涙」(Genji's Tears) Tzvetana Kristeva (所員)	アジア研究フォーラム
2004年10月18日	「Self-Cultivation, Transcendental Being, and Nature On the Sacred Place of Shuyodan Hoseikai」 松岡秀明 (淑徳大学)	アジア研究フォーラム
2004年10月25日	「日本の対中安全保障政策：矛盾と挑戦」(Japan's Security Policy Towards China Contradictions and Challenges) Reinhard Drifte (ニューカッスル大学名誉教授)	アジア研究フォーラム
2004年10月26日	「多摩農民の祈り」 増田淑美 (立川市昭島市文化財保護審議会委員)	公開講演 * ICU 学部科目「日本史 II」特別公開授業、アジア文化研究所後援。
2004年10月27日	「赤穂浪士讃歌：忠臣蔵の近代史にみられる浪曲師たち」(Singing Praise of the 47 Ronin Naniwabushi Storytellers in the Modern History of Chushingura) Henry Smith (コロンビア大学、JICUF 客員教授)	アジア研究フォーラム

2004年11月8日	「メールで恋して：10代少年少女とテクノロジー」(Love by Mail: Japanese Teens and Technology) Todd Tilma (ミシガン大学アン・アーバー校、物理学科学研究所客員研究員)	アジア研究フォーラム
2005年1月31日	「水俣病被害と政府の対応：日本の戦後民主主義」(The Minamata Poisoning, Government Reactions, and Postwar Democracy in Japan) Anja Osiander (ドレスデン工科大学東アジアセンター、大阪大学大学院法学研究科外国人研究員)	アジア研究フォーラム
2005年2月16日	「The Legacy of Manchukuo to Two Koreas」 Han Suk-Jung (東亜大学、国際日本文化研究センター客員教授)	公開講演 * 平和研究所共催。
2005年2月19日	「Militant Islam in Southeast Asia: Contested Vision of Justice and Community」 1 開会挨拶 鈴木典比古 (ICU学長)、高澤紀恵 (アジア文化研究所所長) 2 「現代インドネシアのイスラム活動家」 Azyumardi Azra (インドネシア国立イスラム大学学長) 3 「マレーシアにおける政治的イスラム勢力」 Abdul Rahman Embong (マレーシア国民大学) 4 「南タイにおけるイスラム勢力の病理学」 Omar Farouk Bajunid (広島私立大学) 5 「フィリピン南部における独立ムスリム国民国家への苦闘」 Temario C. Rivera (ICU) 司会 染谷臣道、新津晃一	シンポジウム * 国際基督教大学 21世紀 COE プログラム「『平和・安全・共生』研究教育の形成と展開」 協賛。
2005年3月30日	『アジア文化研究』31 George Bedell, “Imperative Clauses in Lai and Mizo” 青井明「フランス語副詞分類の試み」 Ikoma Natsumi, “Gender Masquerade: Reflections on Irezumi” Reinier H. Hesselink, “The Palace Murder of Soga no Iruka and the Taika Reform” 岡本佳子「日露戦争期英米ジャーナリズムに見る岡倉覚三一行―「日本美術院欧米展新聞記事切抜帖」について―」 Tamaki Taku, “Japan’s Annexation of Korea as Its Prewar Identity Representation” Ishiguro Yoshiaki, “The Theory of a Government Plot?: The Massacre of Koreans in Japan in September 1923” 福田秀一「近現代の歌謡に見る放浪漂泊」 Claudia Derichs, “Female Political Leadership in Asia: Do women lead better?” (研究ノート)	刊行物 (紀要)

	松中完二 「「D-E 理論」と翻訳における意味の等価性について—芭蕉の「古池」の英訳を元に」(研究ノート)	
2005年3月31日	『アジア文化研究』別冊14 河田明久「近代日本「戦時図像」解釈—「家族」の場合」 Harry Wray, “Ideology in Search of Supporting History: A Content Analysis of the Controversial Japanese History Textbook <i>Atarashii Rekishi Kyōkasho</i> ” Yoshida Takashi, “A War over Words: Changing Descriptions of Nanjing in Japanese History Textbook” Peter Mauch 「Peal Harbor as “New History”: Japanese-American Relation, 1938–1941, and the Atarashii Rekishi Kyokasho」 Timothy M. Yang, “The Japanese textbook Controversy and the Legacy of the Textbook Reform of the Allied Occupation” 源了圓「横井小楠の暗殺をめぐる事件と「天道覚明論」をめぐる問題」	刊行物（紀要別冊）
2005年4月18日	「日韓関係「難しさ」の構図」玉置拓（研究員）	アジア研究フォーラム *紀要32号に論文として掲載。
2005年6月6日	「教科書問題」西川正雄（東京大学名誉教授）	アジア研究フォーラム
2005年6月18日 ～19日	「日本アジア研究学会（第9回）」	学会 *上智大学市ヶ谷キャンパスで開催。上智大学比較文化学科共催。
2005年9月26日	「現在の日中米関係を考える」三船恵美（駒澤大学）	アジア研究フォーラム
2005年10月3日	「国連安全保障理事会再編と日本」(Japan and the reform of the UN Security Council) Reinhard Drifte（ニューカッスル大学名誉教授、早稲田大学客員教授）	アジア研究フォーラム
2005年10月11日	「アジアの南と北から：音の架け橋」T. M. Hoffman、Abdul Rahman	公開講演 * I-WEEK 特別演奏会。
2005年10月27日	「アジアそして非戦へのまなざし」山室信一（京都大学）	公開講演

2005年11月12日	<p>「パロディと日本文化」 開会挨拶 M. W. Steele (ICU 教養学部長)、高澤紀恵 (アジア文化研究所所長)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「パロディの理論」 ツベタナ・クリステワ (ICU) 2 「百鬼夜行絵巻の図像を読む」 小峯和明 (立教大学) 3 「『小紋雅話』の仕掛け—山東京伝作絵画本のパロディ」 岩崎均史 (「たばこと塩の博物館」主任学芸員) 4 「『聖人の道』と『色道』」 小島康敬 (ICU) 5 “Where Did the Parody Go?: History and Ethnicity in early Meiji Fiction” ジョン・マーツ (ノースカロライナ州立大学、アジア文化研究所研究員) 6 「中国文化におけるパロディ」 古藤友子 (ICU) 司会 M. W. スティール、広瀬正宣	シンポジウム * 紀要別冊 16 号に 特集として掲載。
2005年12月12日	「「非人道」な鎖国制度に挑むアメリカ人宣教師：ペリーの 主席通訳者 S. W. ウィリアムズのこと」 陶徳民 (関西 大学)	アジア研究フォー ラム
2006年1月10日	「O'Neill on China Stage: Theatre in Intercultural Transformation」 劉海平 (南京大学)	公開講演
2006年1月12日	「Confucianism in China」 劉海平 (南京大学)	公開講演
2006年1月27日	「日本は「神の国」か「神道の国」か、それとも無宗教 の国なのか：富士山に対する見方について—」 平川祐弘 (東京大学名誉教授)	公開講演
2006年2月6日	「文明開化と日本語：恋愛・新婚旅行・家庭」 飛田良文 (客員所員)	アジア研究フォー ラム
2006年3月30日	『アジア文化研究』 32 Kenneth R. Robinson, “An Abridged Undated Printing of the <i>Hedong chegukki</i> ” Takahashi Kimiaki, “Tsushima Island as a Boundary Area” 菊池秀明 「太平天国前夜の広西における社会変容—台 湾故宮博物館所蔵の档案史料を中心とした分析—」 Yinghong Li, “Positioning women in History” 増田淑美 「「公私日記」に見る江戸天保期の村の助け合 い」 Susanne Klien, “Early Chinese Poetry by Mori Ogai” 玉置拓 「日韓関係「難しさ」の構図」 Ron Carle, “Democracy in Action: Heritage Presentation as a Social Movement” セバスチャン・ブロック (石渡巧訳) 「シリア語文学：諸 文化の十字路」	刊行物 (紀要)

	<p>高柳昌久「中島飛行機三鷹研究所における動員学徒」 (研究ノート)</p> <p>Setsuko Buckley, “Issue and Perspectives in Moral Education in Japan” (研究ノート)</p> <p>倉田明子「バーゼル伝道会所蔵の中国関連コレクションについて 附中国語文献コレクション目録」(研究ノート)</p>	
2006年3月31日	<p>『アジア文化研究』別冊15 (イスラム・政治・アイデンティティ：東南アジアにおけるイスラムの新展開)</p> <p>Azyumardi Azra, “Contemporary Islamic Militant Movement in Indonesia”</p> <p>Masdar Hilmy, “Looking into God’s Heaven: Technological Constructs of Islamic Radicalism in Post New Order Indonesia”</p> <p>Abdul Rahman Embong, “Political Islam and Muslim Militancy in Malaysia: Who Are the “Militants?””</p> <p>Sharifah Zaleha Syed Hassan, “Political Islam in Malaysia: The Rise and Fall of Al Arqam”</p> <p>Norani Othman, “Political Islam, “Islamic Militancy” and the Gender Question”</p> <p>Omar farouk Bajunid, “The Pathology of Muslim Militancy in South Thailand”</p> <p>Saroja Dorairajoo, “<i>Khao Yam</i> Violence: A Survey of Some of the Factors Contributing to the Violence in Southern Thailand”</p> <p>Temario C. Rivera, “The Struggle of the Muslim People in Southern Philippines: Independence or Regional Autonomy?”</p> <p>Carmen A. Abubakar, “Muslim Women Barangay Councilors and Political Culture of Sulu and Tawi-Tawi in the Southern Philipines”</p> <p>Tokoro Ikuya, “Border Crossing and Politics of Religion in Sulu”</p>	刊行物 (紀要別冊)
2006年4月24日	「ジェンダーと日本の対外政策」 御巫由美子 (ICU)	アジア研究フォーラム
2006年5月29日	「森鷗外と明治維新」バンバン・ウィバワルタ Bambang Wibawarta (客員研究員)	アジア研究フォーラム
2006年6月7日 ～8日	「近現代の日本における日本的なもの：その同化と抑圧」 川剛悠史、岸祐、森田みゆき、吉岡史朗 (ICU 大学院比較文化研究科)	アジア研究フォーラム

2006年6月13日	「A Japanese Monk's Travels in Song China, 1072-73」 Robert Borgen (カリフォルニア大学ディビス校)	公開講演 * ICU 学部科目 「日本史 II」 公開 講演。
2006年6月24日 ～25日	「日本アジア研究学会 (第9回)」	学会 * 上智大学比較文 化学科共催。
2006年9月29日	「文明開化の光と影：佐田介石の「ランプ亡国論」について」 M. ウィリアム・ステイール (所員)	アジア研究フォー ラム
2006年10月6日	「現代インドのガンディー主義と社会運動—スンドラール・バフグナとヒマラヤの環境運動」 石坂晋哉 (京都大学大学院)	公開講演 * ICU 学部科目 「日本史 II」 公開 講演。
2006年10月23日	「日本における文化財保護行政の設立」 ミズコ・ウーゴ Mizuko Ugo (東京文化財研究所・文化遺産国際協力セン ター客員教員、アジア文化研究所研究員)	アジア研究フォー ラム
2006年10月25日	「すべての人間が文化的に共有するもの」 (What All Humanity Shares Culturally) ハーバート・プルチョウ Herbert Plutschow (城西大学比較文化研究所所長)	アジア研究フォー ラム
2006年12月8日	「北朝鮮核武装の脅威：金正日は正気か？」 (North Korea's Nuclear Blast: Is Kim Jong Il Mad?) ケント・キノ ネス Kenneth Quinones (元米国国務省北朝鮮担当官)	公開講演
2006年12月8日	「北朝鮮の脅威：外交努力は失敗したのか、制裁に効力はあるのか？」 (The North Korean Threat: Has Diplomacy Failed? Will Sanctions Work?) ケント・キノネス Kenneth Quinones (元米国国務省北朝鮮担当官)	公開講演 * 国際基督教大学 21世紀 COE プロ グラム「平和・安 全・共生」研究教 育の形成と展開、 平和研究所共催。
2007年1月17日	「Discriminatory Language and Women in Japan」 ナネット・ゴットリーブ Nanette Gottlieb (クイーンズランド大学)	公開講演
2007年1月17日	「Reading and Writing in Japan」 ナネット・ゴットリーブ Nanette Gottlieb (クイーンズランド大学)	公開講演
2007年1月18日	「Literacy and Script Reform」 ナネット・ゴットリーブ Nanette Gottlieb (クイーンズランド大学)	公開講演
2007年1月22日	「朝鮮儒学者・李退溪の思想について」 嚴錫仁 オム・ソ ギン (八洲学園大学)	アジア研究フォー ラム

<p>2007年3月30日</p>	<p>『アジア文化研究』33</p> <p>Satō Kenji, “Thinking of Image/Thinking through Image: Shibukawa Keizō and the Idea of the “Pictorial dictionary””</p> <p>Aso Noriko, “A Private Public: Shibukawa Keizo’s Museum of Economic History”</p> <p>Fujita Kayoko, “Learning “Shared Experiences” of Industrialization: A Critical Review of Cross-Cultural Exhibitions and an Analysis of Museum Visitors’ Perceptions in Japan and the United States”</p> <p>Iwamoto kaoru, “Chichibu’s kannon Temples Before and After the Meiji Restoration”</p> <p>Takenouchi Masato, “The Dissolution of Early-Modern Urban Society and the Activities of Shinto Priests in Edo and Tokyo”</p> <p>Matsuyama Megumi, “Changes in Urban Residence Patterns in Tokyo during the Meiji Era”</p> <p>Roderick I. Wilson, “Edomae: Changing Environmental Relations between the Fishers, Fish Merchants and Fishing Grounds of Nineteenth-Century Tokyo Bay”</p> <p>Limin Bai, “Confucianism in the Context of Sino-Japanese Intellectual Interchange: Japanese Influence and Early Modern Chinese Textbooks, 1895–1905”</p> <p>Jeremy D. Phillipps, “The “Japan Sea Era”: Imperialism and Regional Identity in the 1930s”</p> <p>Alexander Bukh, “Constructivism and Japan’s Identity and Foreign Policy: A Critique”</p> <p>Susanna Klien, “Reconstructing Japan’s International Contribution in the post September 11 World: Evaluating Implications for Japan’s National Security Devate”</p> <p>菊池秀明 「太平天国の北伐中期における諸問題－山西から天津郊外まで」</p> <p>加藤恵津子 「「移民予備軍」の若者たち 後期モダニティにおける日本人青年の「自己」と世界観」</p> <p>鄭銀志 「草梁倭館における音楽の空間的展示」</p> <p>Vivek Pinto, “The Massacre of Children at the Amish Community School and Mahatma Gandhi: The Strength of Forgiveness”</p> <p>石坂晋哉 「現代インドの環境運動とガンディー主義－テラー・ダム反対運動を事例として」</p>	<p>刊行物（紀要）</p>
-------------------	---	----------------

2007年3月31日	『アジア文化研究』別冊16 (パロディと日本文化) 小峯和明『『百鬼夜行絵巻』とパロディ』 岩崎均史『『小紋雅話』の仕掛け～伝統的意匠と諧謔性～』 小島康敬「『聖人の道』と『色道』」 M. William Steele, “Casting Shadow on Japan’s Enlightenment: Sada Kaiseki’s Attack on Lamp” 古藤友子「中国文化におけるパロディの始原」 田頭正太郎「ねじられたパロディ」	刊行物 (紀要別冊)
2007年4月13日	「日印交流の過去・現在・未来」新津晃一 (ICU 名誉教授)	公開講演
2007年4月20日	「ガンディー主義と環境運動：バフグナー夫妻のスワラージの追究」石坂晋哉 (龍谷大学アフラシア平和開発研究センターリサーチアシスタント、アジア文化研究所準研究員)	公開講演
2007年4月23日	『『外国人おことわり』：小樽温泉訴訟と日本における外国人差別』Arudou Debito (北海道情報大学)	アジア研究フォーラム
2007年4月27日	「インド音楽入門、日本とインドの音文化」T. M. Hoffman (天竺尺八奏者、日印音楽交流会代表)	公開講演
2007年5月2日	「21世紀におけるインドと日本」(India and Japan in the 21 Centruy) ヘーマント・クイシヤン・シン Hemant Krishan Singh (駐日インド大使)	公開講演
2007年5月7日	「日印交流年への招き」野田英二郎 (外務省参与「2007年インドにおける日本年」)	公開講演
2007年5月9日	「ガンディー思想を考える」宇野彩子 (研究員)	公開講演
2007年5月10日	「インドと日本の女性問題比較」カマヤニ・シン Kamayani Singh (フリージャーナリスト、NHK 海外放送インド担当)	公開講演
2007年5月11日	「これからの日印経済関係の展望」近藤正規 (ICU)	公開講演
2007年5月11日	「インドの歌と文化：タゴール歌曲」奥田由香 (タゴール国際大学卒業生)	公開講演
2007年5月17日	「ラダビノッド・パル判事と東京裁判：歴史的な異議申し立て」(Justice Radhabinod Pal and the Tokyo War Crimes Trial: A Retrospective of His Historic Dissent) ヴィヴェイク・ピントウ Vivek Pintu (研究員)	公開講演 * 紀要 35 号に論文として掲載。
2007年5月31日	「グローバル化の進展に伴う環境保全運動」(Environmental Preservation Activities Affected by Globalization: The Chipko Movement and the Anti-Tehri Dam Construction Movement in the Himalayan Areas in India) バフグナー夫妻 Sunderlal and Vimla Bahuguna (ガンディー思想に基づく社会活動家)	公開講演

2007年6月2日	<p>「日印文化交流の今日的意味：グローバル化の中の真の豊かさとは」 開会挨拶 ケネス・ロビンソン（アジア文化研究所所長） 第1部 ガンディーとタゴールの思想 1 「ガンディーから見たタゴール」宇野彩子（ICU 非常勤講師） 2 「タゴールから見たガンディー—二人の真理観」古田彦太郎（タゴール国際大学） 3 「ラビンドラナート・タゴールと岡倉覚三（天心）」岡本佳子（アジア文化研究所準研究員） 4 「ラビンドラナート・タゴールと日本—詩人の洞察」（英語）ヴィヴェイク・ピントウ（アジア文化研究所研究員、『エコノミック・アンド・ポリティカル・ウィークリー』特派員） 司会：葛西實（ICU 名誉教授、アジア文化研究所顧問） 第2部 真の豊かさとは何か 1 「現代インドにおけるガンディー主義運動の実践例紹介」石坂晋哉（アジア文化研究所準研究員、龍谷大学アフラシア平和開発研究センターリサーチアシスタント） 2 「インド・ヒマラヤ地域におけるチプロ運動とダム反対運動」バフグナー夫妻（ガンディー思想に基づく社会運動家） 3 「あるガンディー主義経営者」本郷好和（ICU） 4 「インド、日本文化の交錯点としてのスワラージ（意味の追究）—マハトマ・ガンディー、田中正造と石牟礼道子」葛西實 司会：新津晃一（ICU 名誉教授、アジア文化研究所客員所員）</p>	シンポジウム *国際交流基金助成。紀要別冊17号に特集として掲載。
2007年6月4日	「制度と共に：グループサウンズと商品経済・社会改革におけるノイズの可能性」マイケル・ボーダッシュ Michael Bourdagh (カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア大学東京スタディーセンター所長)	アジア研究フォーラム
2007年10月22日	「在日朝鮮人の統監府批判言論に関する考察：日韓併合期(1905-1910)を中心に」市川まりえ（ソウル大学校国史学科修士課程修了）	アジア研究フォーラム
2007年11月12日	「Cheating as a Democratic Practice: An Exploration of the Connection Between Political Ethics and Masculinity」 Robin LeBlanc（ワシントン・アンド・リー大学、JICUF 客員教授）	アジア研究フォーラム

2008年1月21日	「国際化の中の日本：福沢諭吉のロシア観」先崎彰容（東北大学）	アジア研究フォーラム
2008年2月18日	「キリシタンの辞書編纂」岸本恵実（所員）	アジア研究フォーラム
2008年3月30日	『アジア文化研究』34 菊池秀明「『動乱の時代』の幕開け—太平天国前夜の広西における下層移民と天地会系結社の活動—」 小島康敬「18世紀東アジア儒教思想史の中の徂徠学派と丁茶山—「以心制心」「以礼制心」「以天制心」—」 キリ・パラモア「『草賊前後記』考—徳川思想史におけるその位置—」 朴炳建「恵岡（崔漢綺）の「気学」—唯物論、経験主義、理気論—」 Miyata Nana, “On the Power of Female Shamans: A Study Based upon Early Records in Two Japanese Mythologies” Igarashi Yoshikuni, “Kamikaze: A Mirror of Post-Cold War U.S.-Japan Relations” 高柳昌久「中島飛行機三鷹研究所—その建設まで—」 高崎恵「『天地始之事』パロディ分析試論」 Andreas Beck, “Sino-Japanese Relations and the Need for Confidence-Building Measures” Angelina Chin, “Loving Disability: “Patriotism” in Postcolonial Hong Kong” Zhan Haiyan, “Metaphors of Aroma and Fragrance in <i>The Story of the Stone</i> ” Yinghong Li, “Writing the Female Body: Ambiguities and Challenges”	刊行物（紀要）
2008年3月31日	『アジア文化研究』別冊17（日印文化交流の今日的意味） 【第1部 日印交流年記念講演】 Hemant Krishan Singh, “India and Japan in the Twenty-First Century” 野田英二郎「日印交流年への招き」 【第2部 国際シンポジウム：「日印文化交流の今日的意味—グローバル化の中の真の豊かさとは～」】 （第1章 ガンディーとタゴールの思想） 宇野彩子「ガンディーから見たタゴール」 古田彦太郎「タゴールから見たガンディー—二人の真理観—」 岡本佳子「ラビンドラナート・タゴールと岡倉覚三（天心）—ナショナリズムをめぐる—」	刊行物（紀要別冊）

	<p>(第2章 真の豊かさとは何か) 石坂晋哉「グローバル化の現代インドとガンディー主義」 Sunderlal Bahuguna, “Message from our Experiences in the Chipko Movement and Anti Tehri Dam Movement” 新津晃一、他「座談会「グローバル時代の真の豊かさとは」」</p> <p>(第3部 連続公開講座から：インドの多様性と日印関係) 近藤正規「日印ビジネス活性化にむけて—文化的相違をのりこえるためには」 T. M. Hoffman, “Musico-Linguistic Culture of India and Japan: Exploring Foundations for Collaboration in Music and Language Arts” 奥田由香「タゴールソング、その普遍性を求めて」 宇野彩子「日印文化交流協定締結50周年記念「インドが三鷹にやってくる」、「日印文化交流の今日的意味—グローバル化の中の真の豊かさとは—」プロジェクト報告」</p>	
2008年4月28日	「How Might NGOs Enable Japanese MNEs to be More Responsive to Local and Global Initiatives in China」マリア・ライ・リン・ラム Maria Lai-Ling Lam (マロン大学准教授)	アジア研究フォーラム
2008年5月9日	「Personal Experiences in Aid and Reconstruction after the Indonesia Tsunami」ドゥマン・ワウ Duman Wau (Executive Director of LPAM-Nias)	公開講演
2008年5月26日	「ニース文化を支えたもの：ニース建築と巨大石彫刻の背景」山本慈子 (サンフランシスコ州立大学、アダン・E. トレガンザ人類学博物館ディレクター)	アジア研究フォーラム
2008年6月3日	「Invitations to the Party: Women and Japanese Politics, 1945–1947」サリー・アン・ヘスティング Sally Ann Hasting (パデュー大学)	アジア研究フォーラム
2008年6月10日	「戦前・戦時中の日本に於けるマイノリティ管理：在日朝鮮人と被差別部落民に対する融和・同化政策の比較研究」(Managing Minorities in Prewar and Wartime Japan: Approaches to Assimilating and Incorporating Koreans and Burakumin Compared) ジェフリー・ベイリス Jeffrey Paul Balyiss (トリニティ大学准教授)	アジア研究フォーラム
2008年9月16日	「Inequalities in English Language Education in Bangladesh: Observations and Policy Options from Rural and Urban Schools」タニア・ホサイン Tania Hossain (テンプル大学、早稲田大学非常勤講師)	アジア研究フォーラム * 紀要35号に論文として掲載。

2008年10月7日	「Capital, Power, and Porcelains: Regional Comparison of Industrialization in Modern Japan」太田有子（社会科学研究所研究員）	アジア研究フォーラム
2008年11月4日	「受洗者名簿にみる明治初期のハリストス正教会：八戸における成立と展開」山下須美礼（筑波大学）	アジア研究フォーラム
2008年11月8日	「占領者のまなざし—占領・風景・身体—：過去と現在、日本と沖縄、自分史と歴史を結びつける回路を拓くために」 開会挨拶 ケネス・ロビンソン（アジア文化研究所所長）、田仲康博（国際基督教大学教員） 1「白い地域、コザ暴動—抵抗と笑い—」花城郁子（アーティスト） 2「黒人街・照屋—もうひとつの「有色人種抄」—」大胡太郎（琉球大学教員） 3「暴力・身体・記憶—池澤聡「ガード」論」我部聖（東京大学博士後期課程） 4 “‘Representing’ the Enemy: How American war resisters view their opponents,” James W. Tollefson（国際基督教大学教員） 5「第一次米軍再編を振り返る」佐藤泉（青山学院大学教員） 6「『八月十五夜の茶屋』へ/からのまなざし」増渕あさ子（東京外国語大学博士前期課程） 7「二つの戦後、二つの戦場」仲里効（映像批評家） 司会 田仲康博	シンポジウム
2008年12月9日	「瀬戸際外交：1941年日米交渉の最終局面とインテリジェンスの役割」(Diplomacy on the Brink: The Final Stage of the 1941 US-Japan Negotiations and the Role of Intelligence) 簗原俊洋（神戸大学）	アジア研究フォーラム
2008年12月11日	「Multiple Personality Disorder in Contemporary Japanese Fiction」ジョン・ウィッター・トリート John Whittier Treat（イエール大学）	公開講演
2009年2月3日	「沖縄音楽における伝統と革新」(Locating Okinawa: Tradition and Innovation in New Okinawan Music) マット・ギラン Matthew A. Gillan（所員）	アジア研究フォーラム
2009年3月7日	「沖縄を奏でる」(Performing Okinawa) 1「沖縄のポピュラー音楽と民族アイデンティティの構築—新民謡から沖縄ポップへ—」久万田晋（沖縄県立芸術大学附属研究所）	シンポジウム

	<p>2 “Okinawan Right to Rock: Colonial Modernity, Cultural Appropriation and Cultural Authenticity in Postwar Okinawa” [沖縄のロックをやる権利：戦後沖縄における殖民的近代性、文化的アプロプリエーションと文化的オーセンティシティ] ジェームス・ロバーソン（東京女学館大学）</p> <p>3 「沖縄の建築にみる空間の構成と表層」 金城正紀（早稲田大学琉球・沖縄研究所）</p> <p>4 「琉球舞踊の歴史の変容と三線の役割」 金城厚（沖縄県立芸術大学）</p> <p>5 「関東における琉球芸能の戦後から現在—東京・川崎・鶴見を中心に—」 持田明美（音楽家）</p>	
<p>2009年3月13日 ～14日</p>	<p>「日仏共同シンポジウム：パロディと日本文化」(La parodie dans la culture japonaise) 3月13日（金）</p> <p>開会挨拶 アンヌ・バヤール＝サカイ（INALCO 日本研究所所長）</p> <p>基調講演「元の妻、新しき妻—平安時代のパロディー」ツバタナ・クリステワ（ICU）</p> <p>第1セッション：司会 クレール・ブリッセ（パリ・デイドロ大学）</p> <p>「お伽草子と狂言—料理・異類・争論—」小峯和明（立教大学）</p> <p>「中世における清少納言の「パロディ」」エヴリン・ルシーニュ＝オドリ（INALCO / 東京大学）</p> <p>「江戸時代の禁教下での「伝承から生成するパロディ」」高崎恵（ICU）</p> <p>「『本朝文粹』におけるパロディと言葉遊び—「鉄鎚伝」をめぐって—」ジュリアン・フォーリ（INALCO, EPHE）</p> <p>第2セッション：司会 ミカエル・リュケン（INALCO 日本言語文化学部部長）</p> <p>「西鶴のパロディー『好色一代女』を中心に—」ダニエル・ストリュープ（パリ・デイドロ大学）</p> <p>「1枚のパロディ絵画をめぐって—なぞなぞ・笑い・文学—」安原真琴（ICU）</p> <p>「江戸の寺社開帳を見世物化した「とんだ霊宝」とその艶本的パロディ」クリストフ・マルケ（INALCO）</p> <p>「パロディとしての「のらくろ」」宮沢恵理子（ICU）</p> <p>「現代日本のまんが文化におけるパロディ」田頭正太郎（ICU）</p>	<p>シンポジウム</p> <p>* フランス国立東洋言語文化大学（INALCO）日本研究所、パリ国際大学都市日本館、立教大学日本学研究所共催。於パリ国際大学都市日本館。</p>

	<p>3月14日(土)</p> <p>第3セッション:司会 エステル・レジエリ=ボエール (INALCO)</p> <p>「明治時代におけるパロディと政治:中江兆民の『三酔人経綸問答』と「喜悦の哲学」」エディ・デュフルモン (INALCO)</p> <p>「朴趾源の『兩班伝』に見える社会身分構造のパロディ」ケネス・ロビンソン (ICU)</p> <p>「書とパロディー-中村不折の龍眠帖一」レイリ・ドール (INALCO)</p> <p>「パロディにみる中国の文人官僚」古藤友子 (ICU)</p>	
<p>2009年3月30日</p>	<p>『アジア文化研究』35</p> <p>Xiaohuan Zhao, “Collection, Classification and Conception of <i>Xiaoshuo</i> in the <i>Taiping Guangji</i>”</p> <p>Yin-ping Grace Lau, “Two Salvation Stories: “Xi Wangmu” and “Yunhua Furen” in <i>The Extensive Records of the Taiping Period</i>”</p> <p>菊池秀明「広西における上帝会の発展と金田団営」</p> <p>王曉秋、飛田良文、江源、村田和美、川副悠史「中国人の目から見た近代中日文化交流年表」(資料紹介)</p> <p>倉田明子「中国における初期プロテスタント布教の歴史-宣教師の「異教徒」との出会いを通して-」</p> <p>岸本恵実「キリシタンの棄教を表す「ころぶ(転ぶ)」という言葉について」(研究ノート)</p> <p>Suzuki Takako, “<i>Kishinron</i> and Religious Policy in Early Modern Japan: Political Interests in Local Beliefs”</p> <p>Kenneth R. Robinson, “Images of Japan in Four Korean World Maps Compiled in the Fifteenth and Sixteenth Centuries”</p> <p>Ken Byung-Kun Park, “The Four Seven Debate (四端七情論) I: Its Philosophical Background-Ambiguity in Zhu Xi’s (1130-1200) <i>Li-Qi</i> Theory (理氣論, Principle and Material Force) and His Theory of Mind (心)”</p> <p>Vivek Pinto, “Justice Radhabinod Pal and the Tokyo War Crimes Tribunal: A political Retrospective of His Historic Dissent”</p> <p>M. William Steele, “Townsend Harris on the Art of Diplomacy: Some Documents in Translation” (Historical Documents)</p>	<p>刊行物(紀要)</p>

	<p>Sally Ann Hastings, “Assassins, Madonnas, and Career Women: Reflections on Six Decades of Women’s Suffrage in Japan” 生駒夏美「悪者づくり—オウム真理教事件の物語化を巡って—」</p> <p>Setsuko Buckley, “Teacher Perceptions on Teaching Moral Values in Japan”</p> <p>Tania Hossain, “Inequalities in English Language Education in Bangladesh: Observations and Policy Options from Rural and Urban Schools”</p> <p>Shammika Hasantha Dehiwala Liyana Aratchchige, “Mediation Theory and Norway’s Facilitation Role in the Sri Lankan Conflict”</p> <p>Yinghong Li, “Crime Narratives of Postsocialist China” 志村岳彦「漂泊する太郎冠者—伝統と創造のはざままで—」</p> <p>宮沢恵理子「パロディとしての「のらくろ」」(研究ノート)</p>	
2009年5月12日	「コンビニ：文化人類学から見る新興グローバル小売業のテンプレートについて」(Konbini: Towards an Anthropology of an Emergent Global Retail Template) ギャヴィン H. ホワイトロウ Gavin H. Whitelaw (所員)	アジア研究フォーラム
2009年5月26日	「事大・交隣政策を通してみた小中華としての朝鮮」李正美 (明治学院大学)	アジア研究フォーラム
2009年6月2日	「グローバル化のなかのシャーマニズム：東北日本のイタコとコンゴ南東部のミキシの比較から」(Global Shamanism in Context: The Itako in Northeastern Japan and the Mikishi in Southeastern Democratic Republic of Congo) フェリックス・カプトゥ Felix Ulombe Kaputu (研究員)	アジア研究フォーラム * 紀要 36 号に論文として掲載。
2009年10月6日	「文法の楽しみ：日本語文法のハイパー辞典」マルチェッラ・マリオッティ Marcella Mariotti (アジア文化研究所研究員)	アジア研究フォーラム
2009年10月15日	「シーボルト、朝鮮漂流民、長崎：19世紀初頭、朝鮮とヨーロッパの出会い」河宇鳳 Ha Woo-Bong (全北大学)	公開講演 * ICU 学部科目「日本史 II」公開講演。
2009年11月10日	「パフォーマンス論の観点による言語、文化、アイデンティティの再構築の試みと言語教育への可能性」尾辻恵美 (シドニー工科大学)	アジア研究フォーラム

<p>2009年11月27日 ～28日</p>	<p>「パロディと日本文化」 11月27日(金) 開催挨拶 「パロディ・見立て・テキスト—鈴木春信の「座敷八景」—」ハルオ・シラネ(コロンビア大学) 「江戸時代見立図像化の形成」渡辺雅子(メトロポリタン美術館) 「近世文藝においてパロディとは何だったのか—マクロのパロディからミクロのパロディへ—」染谷智幸(茨城キリスト教大学) 「やつしと見立絵にみるジェンダー」ジョシュア・モストウ(プリティッシュ・コロンビア大学) 「パロディ繚乱の江戸文化—「性」と「聖」とを繋ぐ笑い—」小島康敬(ICU) 「江戸時代の民画におけるパロディの精神—大津絵再考—」クリストフ・マルケ(フランス国立東洋言語文化研究学院) 「歌仙の絵と〈もどき〉」高橋亨(名古屋大学) 「文学や図像における「死」の演出からパロディへ」フォーリー・ジュリアン(フランス国立東洋言語文化研究学院) 「排耶書にみるパロディ性」高崎恵(ICU) 11月28日(土) 「パロディと主体」竹村信治(広島大学) 「擬古の技巧—詩的カノンのパロディとしての中世王朝物語—」ツベタナ・クリステワ(ICU) 「物語再生装置としてのパロディー『平家物語』を軸に—」小峯和明(立教大学) 「『源氏物語』における継母子譚の位相」張龍妹(北京日本学研究中心) 「継子譚のパロディと話型」金鍾徳(韓国外国語大学) 「中国食文化にみるパロディー「仮(もどき)」料理管見—」古藤友子(ICU) “Meiji Twitterings: A Parody of Fukuzawa’s Encouragement of Learning” [明治初期の囀り(twitter)—新旧メディアと『学門ノス、メ』のパロディー—] ウィリアム・スティーレル(ICU) 「パッチワーク・パロディー—横糸としてのネタ、縦糸としてのサブテキスト—」田頭正太郎(ICU) 総合ディスカッション</p>	<p>シンポジウム *『パロディと日本文化』(笠間書院、2014年)として刊行。</p>
-----------------------------	---	--

2009年12月19日	<p>『『ヒンド・スワラージ』100周年記念シンポジウム「歴史的地下水としてのガンディーの平和思想と行動」 趣旨説明 石坂晋哉（京都大学東南アジア研究所研究員） 「生命線としてのヒンド・スワラージ」葛西實（ICU名誉教授） 「ガンディー運動の有効性—一人は暴力をどこまで減らすことができるか—」長崎暢子氏（東京大学名誉教授・龍谷大学名誉教授） 司会：馬内里美（東北文化学園大学講師）、宇野彩子（ICUアジア文化研究所研究員）</p>	シンポジウム
2010年1月26日	「孤独とはなにか：この、人を魅了し、さいなませるもの」真嶋亜有（ハーバード大学アソシエイト、ICU非常勤講師）	アジア研究フォーラム
2010年2月16日	「中国の悪女伝説」牧角悦子（二松学舎大学）	アジア研究フォーラム
2010年3月30日	<p>『アジア文化研究』36 Robert Eskildsen, “An Army as Good and Efficient as Any in the World: James Wasson and Japan’s 1874 Expedition to Taiwan” 菊池秀明「永安州時代の太平天国をめぐる一考察」 Pedro Iacobelli, “The Vatican’s Shift of Its Missionary Policy in the Twentieth Century: The Mission of the Augustinian Fathers of the Assumption in Manchuria” 戸田真紀「ホームレス脱却メカニズム解明のためのモデル構築をめざして—オーストラリアの事例からの分析—」 青井明「フランス語のリエゾンについて」 Felix Ulombe Kaputu, “Global Shamanism in Context: <i>Itako</i> (from Osorezan, Aomori, Japan) and <i>Mikishi</i> (Lake Mweru, Katanga, Democratic Republic of Congo)” Kenneth R. Robinson, “An Introduction to Extant Volumes from the 1487 <i>Tongguk yöji süngnam</i> and the 1499 <i>Tongguk yöji süngnam</i>, and the 1531 <i>Sinjüng Tongguk yöji süngnam</i>” Kenneth R. Robinson, “Addenda to “Images of Japan in Four Korean World Maps Compiled in the Fifteenth and Sixteenth Centuries””</p>	刊行物（紀要）

	<p>Ken Byung-Kun Park, “The Four Seven Debate (四端七情論) II: Its Unfolding–Feelings and Morality in T’oegye and Yulgok’s Li-Qi Theory (理氣論, Principle and Material Force)”</p> <p>Michael J. Pettid, “Other Female Identities in Chosŏn Korea: Overcoming and Subverting the Confucian Model for Womanly Behavior”</p> <p>Jeong-Mi Lee, “Chosŏn Korea as <i>Sojunghwa</i>, the Small Central Civilization: <i>Sadae kyorin</i> Policy and Relations with Ming/Qing China and Tokugawa Japan in the Seventeenth Century”</p> <p>Lionel Babicz, “Race, Civilization, and National Security: The Meiji Intellectual Origins of the Annexation of Korea”</p> <p>Aoki Atsuko, “A Dissenting Voice from the Margins in Colonial Korea: Jōkō Yonetarō and the “Teachers Union Incident” of December 1930”</p> <p>Mark E. Caprio, “The Cold War Hits Kobe: The 1948 Korean Ethnic School “Riots””</p> <p>Kenneth R. Robinson, “Maps in Extant Volumes of the 1487 Tongguk yōji sūngnam and the 1499 Tongguk yōji sūngnam, and in Sinjūng Tongguk yōji sūngnam” (研究ノート)</p>	
<p>2010年3月31日</p>	<p>『アジア文化研究』別冊18 (続・パロディと日本文化)</p> <p>Evelyne Lesigne-Audoly, “L’auteur, parodie du texte: Sei Shōnagon dans les récits médiévaux”</p> <p>小峯和明「お伽草子と狂言—料理・異類・争論」</p> <p>高崎恵「概念とイメージ：キリシタン聖画にみる天狗象」</p> <p>クリストフ・マルケ「江戸の寺社開帳をパロディ化した見世物「とんだ霊宝」」</p> <p>M. William Steele, “Meiji Twitterings: A Parody of Fukuzawa’s <i>An Encouragement of Learning</i>”</p> <p>エディ・デュフェルモン「明治時代におけるパロディと政治—中江兆民の『三酔人経綸問答』と「喜悦の哲学」」</p> <p>宮沢恵理子「笑いと怒り—昭和初期のパロディと不敬問題—」</p> <p>古藤友子「パロディにみる中国官僚支配」</p> <p>ケネス・ロビンソン「朴趾源の「両班伝」に見る朝鮮社会の身分構造のパロディ」</p>	<p>刊行物 (紀要別冊)</p>

2010年4月21日	「Regenerating China: Stem Cell Politics in Transition」 Haidan Chen (Center for Science Technology and Society, Zhejiang University)	公開講演
2010年5月18日	「India-Japan and the Rise of Asia」 Brij Mohan Tankha (University of Delhi)	アジア研究フォーラム
2010年6月1日	「Human Rights in Japan: The Discourse of Buraku Liberation from the 1920s to the 1990s」 Ian Neary (Oxford University)	公開講演 *社会科学研究所 共催。
2010年6月25日	「中国における『菊と刀』のヒットに見られる文化ブーム」郭連友(北京外国語大学日本学研究センター)	アジア研究フォーラム
2010年10月14日	「江戸の音色」善養寺恵介(尺八奏者)	公開講演 *歴史学デパート メント共催。
2010年10月22日	「<道義の帝国>論の射程：解放後・戦後における「道義」言説と李退溪」姜海守(韓国啓明大学校国際学研究所専任研究員)	アジア研究フォーラム
2010年11月27日 ～28日	「東アジアにおける「礼」と「楽」：東アジア共通の教養として」 11月27日(土) 開会の挨拶 小島康敬(ICU) 1「王安石から朱熹へー礼学の転換」小島毅(東京大学) 2「中国古代の礼楽論：『礼記』の「楽記」章の新解読」 Barry D. Steben(台湾大学) 3演奏 Matthew Gillan(ICU、三線) 4「中国古代の飲食文化と礼楽—孝子の三道をめぐって」 古藤友子(ICU) 5「康有為における「礼」と「楽」について」郭連友 (北京日本学研究中心) 6「朱熹の礼楽と朝鮮社会」崔眞徳(韓国学中央研究院) 7「韓国における楽論と楽書について」崔在穆(嶺南大学) 8演奏 蔡漢淑(韓国舞踊、大邱市立国楽団リーダー)・ 安善喜(嶺南大学、パンソリ 韓国の伝統歌舞) 11月28日(日) 1「茶山丁若鏞の礼(楽)思想と朝鮮社会」権純哲(埼玉大学) 2「近世朝日外交の場における儀礼問題—伝命儀礼を中心に」河宇鳳(全北大学) 3演奏 程農化(二胡)	シンポジウム *嶺南大学中国研究センター共催。 『「礼楽」文化—東アジアの教養』(ペリかん書房、2013年)として出版。

	<p>4 「荻生徂徠一門の音楽嗜好とその礼楽観」 小島康敬 (ICU)</p> <p>5 「日本における明清音楽の受容」 中尾友香梨 (佐賀大学)</p> <p>6 演奏 善養寺恵介 (尺八)</p> <p>7 「守礼の邦の音楽—沖縄古典歌三線における中国の影響」 Matthew Gillan (ICU)</p> <p>8 総合討論 司会：小島康敬・崔在穆、コメンテーター：李容周 (光州科学技術院) 尤海燕 (青島大学外国語学院)</p> <p>9 懇親会 開宴の演奏 高欲生 (古琴)</p>	
2011年1月18日	「内務官僚の戦時と戦後：「安積得也関係文書」を読む」 松田忍、満園勇 (昭和女子大学非常勤講師、日本学術振興会特別研究員)	アジア研究フォーラム
2011年3月30日	『アジア文化研究』37 菊池秀明「太平天国の広西北部、湖南南部における活動について」 菊池秀明「太平天国の湖南における進撃と地域社会」 高柳昌久「中島飛行機三鷹研究所—その疎開と終焉—」 咸苔英「1910年代朝鮮総督府機関紙と徳富蘇峰」 大野ロベルト「女のしわざ—『無名草子』の批評空間—」 Toohey David, Inoue Aya, “Memories and the Nation-State: Japanese-American Discourses on Hiroshima” 飛田良文、新井菜穂子「『開明新語往来』(明治7年刊)用語索引」 Miyanaga Kuniko, “Iconic Action and the Iconic Block -The Quest for Traditional Identity in the Global Community” (研究ノート)	刊行物 (紀要)
2011年4月19日	「津波と復興：岩手県釜石市での10日間のボランティア経験から」 西田昌之 (オーストラリア国立大学太平洋アジア研究科博士課程、アジア文化研究所準研究員)	アジア研究フォーラム
2011年5月24日	「少女雑誌は語る：近代日本と「乙女」文化」 嵯峨景子 (東京大学学際情報学府博士後期課程)	アジア研究フォーラム
2011年6月14日	「徂徠学派と国学の文学思想における人情と共同体」 Peter Flueckiger (Pomona College; Research Fellow, Institute of Asian Cultural Studies)	アジア研究フォーラム
2011年9月13日	「バッハ トゥ ジャパン：日本文化史の研究と教育活動の日々を振り返って」 John Caiger (Emeritus, Australian National University)	アジア研究フォーラム

2011年10月18日	「ロバート・ベラーの共同体」 Amy Borovoy (Princeton University)	アジア研究フォーラム
2011年11月8日	「楽師の西と東：中世ヨーロッパの音楽家はどこから来たのか」 上尾信也 (研究員)	アジア研究フォーラム
2011年11月5日	「時代を聞く：戦争、公害、原発」 講演「水俣病事件をいま考えることの意味」 川本愛一郎 (水俣市立水俣病資料館語り部) シンポジウム「語りつぐために」 シンポジスト：伊藤三男 (四日市再生「公害市民塾」)、川本愛一郎 (水俣市立水俣病資料館語り部)、上間かな恵 (佐喜眞美術館)、樋口健二 (フォトジャーナリスト) 司会：池田理知子 (ICU)、田仲康博 (ICU)	シンポジウム
2011年12月10日	「12月8日をわすれないで：本館誕生70周年と日米関係を振り返って」 挨拶：M. ウィリアム・スティール (ICU アジア文化研究所所長) 1 「大学本館以前：中島飛行機三鷹研究所の小史」 高柳昌久 (国際基督教大学高校教諭) 2 「日米関係の可能性について一戦後から災後へ」 三浦陽一 (中部大学教授) 4 「振り返って思うこと：日米戦争と戦後日本」 武田(長) 清子 (国際基督教大学名誉教授) 5 再献館式 (本館中央入口にて) 6 記念版除幕：お祈り 北中晶子牧師 (ICU 教会) 7 懇親会 (於本館 170 号室)	シンポジウム *パンフレット 『12月8日をわすれないで：本館誕生70周年と日米関係を振り返って』 として刊行。
2012年1月24日	「ハリウッド映画における日本の表象：文化のコミュニケーションあるいはコミュニケーション不全か？」 Michael Richardson (Visiting Professor at the Center for the Study of Global Issues, Hitotsubashi University; Visiting Fellow at the Centre for Cultural Studies, Goldsmiths University of London)	アジア研究フォーラム
2012年2月14日	「脱亜を考える：明治維新、国際システムと東アジアにおける王朝制の破滅」 Robert Eskildsen (桜美林大学)	アジア研究フォーラム
2012年3月30日	『アジア文化研究』38 Linda L. Johnson, “Evangelists for Women’s Education: The ‘Civilizing Mission’ of Tsuda Umeko and Alice M. Bacon” Sally Hastings, “Mount Holyoke College: Teachers to Japan, Students from Japan” Patricia Sippel, “Surviving Japanese Militarism: Canadian Educators at a Christian Girls’ School”	刊行物 (紀要)

	<p>Robert Eskildsen, “Suitable Ships and the Hard Work of Imperialism: Evaluating the Japanese Navy in the 1874 Invasion of Taiwan”</p> <p>小泉仰「西周の現代的意義」</p> <p>姜海守「帝国日本の「道義国家」論と「公共性」—和辻哲郎と尾高朝雄を中心に—」</p> <p>Mika Obara, “Capital Punishment in Japan: Unpacking Key Actors at Governmental Level”</p> <p>Barry D. Steben, “The Culture of Music and Ritual in Pre-Han Confucian Thought: Exalting the Power of Music in Human Life”</p> <p>飯島良子「後漢の鄧太后の学者集団による「校書」—『詩』生民と閼宮の「毛伝」にみる漢制—」</p> <p>菊池秀明「太平天国の武昌占領とその影響」</p> <p>Arnel E. Joven, “Colonial Adaptations in Tropical Asia: Spanish Medicine in the Philippines in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”</p> <p>Li Yinghong, “Absences and Excesses in Cinematic Representations of Beijing”</p> <p>大野ロベルト「イストワールからディスクールへ—平安期の歴史物語における語りの変容—」</p> <p>竹下和亮「カルヴァンの語彙」(研究ノート)</p>	
2012年4月17日	「1960・70年代の日本における専門研究者たちと環境に関する知見」Simon Avenell (シンガポール国立大学)	アジア研究フォーラム
2012年4月18日	「東日本大震災・被災地の1年」柳澤あゆみ (NHK 石巻報道室記者)	公開講演会 * 歴史学デパートメント後援。
2012年5月1日	「『中国化』として考える：新たな歴史認識と現状分析」與那覇潤 (愛知県立大学)	アジア研究フォーラム
2012年5月23日	「落語に見る江戸下町の笑いと絆 (つながり)」柳亭左龍 (落語家)	公開講演会 * ミドルベリー大学共催。
2012年6月5日	「リビング・デッドの政治学：徳川時代の藩主と相続の問題」Luke Roberts (カリフォルニア大学サンタバーバラ校)	アジア研究フォーラム
2012年9月18日	「エジプト民主革命とナイルの民：イスラーム史から見るアラブの春」吉村武典 (早稲田大学イスラーム地域研究機構 次席研究員)	アジア研究フォーラム
2012年10月9日	「和楽器・和歌にインドの音=日本のハード+インドのソフト」Tim Hoffman (尺八奏者、NPO 代表)	アジア研究フォーラム
2012年10月30日	「韓国における近代文学館役割」咸苔英 Ham Taeyoung (仁川文化財団課長)	アジア研究フォーラム

2012年11月6日	「近代日本の日記帳：人々の生の記録から何がわかるか」 田中祐介、土谷宗一、阿曾歩（研究員、キリスト教と文化研究所助手、ICU大学院博士課程前期）	アジア研究フォーラム
2012年12月8日	<p>「東北のこれから：大学から『復興』と『支援』を考える」</p> <p>第1部 歴史の中の「復興」と「支援」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「東北の大飢饉 1904-05—国際支援の二面性」M・ウィリアム・スティーアール（国際基督教大学） 2 「東北はどこへ行った？—奪われた歴史、消された記憶、失われた情景」河西英通（広島大学） 3 「がれきに埋もれた地域アイデンティティ—大震災から歴史資料を救う」川内淳史（歴史資料ネットワーク事務局） <p>第2部 特別講演「『復興』の現実」多田一彦（遠野まごころネット）</p> <p>第3部 大学と「復興支援」—批判的総括と未来への展望—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「各大学の支援活動の概括+ICU ボランティアの体験」村上むつ子（国際基督教大学サービス・ラーニングセンター） 2 “The Shame of ICU: What ICU Did and What ICU Did Not” ポール・ジョンソン（国際基督教大学教会牧師） 3 「支援活動とリベラル・アーツ—学生の自覚と「継続」について」能田昂（国際基督教大学2年生） 4 「『復興』その後—2004年スマトラ沖大地震を事例に」西田昌之（国際基督教大学アジア文化研究所） 5 「高等臨床心理学研究所の支援活動と「心の復興」の今」石川与志也（国際基督教大学高等臨床心理学研究所） 6 「『役立たず』を目指して—福島県相馬郡新地町での学生フィールドワークから」加藤恵津子（国際基督教大学） <p>第4部 総合ディスカッション</p>	シンポジウム
2012年12月20日	「江戸の音色」善養寺恵介（尺八奏者）	公開講演会 *一般教育歴史学特別公開授業。歴史学部門に協賛。
2013年1月15日	「『文化遺産』の旗のもとに：カンボジア、アンコール遺跡をめぐるいくつかの言説」田畑幸嗣（上智短期大学）	アジア研究フォーラム

2013年2月18日	「日本との出会い：1960年代と学生運動（最終講義）」 (My Encounter with Japan: Students and Protest in the 1960s) M. ウィリアム・ステイール	公開講演会 * 歴史学デパートメント主催、アジア文化研究所後援。
2013年2月19日	「英仏による1860年の中国侵攻：西洋の軍事技術と外交に対する中国人の認識」 Ines Ebem v. Racknitz（南京大学）	アジア研究フォーラム
2013年3月13日	「明治期における主権と革命：東アジアの政治的変化のひとつの事例分析」 Robert Eskildsen（桜美林大学）	公開講演会 * 歴史学デパートメント共催。
2013年3月23日	「第1回飲食文化研究会」	その他 * 飲食文化研究会主催、アジア文化研究所共催。
2013年3月30日	『アジア文化研究』39 【Overcoming Vicissitudes: The Tohoku Region in Modern Japan】 M. William Steele, “The Great Northern Famine of 1905–1906: Two Sides of International Aid” Patricia Sippel, “The 1909 Akita Tour and the Formation of a Positive Modern Identity” Kawanishi Hidemichi (Translated by Hiraku Shimoda), “Regional History and International History: From Hara Katsurō to Ellsworth Huntington” 【Trans-Pacific Expertise, Trans-Pacific Lives in a Time of Rupture】 Sally A. Hastings, “Women’s Education and the World: Fujita Taki (1898–1993)” Koide Izumi, “Catalyst for the Professionalization of Librarianship in Postwar Japan: Naomi Fukuda and the United States Field Seminar of 1959” Vanessa B. Ward, “Journeys in Thought: Cho Takeda Kiyoko and the Promotion of U.S.-Japan Intellectual Exchange” 菊池秀明「太平天国北伐軍の敗退と援軍の臨清攻撃」 Nishida Masayuki, “The Emergence of a Nature Conservation Ritual: Local Negotiations with Environmentalism in Northern Thailand” 蓮沼啓介「幻の邪馬台国—魏略と魏志の間—」 大野ロベルト「『古今和歌集』仮名序前の真価を探る—「六義」と「歌のさま」の問題を中心に—」	刊行物（紀要）

	<p>中野真理「悲哀の色—永井荷風が描く男と女の情景—」 林美茂「哲学か、それとも理学か—西周の Philosophy 概念の翻訳問題をめぐって—」 田中祐介、土屋宗一、阿曾歩「近代日本の日記帳—故 福田秀一氏蒐集の日記資料コレクションより—」（目 録紹介）</p>	
2013年3月31日	<p>『アジア文化研究』別冊19（安積得也関係文書 目録） 「表紙」 「目次」 「解題」 「解題 書簡」 「目録 書簡の部」 「目録 書類の部」 「執筆者」</p>	刊行物（紀要別冊）
2013年6月15日	<p>「落語にみる江戸下町の笑いと絆（つながり）」柳亭左龍 （落語家）</p>	<p>公開講演会 *ミドルベリー大 学主催、アジア文 化研究所後援。</p>
2013年6月18日	<p>「Korean Churches in Beijing and Tokyo: Nation Culture, and Politics in Contemporary Missionary Work」Edward Park (Loyola Marymount University)</p>	<p>公開講演会 *歴史学デパート メント共催。</p>
2013年9月17日	<p>「『汎アラブ主義』を再考する：国民国家とアラブ・ナシ ョナリズム」井堂有子（東京大学総合文化研究科大学院 博士課程）</p>	アジア研究フォー ラム
2013年10月17日	<p>「落語にみる江戸と笑い」柳亭左龍（落語家）</p>	<p>公開講演会 *ICU学部科目 「日本史II」特別 授業、アジア文化 研究所後援。</p>
2013年11月9日 ～10日	<p>Anthropology of Japan in Japan (AJJ) 主催秋季ワークショ ップ</p>	<p>その他 *アジア文化研究 所共催。</p>
2013年11月23日 ～24日	<p>第12回東アジア実学国際学術大会「東アジア世界の「知」 と学問—伝統の継承と未来への展望—」 11月23日 司会 古藤友子、別所興一 挨拶 小島康敬（国際基督教大学アジア文化研究所所 長） 1 基調講演「始めに心ありき：実心実学の認識論」小 川晴久（日本東アジア実学研究会会長） 2 基調講演「中国古代の「知」の性質と学問」張踐（中 国実学研究会会長、中国人民大学）</p>	<p>シンポジウム *アジア文化研究 所・日本東アジア 実学研究会共催、 勉誠出版後援。『東 アジア世界の「知」 と学問』（勉誠出 版、2014）として 刊行。</p>

- 3 基調講演「儒教文化圏における「知」の進展と退縮」
金彦鍾（韓国実学学会会長、韓国高麗大学）
- 4「中国の「反知性主義」思想の根源と原因を論じる：
先秦時期の儒道の知識論思想に基づく」王杰（中国
中央党校）
- 5「「百工の知」と「士大夫の知」を簡単に論じる」汪
哲（中国上海交通大学）
- 6「18世紀郷村知識人の自我構成：魏伯珪の場合」金
文鎔（韓国高麗大学民族文化研究院）
- 7「村井琴山の琴学受容と「実学思想」」中尾友香梨（佐
賀大学）
- 8『『毛詩品物図考』の出版と日中書物交流』陳捷（綜
合研究大学院大学）
- 9「1711年の辛卯通信使行と加賀藩の学術交流：加賀藩
文士・伊藤薪野を中心に」河宇鳳（韓国全北大学）
- 11月24日 司会 小島康敬、大橋健二
- 1「渡辺崋山の学問観と教育思想：主に漢籍から得た学
識と小関三英提供の蘭学情報との関連・異同につい
て」別所興一（元愛知大学）
- 2「東アジアの伝統的な「知」の教育：儒教的「教育」
体系論と「実践知」韓睿媛（韓国朝鮮大学）
- 3「フクシマと「無用」の哲学：熊沢蕃山とハイデガー
における老荘的な脱 Ge-stell への道」大橋健二（日本
東アジア実学研究会）
- 4「「知の問題」と「哲学の合法性」との関連：「近代知」
の反省にあるべき一視点について」林美茂（中国人民
大学）
- 5「実学視野から見る儒学知行学説」苗潤田（中国山東
大学）
- 6「朝鮮王朝時代後期における女性と「知」の問題：文
字の問題を中心に」朴茂瑛（韓国延世大学）
- 7「最近韓国での実学研究の現状と展望」金時鄴（韓国
実学博物館館長）
- 8「中国思想の「徳性の知」を論じる」単純（中国政法
大学）
- 9「実生活の学問と芸術：与謝野晶子にみる」古藤友子
（国際基督教大学）
- 次回開催国挨拶 金彦鍾
閉会の辞 小川晴久

2013年12月17日	「津波の後の海と生活：タイ・アンダマン海洋民モーケン、ウラク・ラウオイッを中心に」鈴木佑記、ウィチャユット・リマンクーン（東洋大学、アジア文化研究所客員研究員；民族写真家）	アジア研究フォーラム
2013年12月19日 ～24日	「日本・タイ津波復興展示会「津波のあと、語り継ぐもの—日本3年タイ9年企画展」	その他 * 於三鷹市芸術文化センター、アジア文化研究所・三鷹市後援。
2014年2月11日	「‘中江兆民’とは、何ものか」先崎彰容（東日本国際大学東洋思想研究所）	アジア研究フォーラム
2014年2月18日	「日本映画のなかの《忠臣蔵》：予備的議論」羽鳥隆英（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館）	アジア研究フォーラム
2014年3月30日	『アジア文化研究』40 菊池秀明「太平天国北伐軍の壊滅とその影響について」 Yu-Ting Lee, “Tagore’s <i>Nihonjinron</i> and International Opinion on Asia in the Inter-War Period” Obara Mika, “Japanese Culture and Defense of Capital Punishment: An Alternative View” Leo Tak-hung Chan, “Janus-faced <i>Hana yori dango</i> : Transnational Adaptations in East Asia and the Globalization Thesis” Nishida Masayuki, “Creating a “Disaster Culture”: The Case of Ban Nam Khem Village in Southern Thailand”	刊行物（紀要）
2014年3月31日	『アジア文化研究』別冊20（アジア文化研究のいま） 斯波義信「日本における中国史研究」 Peter Nosco, “Early Modern Religions and the Construction of Japanese Individuality” 小泉仰「中村敬宇と宗教」 飛田良文「福沢諭吉の英語研究」 呉倩「20世紀初頭における商務印書館の教科書と日本」 宇野彩子「マハートマ・ガーデンディーの近代文明批判と3.11以降の日本」 大野ロベルト「歌ことば「霞」についての一考察—自然と言葉—」 Suzuki Takako, “The Influence of Nineteenth Century Urbanization in Hirata Atsutane’s <i>Tamadasuki</i> : Religious Views and Domestic Practices” 姜海守「『道義』から『広義王道』へ—津田左右吉と橋樫の『王道』言説—」	刊行物（紀要別冊）

	岸佑「モダニティのなかの「日本的なもの」—建築学者岸田日出刀のモダニズム— 蓮沼啓介「文明開化と仮名の成立」 松中完二「Saussure と時枝誠記の主体的言語観についての再検討— <i>Cours de linguistique générale</i> と『国語学原論』を基に—」	
2014年5月27日	「出版人としての福沢諭吉」竹中英俊（東京大学出版会常任顧問）	アジア研究フォーラム
2014年6月10日	「日中韓の同字異義と日常儀礼について」佐藤貢悦（筑波大学）	アジア研究フォーラム
2014年6月28日	「第2回飲食文化研究会」	その他 *飲食文化研究会主催、アジア文化研究所共催。
2014年8月25日	『東アジア世界の「知」と学問：伝統の継承と未来への展望』小島康敬編	刊行物
2014年10月14日	「医師が診察室の外でやっていること」神野範子（株式会社メディヴァ、医療法人社団プラタナス施設在宅医療部）	アジア研究フォーラム
2014年10月16日	「江戸の音色」善養寺恵介（尺八奏者）	公開講演会 *歴史学デパートメント共催。
2014年11月29日 ～30日	「アジア文化研究のいま」 11月29日（於本部棟206） 開会挨拶 小島康敬（国際基督教大学アジア文化研究所所長） 講演： 1「福沢諭吉の英語研究：『増訂 華英通語』をめぐって」飛田良文（ICUアジア文化研究所客員所員） 2「中村敬宇と宗教シノプシス」小泉仰（慶応義塾大学名誉教授/日本比較思想史会理事） 研究発表： 1「ソシュールの『言語学原論』と時枝誠記の『国語学原論』における主体的言語観について」松中完二（九州産業大学語学教育研究センター） 2「文明開化と仮名の成立」蓮沼啓介（神戸大学名誉教授） 3「道義」から「広義王道」へ—津田左右吉と橘樸の「王道」言説」姜海守（啓明大学国際学研究所専任研究員） 4「日本的なもの」とモダニティ：建築家岸田日出刀の思想」岸佑（ICUアジア文化研究所準研究員）	シンポジウム

	<p>5 「二十世紀初期における商務印書館の教科書出版」 呉 備（北京語言大学大学院副研究員）</p> <p>6 「西洋人宣教師と明治初期の中日言語文化交流—S. W. ブラウンの『致富新書』および日本における翻刻と和訳を中心に—」 孫建軍（北京大学外国語学院准教授 / 早稲田孔子学院院長）</p> <p>11月30日（於東ヶ崎潔記念ダイアログハウス2階国際会議室）</p> <p>講演：</p> <p>1 「日本の中国史研究」 斯波義信（東洋文庫常務理事）</p> <p>2 “Early Modern Religions and the Construction of Japanese Individuality” Peter Nosco（プリティッシュ・コロンビア大学教授）</p> <p>研究発表：</p> <p>1 「中世エジプト社会とナイル川：運河と水利施設の利用からみた首都カイロの発展」 吉村武典（早稲田大学イスラーム地域研究機構次席研究員）</p> <p>2 「和歌のなかのアジア—歌ことば「霞」を中心に—」 大野ロベルト（日本社会事業大学）</p> <p>3 “Influence of the 19th Century Urbanization in Hirata Atsutane’s ‘Tamadasuki’: Religious Views and Domestic Practices” 鈴木孝子（大妻女子大学比較文化学部非常勤講師）</p> <p>4 「江戸時代の女性の教養：女訓物・重宝記を中心に」 谷村玲子（アジア文化研究所研究員）</p> <p>5 「マハートマ・ガンディーの近代文明批判と3.11以降の日本」 宇野彩子（アジア文化研究所研究員）</p>	
2015年1月13日	「落語と江戸」 柳亭左龍（落語家）	<p>公開講演会</p> <p>* ICU 学部 GE 科目歴史学特別授業、歴史学デパートメント共催。</p>
2015年1月13日	「苦しむ死者の救済をめぐって：東アジアの死者供養文化」 池上良正（駒澤大学）	アジア研究フォーラム
2015年2月17日	「エジプトについて知ってみませんか」 エバ・ハッサン（NHK 教育テレビアラビア語講師）	アジア研究フォーラム
2015年2月27日	「日本研究と私」(My Life and the Study of Japan) ピーター・ノスコ（プリティッシュ・コロンビア大学）	アジア研究フォーラム
2015年3月27日	「第3回飲食文化研究会」	<p>その他</p> <p>* 飲食文化研究会主催、アジア文化研究所共催。</p>

2015年3月30日	『アジア文化研究』41 J. Edward Kidder, Jr., “Makimuku, Himiko and Yamatai: Solving the Puzzle” M. William Steele, “J. Edward Kidder, Jr. (1922–2014) In Memoriam” Lindsay R. Morrison 「近世における「ふるさと」考」 Jenine L. Heaton 「伊沢修二のアメリカ留学と台湾における教育実践」 林美茂 「和辻倫理学における「人間の学」概念について」 高柳昌久 「中島飛行機三鷹研究所—その稼働期—」 飯島良子 「後漢時代の東観での「校書」と「著作」—担当した学者官僚と対象になった書物—」 菊池秀明 「太平天国の西征開始と南昌攻撃」 道家真平 「江戸の〈政治的リアリズム〉を探して—濱野靖一郎『頼山陽の思想 日本における政治学の誕生』(東京大学出版会、2014年) 書評」(書評)	刊行物(紀要)
2015年4月14日	「聞こえない、見えない嵐：フィリピン・レイテ島における聴覚・視覚障がい被災者への聞き取りから」西田昌之(チェンマイ大学日本研究センター)	アジア研究フォーラム
2015年5月27日	「小林清親の様々な顔」(The Many Faces of Kobayashi Kiyochika: From the Everyday to Political Propaganda) ミリアム・ワトルズ(カリフォルニア大学東京ステーションセンター長、カリフォルニア大学サンタバーバラ校准教授)	アジア研究フォーラム
2015年6月6日	「アジアの宗教における「修養」の諸相」 開会挨拶 古藤友子(国際基督教大学アジア文化研究所所長) 1 「上座部仏教における修養」馬場紀寿(東京大学東洋文化研究所准教授) 2 「道教全真教における修養法—六代宗師尹志平の語録に基づいて」スティーブン・E・エスキルセン(テネシー州立大学チャタヌーガ校、ノースキャラハン特別研究教授) 3 「近代日本における修養と身体文化」吉永進一(舞鶴工業高等専門学校教授)	シンポジウム
2015年9月16日	「近代における日中語彙交流のサイクル」陳力衛(成城大学)	アジア研究フォーラム
2015年10月9日	「聞き手指向の日本語と話し手指向の韓国語」文彰鶴(韓国外国語大学教育大学院)	アジア研究フォーラム

2015年10月30日	「文化の一要因としての言語：宗教と死生観から見る時制の編成」豊田純一（大阪市立大学）	アジア研究フォーラム
2015年11月21日	「第4回飲食文化研究会」	その他 * 飲食文化研究会主催、アジア文化研究所共催。
2015年11月28日	「日本の大学とキリスト教：戦前・戦後の教育改革と宣教師団体」 開会挨拶 古藤友子（国際基督教大学アジア文化研究所所長） 基調講演「風俗史から見た現代日本のキリスト教」井上章一（国際日本文化研究センター副所長） 研究発表： 1 “The Cold War and the Founding of ICU” M. William Steele（国際基督教大学献学60周年記念教授） 2 “Charting a Course for a Catholic University in Prewar Japan: Sophia University, 1913–1945” Kate W. Nakai（上智大学名誉教授） 3 “New Buds, Old Roots: Postwar Higher Education at a Christian Girls’ School” Patricia Sippel（東洋英和女子学院大学教授） 4 「エスター・B. ローズと日本」郷戸夏子（国際基督教大学大学院） 5 「崇貞学園・桜美林学園と清水安三」太田哲男（桜美林大学教授）	シンポジウム * 紀要別冊21号に特集として掲載。
2016年1月29日	「もうひとつのキリスト教文化：東アナトリアのアルメニア建築」篠野志郎（東京工業大学）	アジア研究フォーラム
2016年2月17日	「大切なものはなんですか？ 遺しにくいものですか？ 地域遺産論試論—岩手県遠野市の事例を中心に」山川志典（筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻博士後期課程）	アジア研究フォーラム
2016年3月19日	「第4回飲食文化研究会・形の文化会第64回フォーラム」	その他 * 飲食文化研究会主催、アジア文化研究所共催。
2016年	シンポジウム企画「映像こんぺ ヴォーリズのICU 夢のかげらを集めよう」	その他。日時不明。 * ICU同窓会協賛。
2016年3月30日	『アジア文化研究』42 J. Edward Kidder, Jr., “The Vicissitudes of the Miroku Triad in the Lecture Hall of Yakushiji Temple” 小山修三「キダー博士の蔵書：学者として歩んだ道」	刊行物（紀要）

	<p>大野ロベルト 「[「もののあはれ」史の試み—思想と文学を往還しながら—]</p> <p>戦海燕, “The Bond of Stone and Flower in <i>The Story of The Stone</i>”</p> <p>菊池秀明 「太平天国西征軍の湖北進出と廬州攻略」</p> <p>M. W. Steele, “Roads, Bridges, Tunnels and Empire: Highway Construction and the Great East Asian Co-Prosperty Sphere”</p> <p>大岡響子 「[「私」をつくる記述：満洲における雑誌メディアと自己言及のテキスト]</p> <p>姜海守 「<道義の帝国>論の射程—解放後・戦後における「道義」言説と李退溪—]</p> <p>Nathan Hopson, “Christopher Noss’ <i>Tohoku</i> and “Survey of Rural Fukushima” Protraits of Tohoku a Century before March 11, 2011”</p>	
2016年3月31日	<p>『アジア文化研究』別冊21（日本の大学とキリスト教）</p> <p>Robert Eskildsen, “Imperialism and Religion: Thoughts on the Symposium “Japanese Universities and Christianity””</p> <p>井上章一 「風俗史から見た現代日本のキリスト教」</p> <p>M. William Steele, “The Cold War and the Founding of ICU”</p> <p>太田哲男 「崇貞学園・桜美林学園と清水安三」</p> <p>郷戸夏子 「エスター B. ローズと日本—戦前、戦中、戦後の活動を通して—」</p> <p>梅津順一 「戦後70年、日本のキリスト教大学はどこへ行く」</p> <p>ケイト・ワイルドマン・ナカイ 「戦前日本におけるカトリック系大学のあゆみ—上智大学、1913-1945年—」（発表要旨）</p> <p>パトリシア・シッペル 「新たな萌芽、古きルーツ—あるキリスト教女学校における戦後の高等教育—」（発表要旨）</p>	刊行物（紀要別冊）
2016年4月25日	<p>「歴史的建造物を見る目：ICUの将来を考える」二村悟（工学院大学建築デザイン学科客員研究員）</p>	アジア研究フォーラム
2016年4月27日	<p>「旧日本陸軍の謀略活動を支えた登戸研究所：真相解明のきっかけを作ったのは普通の高校生たちだった」山田朗（明治大学）</p>	<p>公開講演会</p> <p>* ICU 学部科目「歴史学研究方法」特別授業、歴史学デパートメント共催。</p>

2016年5月23日	「国家と文化への帰属意識の航行：日本・ドイツ・アメリカの狭間に生きた一族の150年」(How My Family Navigated National and Cultural Identity Across 150 Years in Japan) Leslie Helm (Editor, Seattle Business Magazine)	アジア研究フォーラム
2016年6月8日	「近現代の文化財建造物／保全と活用」渡邊美樹（足利工業大学）	アジア研究フォーラム
2016年6月24日	「能楽公演「経政」	その他 *キリスト教と文化研究所共催。
2016年6月25日	「近代日韓における朝鮮使節団に対するまなざし」 開会挨拶 高澤紀恵（国際基督教大学アジア文化研究所所長） 研究発表： 1「修信使の日本に対するまなざしの温度差：『日東録』、『東行日録』、『東京日記』をとおして」文淳嬉（仁川大学校日本文化研究所） 2「通信使と修信使の筆談の相違」許敬震（延世大学校国文国語科教授）（韓国語発表、逐語通訳：文淳嬉） 討論 司会：Robert Eskildsen（国際基督教大学） 3「通信使から修信使へ」高橋博巳（金城学院大学名誉教授） 4「朝鮮修信使と明治政府」落合弘樹（明治大学文学部教授） 5「修信使から見た明治日本」河宇鳳（全北大学校人文大学史学科教授） 討論 司会：小島康敬（国際基督教大学）	シンポジウム
2016年7月2日 ～3日	「第20回日本アジア研究学会(ASCJ)」	その他
2016年9月28日	「建築で迎えるICUキャンパスの歩み：中島飛行機本館から理学館まで」加藤雅久（居住技術研究所主宰）	アジア研究フォーラム
2016年10月29日	「ヴォーリズの夢：平和と大学」 写真映像作品表彰式 開会挨拶 高澤紀恵（アジア文化研究所所長） 講演 1「科学、世界大戦、人文学の復活：ICU誕生の背景について」立川明（国際基督教大学名誉教授） 2「ヴォーリズによるキャンパス・デザインの特色」山形政昭（大阪芸術大学教授） 3「ICU本館とディッフェンドルフアー館のデザインとその価値」山崎鯛介（東京工業大学准教授）	シンポジウム *平和研究所共催。

	4「東京空爆と「明日の大学」：2つの大学都市構想の比較から」吉見俊哉（東京大学大学院教授） ディスカッション 司会：高澤紀恵・田仲康博 閉会挨拶 田仲康博	
2016年12月22日	「特別公開講演会「日本伝統芸能の世界一能一」	その他 *キリスト教と文化研究所共催。
2017年2月7日	「人の生き方と建築：ヴォーリズとレイモンド」樺島榮一郎（青山学院大学）	アジア研究フォーラム
2017年2月10日	映画上映「人魚に会える日」& トークイベント	その他
2017年2月13日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界一歌舞伎の舞台美術一」	その他 *キリスト教と文化研究所、授業「日本伝統芸能の世界」共催。
2017年2月24日	「中東諸国における都市計画・発展の歴史について」マイスン・サワン（建築家・都市計画家）	アジア研究フォーラム *紀要44号に掲載。
2017年3月4日	「ICU 建築見学ツアー」	その他 *一般社団法人東京建築アクセスポイント共催。
2017年3月30日	『アジア文化研究』43 菊池秀明「太平天国と湘軍の湖南岳州、湖北武昌と田家鎮をめぐる攻防戦」 小島康敬「柳宗悦の朝鮮への眼差し—その認識の根底にあるもの—」 姜海守「[道義] 言説と植民地朝鮮におけるナショナル・アイデンティティ」 三野和恵「日本植民地支配下台湾における台湾人教会独立論—廖得(1889-1975)の文書宣教に着目して」 M. William Steele, “Constructing the Construction State: The Postwar Revival of the Cement Industry in Japan” Robert Winstanley-Chesters, “Documenting Cultural Landscapes of Mineral Extraction and Developmental Transformation in North Korea” 高崎恵「食に見るキリシタンの他者性：葡萄酒と牛肉をめぐる」 阿曾歩「大槻平泉の『大学』解釈—『大学語脈解』写本の比較検討—」（研究ノート）	刊行物（紀要）

	岸佑「ディッフェンドルファー記念館に関する資料について」(資料紹介) 濱野靖一郎「新たなる「典型」の誕生：高山大毅『近世日本の「礼楽」と「修辞」 荻生徂徠以後の「接人」の制度構想』、東京大学出版会、2016年」(書評)	
2017年4月20日	「Politics and Protest 1840s-1880s：民声の構築」ウィリアム・スティーブル(顧問)	公開講演会 * ICU 学部科目「言語、政治、メディア」共催。
2017年5月9日	「海老名弾正とヤスクニ問題」吉駒明子(恵泉女学園大学名誉教授、ICU 卒業生)	アジア研究フォーラム * シリーズ「ICUの学びとアジアの平和」第1回。
2017年5月11日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界—能—」	その他 * キリスト教と文化研究所、授業「日本伝統芸能の世界」共催。
2017年5月28日	映画上映「ダムタイプ《S/N》」& トークイベント	その他
2017年6月1日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界—義太夫節—」	その他 * キリスト教と文化研究所、授業「日本伝統芸能の世界」共催。
2017年6月15日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界—歌舞伎—」	その他 * キリスト教と文化研究所、授業「日本伝統芸能の世界」共催。
2017年6月16日	「東洋医学の挑戦『黄帝内経』の世界」松田博公(日本伝統鍼灸学会、ジャーナリスト、ICU 卒業生)	アジア研究フォーラム * シリーズ「ICUの学びとアジアの平和」第2回。
2017年10月3日	「ICUで学んだこと、タイの人たちが教えてくれたこと」浅井重郎(タイ国農業指導者、ICU 卒業生)	アジア研究フォーラム * シリーズ「ICUの学びとアジアの平和」第3回。紀要45号に掲載。

2017年11月24日 ～26日	<p>「二国間共同セミナー「身分制社会における身分と周縁—16世紀～19世紀における日本とフランス—」</p> <p>11月24日（金）</p> <p>問題提起 高澤紀恵、ギヨーム・カレ</p> <p>セッションⅠ 身分社会 規範と実践の間</p> <p>1「貴族身分・「家」・領主所領（16-18世紀）」エリ・アダッド (CNRS)</p> <p>2「幕臣団における家と身分」（東京大学）牧原成征 コメント 佐々木真（駒沢大学）</p> <p>セッションⅡ 女性の財産分与と家相続</p> <p>1「妻の身分・相続人の身分—女性と国王世襲財産」フ ァニー・コッサンディ (EHESS)</p> <p>2「武家の家と女性の財産分与—徳川家康の側室を素材 として」吉田ゆり子（東京外国語大学） コメント 塚田孝（大阪市立大学）</p> <p>11月25日（土）</p> <p>セッションⅢ 身分社会と「知」</p> <p>1「知識が権力に繋がる時—オランダ通詞の身分を考え る」アニク・ホリウチ（パリ第七大学）</p> <p>2「啓蒙と軍隊社会—七年戦争後の将校・兵士・脱走兵」 芹生尚子（東京外国語大学） コメント 小野将（東京大学）</p> <p>セッションⅣ 身分社会と「書くこと」</p> <p>1「近世フランス村落の「書かれたもの」と身分—希 有なるエクリチュール」ダイナ・リバル (EHESS)</p> <p>2「人証」か「文証」か？入会山争論の内済と裁許」後 藤雅知（立教大学） コメント 吉田伸之（東京大学）</p> <p>セッションⅤ 総括討論</p> <p>森下徹（山口大学）、フランソワ＝ジョセフ・ルッジウ （パリ第四大学）</p> <p>11月26日（日）</p> <p>ジュニア・セッション 司会 松本礼子（一橋大学）、ジ ョン・ポーター（東京外国語大学）</p> <p>1 “The special personnel system introduced into naval officers of the Tokugawa Shogunate at the end of Edo period” 水上たかね（東京大学）</p> <p>2 “The relations between the Satsuma domain and Osaka merchants in the latter Edo period” 福元啓介（東 京大学）</p>	シンポジウム
---------------------	---	--------

	<p>3 “The Structure of City Ward Administration in Early Modern Osaka: The Example of Official Lodgings” 吳偉華（大阪市立大学）</p> <p>4 “Consideration of Reforming the Educational System in Sendai-han’s school, Yōken-dō: Through The Educational Thought of Ōtsuki Heisen” 阿曾歩（ICU）</p> <p>5 “From the Wars of Religion to the Catholic Reformation: The Change of the Relationship between Henri IV and Catholics” 桑子亮（東京大学）</p> <p>6 “The formation of aristocrat of Louis Turquet de Mayerne” 谷田利文（京都大学）</p>	
<p>2017年12月9日</p>	<p>「歴史の知恵をどう活かすか？：21世紀の日本がアジアと共生をめざすための歴史研究」</p> <p>開会挨拶 岡田伸一（JFE21世紀財団専務理事・JFEホールディングス（株）代表取締役副社長）</p> <p>趣旨説明 菊池秀明（ICUアジア文化研究所所長）</p> <p>1 「日系中国語新聞『順天時報』と近代東アジアにおけるナショナリズムの相剋」 青山治世（亜細亜大学国際関係学部国際関係学科准教授）</p> <p>2 「1937年南京事件に先行する南京空襲（8～12月）の時空間復元」 片山剛（大阪大学大学院文学研究科文化形態論専攻教授）</p> <p>3 「中国における家族の近現代史的展開」 川口幸大（東北大学大学院文学研究科人文科専攻准教授）</p> <p>4 「大清帝国の多民族統治と八旗制—広域支配の制度と構造」 杉山清彦（東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻准教授）</p> <p>5 「ブータン王国の国民総幸福（GNH）の歴史的考察」 真崎克彦（甲南大学 マネジメント創造学部マネジメント創造学科教授）</p> <p>6 「富山妙子の画家人生と作品世界—ポストコロニアリズムの視点から」 真鍋祐子（東京大学東洋文化研究所教授）</p> <p>7 「近世西アジア社会における「異教徒」と宗教的社会変容」 守川知子（東京大学大学院人文社会系研究科アジア史専攻准教授）</p> <p>総合討論「未来へ向けたアジアとの共生に歴史の知恵をどう活かすべきか？」</p> <p>閉会挨拶 梅村坦（中央大学名誉教授 JFE21世紀財団アジア歴史研究助成審査委員長）</p>	<p>シンポジウム</p> <p>*公益財団法人 JFE21世紀財団共催。</p>

2017年12月19日	「湯浅八郎先生との出会いから」安藤博文（元国連人口基金事務次長、ICU 卒業生）	アジア研究フォーラム *シリーズ「ICUの学びとアジアの平和」第4回。
2018年1月18日	「中国的商事制度：その展望」斯波義信（東洋文庫文庫長）	アジア研究フォーラム
2018年2月24日	<p>「岐路に立つ近代名古屋：米騒動絵巻からみる都市と文化」 開会挨拶および趣旨説明 菊池秀明（ICU アジア文化研究所所長）、Robert Eskildsen (Senior Associate Professor, ICU)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「米騒動絵巻—その構造と意義—」 Robert Eskildsen (ICU) 2 ICU 大学院生報告 <ol style="list-style-type: none"> a 「Just Violence? Depictions of Violence in the Rice Riots Scroll Vis-à-vis Accounts of Violence in the Newspaper」 Milo Barisof b 「The Depiction and Roles of Women in “Rice Riots Scroll”」 Yanagida Yoko c 「Manipulation of Space in the Rice Riots Scrolls」 Michael Tercero d 「Machiya and the “Rice Riots Scroll”」 Tanaka Netsuke 2 「Unrest in Japanese Arts and Media: From the standpoint of the Kome Sōdō Emaki (1950)」 Miriam Wattles (Associate Professor, University of California, Santa Barbara) 3 「近代都市を描く視点—米騒動絵巻は何を描いたのか？」 木村慎平（名古屋市蓬左文庫学芸員） <p>Discussion 司会：神谷浩（名古屋市立博物館副館長） 総合討論 司会：Robert Eskildsen (ICU)</p>	シンポジウム
2018年3月30日	『アジア文化研究』44 M. William Steele, “Postcards from Hell: Glimpses of the Great Kanto Earthquake” Obara Mika, “The Sacrifices behind the “Success” of Saiban-in Seido (Quasi-Jury System)” 松中完二「ソシユール言語学と翻訳—小林英夫と時枝誠記の邂逅—」 宇野彩子「ガーデンディーと民衆：声なき声に耳を傾けて」	刊行物（紀要）

	<p>矢島愛子「流派と「茶道団体」を横断する：若手社会人茶人と「伝統」の共存」</p> <p>Kishi Yu, “The Architectural Photo Modern in 1930s Japan” (研究ノート)</p> <p>Maysoun SAWAAN, “History of Urban Planning and Development in the Middle East as a Context of Syrian Post-war Re-construction” (研究ノート)</p> <p>井堂有子「創られる「われらの糧」－エジプトにおけるパン配給制度に関する一考察」(研究ノート)</p> <p>吉岡史郎「「脱・テニミュ史観」を目指して－『サクラ大戦』に見る2.5次元ミュージカルの新たな可能性」(研究ノート)</p>	
2018年5月10日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界一能一」	その他 *キリスト教と文化研究所と共催。
2018年5月15日	「長清子先生に学び、アジアと関わる」桑ヶ谷森男(元ICU高校校長)	アジア研究フォーラム
2018年5月17日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界一歌舞伎一」	その他 *キリスト教と文化研究所と共催。
2018年6月2日	<p>「“ここ”の歴史へ：幻のジェットエンジン、語る」</p> <p>趣旨説明 高澤紀恵(ICU)、北河大次郎(東京文化財研究所)</p> <p>第一部：幻のジェットエンジンをめぐって</p> <p>1「中島飛行機三鷹研究所とジェットエンジン部品の『発見』」高柳昌久(国際基督教大学高校)</p> <p>2「東京文化財研究所におけるジェットエンジン部品の調査結果」長島宏行(日本航空協会)</p> <p>3「ジェットエンジン部品の文化財としての活用」荻田重賀(日本航空協会)</p> <p>学生による映像作品上映「あのときの記憶、わたしたちのキャンパス」</p> <p>第二部：ジェットエンジンから“ここ”の歴史へ</p> <p>1「戦争を「経験」にする」奥泉光(小説家、近畿大学)</p> <p>2「航空戦としての太平洋戦争」加藤陽子(東京大学)</p> <p>3「“ここ”の歴史の地層を掘るために－三多摩の小平・田無の歴史を参照する－」大門正克(横浜国立大学)</p> <p>総括質疑</p>	シンポジウム *平和研究所、東京文化財研究所共催。
2018年6月7日	「特別公開講演会「日本伝統芸能の世界一義太夫一」」	その他 *キリスト教と文化研究所と共催。

2018年8月13日 ～17日	「長(武田)清子先生の蔵書整理 於:長清子先生宅」	その他
2018年9月8日	「長(武田)清子先生を偲ぶ会」	その他
2018年9月15日	「名古屋市立工業高校飛行機研究会見学(生徒7名、教諭2名)」	その他
2018年10月12日	「日本航空協会関係者のジェットエンジン部品見学」	その他
2018年11月24日	「アジアと向き合うキリスト者:その歴史と未来—武田(長)清子を記念して—」 趣旨説明 菊池秀明(ICUアジア文化研究所所長) 1「19世紀末中国における知識人クリスチャンのキリスト教観:儒教的価値観との対立と調和」倉田明子(東京外国語大学) 2「民国初年の太平天国イメージ」土肥歩(明治学院大学) 3「歴史を問い歴史に問われるキリスト教:宣教師ムーディと日本植民地下の台湾基督長老教会」三野和恵(エディンバラ大学) 4「坂本直寛の日朝関係観」吉馴明子(恵泉女学園大学) 5「日中YWCAの国際主義・ナショナリズム・ジェンダー」石川照子(大妻女子大学) 6「満洲国」における宗教統制とキリスト教学校」渡辺祐子(明治学院大学) 7「武田清子と中国教会—丁光訓主教との関係を中心に」松谷暉介(日本基督教団筑紫教会) 8「米国沖縄統治時代の土地問題への抗議:米国メソジスト教会宣教師の和解の神学」宮城幹夫(ボストン大学) 総括討論 司会 菊池秀明(ICUアジア文化研究所所長)	シンポジウム
2019年1月15日	「人々をつなげるゲーム:『紅樓夢』における酒令についての考察」戦海燕(研究員)	アジア研究フォーラム
2019年2月14日	「アジア太平洋戦争中にICUにも爆弾がおちた? 1945年4月の夜間空襲について」高柳昌久、牛田守彦(ICU高校、法政大学中学高等学校)	アジア研究フォーラム
2019年3月30日	『アジア文化研究』45 加藤恵津子「個人化される「方法としてのアジア」:シンガポールの日本人、そしてシンガポール人は「アジア人」か」 斉藤みか「かぐや姫の表現—奈良絵本・絵巻『竹取物語』と現代版「かぐや姫」との乖離—」	刊行物(紀要)

	<p>Patricia Sippel, “Walking for Pleasure: Murao Karyo’s Day Trips in Edo and Beyond” (研究ノート)</p> <p>M. William Steele, “The Man who Walked 40 Million Steps: Inō Tadataka and the Modern Mapping of Japan” (研究ノート)</p> <p>Martin Collcutt, “The Iwakura Embassy and the Discovery of the Earth’s Natural Environment” (研究ノート)</p> <p>宇野彩子「現代インドにおけるガーデンイー思想—スワラージピートの実験」(研究ノート)</p> <p>金洵「ドミトリエフスキーによる『『象胥紀聞』小田幾五郎』翻訳本、その影響」(研究ノート)</p> <p>浅井重郎「ICUで学んだこと タイの人たちが教えてくれたこと」(講演)</p>	
2019年4月23日	「東京理科大学建築見学ツアー」	その他
2019年5月9日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界—能—」	その他 *キリスト教と文化研究所と共催。
2019年5月22日	「帝國的省察：日本人プロテスタント女性の帝国日本に対するまなざし」ギャレットL.ワシントン（マサチューセッツ大学アマースト校）	公開講演
2019年5月27日	「日本語の長母音と二重母音」ティモシーJ.バンス（小松大学）	アジア研究フォーラム
2019年5月30日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界—落語—」	その他 *キリスト教と文化研究所と共催。
2019年6月6日	特別公開講演会「日本伝統芸能の世界—義太夫—」	その他 *キリスト教と文化研究所と共催。
2019年6月15日	<p>「1950年代のヴォーリズ：ICUの建築をめぐって」</p> <p>趣旨説明および司会：那須敬（ICU）、山形政昭（大阪芸術大学）</p> <p>講演：</p> <p>1「ヴォーリズとICU：1950年代の挑戦」高澤紀恵（法政大学）</p> <p>2「ヴォーリズののこしたもの：ICU本館案の変遷」岸佑（研究所助手）</p> <p>見学会：</p> <p>ディッフエンドルフアー記念館東棟、シーベリーチャペル、大学本館</p>	<p>シンポジウム</p> <p>*ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク、アジア文化研究所、平和研究所主催。</p>

	<p>説明：山崎鯛介（東京工業大学） 案内人：樺島榮一郎（青山学院大学）、岸佑、山崎鯛介、 山形政昭 交流会</p>	
2019年6月29日	「武蔵野大学建築見学ツアー」	その他
2019年10月15日	「香港どうなったの？キーワード、シンボルから見る反逃亡犯条例運動のこれまで」小栗宏太（研究所助手）	公開講演
2019年11月30日	<p>「日本における都市紛争とモダニティー：米騒動絵巻を鑑みて」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「米騒動絵巻の歴史的意義」 Robert Eskildsen（国際基督教大学） 2 「米騒動絵巻と近代都市名古屋」 木村慎平（名古屋城総合事務所学芸員） 3 「米騒動絵巻：絵画史の視点から」 吉田俊英（四日市市立博物館館長） 4 「Aesthetic Perception and Social Domination: A Reading of Sakurai's Rice Riot Scroll」 Max Ward（ミドルベリー大学） 5 「高増径草作品『関東大震災絵巻』を考えて」 北原糸子（神奈川大学非文字資料研究センター） <p>パネルディスカッション：「『米騒動絵巻』と『関東大震災絵巻』を比較して」 討論者：水谷イズル他</p>	シンポジウム
2019年12月7日	<p>「長崎大学・国際基督教大学共同研究シンポジウム「平和の翼と波を広げるー現在・過去・未来ー」 開会挨拶：海蔵寺大成（ICU） 基調講演：M. ウィリアム・ステイール 〈現在の課題〉 グローカリゼーション研究と持続可能な開発 葉柳和則 / 毛利勝彦 / 高松香奈 〈過去の記憶〉 長崎歴史文化研究と世界遺産 才津祐美子 / 高崎恵 / マーク・ウィリアムズ 〈未来へのシナリオ〉 平和研究と軍縮教育 中村桂子 / 青木浩幸 〈総括講演〉 首藤明和</p>	<p>シンポジウム * 国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科、アジア文化研究所、平和研究所主催。 長崎大学多文化社会学部、大学院多文化社会学研究科、核兵器廃絶研究センター共催。</p>
2019年12月10日	「外交史料への誘い」柳下宙子（元外務省外交史料館課長補佐）	アジア研究フォーラム
2019年12月13日	「痕跡・事件・証言：第十六師団歩兵第三十三連隊中尉天野郷三在南京」孫江（南京大学、国際日本文化研究センター外国人研究員）	アジア研究フォーラム

2020年1月27日	第1部 映画上映「みゃーくふつの未来—消えゆく声、生まれる声—」 第2部 講演「iPhoneで撮ることと、『ドキュメンタリー』を作ることの、類似と差異」服部かつゆき（映像作家）	アジア研究フォーラム
2020年2月10日	「紀貫之の〈なごり〉としての日本文学」大野ロベルト（日本社会事業大学専任講師）	アジア研究フォーラム
2020年3月30日	『アジア文化研究』46 Yutaka Sato, “Copula Functioning as a Light Verb in Korean: Aspectual Prominence and Subject Selection” 菊池秀明「暴力革命は肯定されるか？：南京占領時期の太平天国の宗教に対するヨーロッパ人の認識」 林美茂、黄世軍「もののあはれ：国体のもう一つの表現形式」 斉藤みか「『竹取物語』の「帝」の変遷—原典における意義と受容史の中の帝像—」 Haiyan Zhan, “The Chemistry of Wine and Poetry: Drinking Games in <i>The Story of The Stone</i> ” Mika Obara-Minnitt, “Life Imprisonment without Parole: Alternative Punishment to the Death Penalty in Japan or a Hollow Choice?” 藤田ラウンド幸世「アジアの文脈における国際結婚家族とバイリンガル教育：韓国とタイで親が実践する日本語サークルの事例からの考察」（研究ノート） 小栗宏太「人類学者は世界を救えるか：ライラ・アブー＝ルゴド『ムスリム女性に救援は必要か』を読む」（書評）	刊行物（紀要）
2020年6月13日	「日本文化にみる〈病いと闘い〉」 1「近世における流行病と蘭学者の奮闘」阿曾歩（研究所助手） 2「平安文学における病と死」斉藤みか（研究所助手）	アジア研究フォーラム
2020年6月9日	「琉球からの声を聴く：下地イサムさんとぬかあ～ぬか語り合う」下地イサム（宮古島出身歌手）	アジア研究フォーラム *紀要47号に報告掲載。
2020年10月27日	「琉球諸語の絵本出版プロジェクト：沖永良部島、多良間島、竹富島、与那国島の昔話のドキュメンテーション」 山田真寛（国立国語研究所）	アジア研究フォーラム
2020年11月9日	「聾啞史：聾啞語彙史、聾啞図像学、聾啞教育史から見えてくるもの」末森明夫（国立研究開発法人産業技術総合研究所）	アジア研究フォーラム

2020年11月21日	<p>「いま問われるアジア共生の道：アジア歴史研究の視点から」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「鶴見和子の近代論の形成」 朱琳（中部大学高等学術研究所） 2 「英国のエージェント H・P・シャストリー—アジア主義者の監視と『大亜雑誌』」 橋本順光（大阪大学） 3 「ゴムからアブラヤシへ・マレーシアに見る脱植民地過程の連続性・不連続性」 小井川広志（関西大学） 4 「イランにおける普遍史の変貌とイラン人意識」 大塚修（東京大学） 5 「ディアスポリック・チャイニーズのリテラシーとオラリティ」 宮原暁（大阪大学） 6 「中国の対台湾統一戦線工作の形成と発展」 福田円（法政大学） 	<p>シンポジウム * ICU アジア文化研究所・JFE21 世紀財団共催シンポジウム。</p>
2020年11月28日	<p>「中国周辺地域の社会統合と文化摩擦」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「清朝期のユーラシア世界と宗教的統合—18世紀、乾隆帝の十全武功と関羽の『顕聖』—」 太田出（京都大学） 2 「日本統治時代の台湾における相撲をめぐる考察—『興行』と『国技』—」 胎中千鶴（目白大学） 3 「中華人民共和国成立後のプロテスタントにおける中国社会・文化との接合と政治—『三自』から『中国化』まで」 村上志保（明治学院大学キリスト教研究所） 4 「社会主義の洗礼を受けたムスリム—現代中国の社会統合と宗教界」 澤井充生（東京都立大学） 5 「返還後香港の大衆音楽にみる社会統合と摩擦、抵抗」 小栗宏太（東京外国語大学大学院、研究所助手） 	<p>シンポジウム</p>
2021年3月30日	<p>『アジア文化研究』47</p> <p>菊池秀明「太平天国の南京統治と江南大営」</p> <p>M. William Steele, “From a Tiny Matchstick Does a Mighty Forest Fall: Hokkaido Wood Products in Japan’s Modern Economic Development”</p> <p>吉駒明子「北海道開拓殖民の夢と実情」</p> <p>松中完二「現代言語学における術語の揺れについて—langue、langage、parole を基に—」</p> <p>Mika Obara-Minnitt, “Domestic Debate on the Death Penalty in Contemporary Japan: Voices of the Public Reconsidered”</p>	<p>刊行物（紀要）</p>

	<p>姜海守「[皇道に醇化融合したる儒教]としての[皇道儒学(教)]言説—大東文化学院と朝鮮経学院との連環—」</p> <p>西田昌之「木下杢太郎のエジプト旅行—東西文明の源泉の探究へ—」(研究ノート)</p> <p>藤田ラウンド幸世「アジア・フォーラム「琉球からの声を聴く：下地イサムさんとぬかあ～ぬか語り合う」ウェビナー」(報告)</p> <p>Godō Natsuko, “Diary of Esther B. Rhoads” (資料紹介)</p>	
2021年5月20日	<p>「琉球からの声を聴く2 沖縄のアメラジアン：アメラジアンスクールの過去・現在・未来」野入直美</p>	<p>その他</p> <p>* ICU 学部科目「言語と社会」(担当：藤田ラウンド幸世)、日本国際基督教大学財団主催、アジア文化研究所協力。</p>
2021年6月8日	<p>「琉球からの声を聴く2 宮古島を唄う、ミヤークフツで唄う：與那城美和さんを迎えてのゆんたく」與那城美和</p>	<p>その他</p> <p>* ICU 学部科目「言語と社会」(担当：藤田ラウンド幸世)、日本国際基督教大学財団主催、アジア文化研究所協力。</p>
2021年8月7日	<p>「ミャンマーと香港：アジアのデモクラシーに未来はあるか」根本敬、倉田徹(上智大学、立教大学)</p>	<p>アジア研究フォーラム</p>
2021年9月20日	<p>「知られざる電子音響音楽の世界：日本における歴史と現在」仲條大亮(研究員)</p>	<p>アジア研究フォーラム</p>
2021年11月21日	<p>「コロナ禍から考える日本の風呂文化」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1「寺院の温室と施浴」齊藤みか(ICU アジア文化研究所助手・研究員) 2「江戸時代における湯治と蘭学」阿曾歩(研究所助手・研究員) 3「コロナ禍における入浴の医学的意義」早坂信哉(東京都市大学人間科学部学部長・教授) 4「コロナ禍と温浴ビジネスの行方」望月義尚(株式会社アクトパス代表取締役・温浴コンサルタント) <p>ディスカッション 司会：山本妙子(ICU 助教)</p>	<p>シンポジウム</p>

参考文献：『アジア文化研究』1号～48号活動報告

「ICU アジア文化研究所年譜(1958-1998)」『アジア文化研究別冊』9号、2000年、
xiii-xviii

作成：小栗宏太

作成補助：伊東弘樹、三野和恵

注記：・所属は全て活動当時（肩書のみ所属表記はICUアジア文化研究所関係者のもの）

・分類や共催・協賛表記は当時の活動報告の表現に準拠した